

**令和7年度  
子供の芸術文化体験に関する  
国内外事例調査**

**報告書**

**令和8年3月  
公益財団法人東京都歴史文化財団  
アーツカウンシル東京**



# 目次

第1章 調査概要 .....	1
1. 調査の目的 .....	1
2. 調査内容.....	1
第2章 子供への芸術文化体験の機会創出に関する事例 .....	3
1. 調査対象事例一覧 .....	3
2. 国内事例調査結果 .....	4
3. 海外事例調査結果 .....	33
第3章 まとめ.....	47
1. 事例調査から得られた結果.....	47
2. 今後に期待される追加調査について.....	53
資料編 .....	55
1. 調査対象事例一覧 .....	55
2. 調査対象事例 ロングリスト.....	57



# 第1章 調査概要

## 1. 調査の目的

本調査の委託元である公益財団法人東京都歴史文化財団(以下、「財団」という。)は東京都の政策連携団体及び都立文化施設の指定管理者として、東京都の課題や実態に即した事業展開と施設運営を目指している。本調査では、子供(主に0歳から18歳未満)への芸術文化体験の機会創出に関わる国内外の先進的な事例調査を行い、調査データを東京都と財団の中長期的な施策において活用することを目的とする。

## 2. 調査内容

子供(0歳から18歳未満)を主な対象とした芸術文化体験の機会創出に関する国内外の先進的な事例について調査を実施する。

### (1) 調査の実施方法

- ・ 調査対象に関するウェブサイト、論文、文献等を使用したデスク調査を実施する。
- ・ 公開情報のみでは判明しない調査項目や、情報の報告書掲載可否の確認に際しては、情報元に対し、問合せ等を行った。

### (2) 調査対象

以下の2点の観点に基づき、2020年以降に活動が確認される取組を対象とした。

また、コロナ禍等、特別な状況下を背景とした事例は調査対象から除く。

(ア) あらゆる子供たちに向けた芸術文化体験に関する取組 特に、経済的問題や地域の地理的・環境的な影響等で日ごろから体験機会にアクセスが難しいと言われる子供に向けた先進事例。
--

(イ) 連携による取組 行政や民間企業、NPO 法人、学校など、多様な主体のネットワーク構築による体験機会創出の先進事例。
--

また、本調査での「芸術文化」の分野は以下のとおりとする。

芸術文化全般※／音楽／美術／演劇・ミュージカル／ダンス・舞踊／伝統文化・芸能／映画／アニメ／外国文化(語学・英会話を除く)／書道・習字／茶道・華道／料理／将棋・囲碁／科学・プログラミング等
--

※関係分野が複数にまたがる取組では、事例紹介では主要と思われる分野を複数記載するか、取組が広範に及ぶ場合は分野を「芸術文化全般」と記載した。

※上記分野に直接的に該当するとは言い難いものの、体験機会の格差を解消するための文化等体験の提供に関わる取組を包含する分野として、「体験全般」を設定した。

### (3) 調査の進め方

基礎調査を行い詳細調査の対象候補となる事例を、海外事例 10 件以上、国内事例 20 件以上選定したロングリストを作成する。ロングリストの内容をもとに、財団・受託者にて詳細調査の対象とする事例を決定の上、調査項目を記載した報告書を作成する。

#### (4) 詳細調査の対象件数

国内事例は5～10件程度とする。

海外事例は合計4件程度(内訳に下記の事例が含まれるものとする)。

- ・ 文化政策の一環として子供向け文化事業を行う国もしくは都市の事例
- ・ 東京都に類似する文化圏・環境にある、国もしくは都市の事例

#### (5) 調査項目

- ・ 基礎情報(名称、実施期間、実施場所、対象分野、体験の仕方、主な対象者、事例の特徴等)
- ・ 主催者及び実施にかかわる団体の情報、実施スキーム
- ・ 実施内容(取組概要、取組開始の経緯、取組効果等)
- ・ 事業に対する評価やレポート※情報があるものについて記載
- ・ 情報の出典

#### (6) 調査実施期間

2025年12月～2026年3月

#### (7) 注意事項

- ・ 各調査対象事例の記載内容に関し、用いる用語の表記は、参考文献に用いた資料で使用されている表現を優先した。そのため、同一の用語であっても「子供」、「子ども」、「こども」のように、事例間で表現が統一されていない箇所がある。なお、調査概要、まとめでは「子供」を使用する。
- ・ 本報告書に掲載しているウェブサイト URL、掲載情報は、最終確認日時点の情報に基づくものである。

#### (8) 調査実施機関

三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社(以下、「MURC」という)

## 第2章 子供への芸術文化体験の機会創出に関する事例

### 1. 調査対象事例一覧

本調査で詳細調査の対象とした事例は以下のとおりである。なお、事例の掲載順序は「第1章1. (2) 調査対象」記載の事例の分野順とした。

#### ■国内事例(10事例)

主催者	取組名称
長野市	長野市子どもの体験・学び応援事業「みらいハッ！ケン」プロジェクト
一般社団法人 Ridilover	子どもの体験格差解消プロジェクト
名古屋市、株式会社 Sonoligo(ソリゴ)	次世代に向けた文化体験提供プロジェクト
公益財団法人三井住友海上文化財団	三井住友海上文化財団 ときめくひととき
株式会社 JTB コミュニケーションデザイン	こころ羽(は)プロジェクト
仙台市、公益財団法人仙台市市民文化事業団	こどもの創造性を育むアウトリーチ事業
NPO 法人 芸術家と子どもたち	ASIAS(エイジマス Artist's Studio In A School )
京都:Re-Search 実行委員会	京都府地域文化創造促進事業
認定 NPO 法人チャリティーサンタ	シェアシネマ
NPO 法人アイダオ、NPO 法人 上田映劇	うえだ子どもシネマクラブ

#### ■海外事例(4事例)

主催者	取組名称
Barbican Centre	Barbican Centre による子供・若者向けのプログラム
パリ市	L'Art pour grandir
ソウル市	文化弱者との同行事業
スウェーデン文化学校評議会、文化学校	Kulturskolerådet(文化学校評議会)と Kulturskola(文化学校)による子供への芸術文化体験の提供

## 2. 国内事例調査結果

### (1) 長野市子どもの体験・学び応援事業「みらいハッ！ケン」プロジェクト

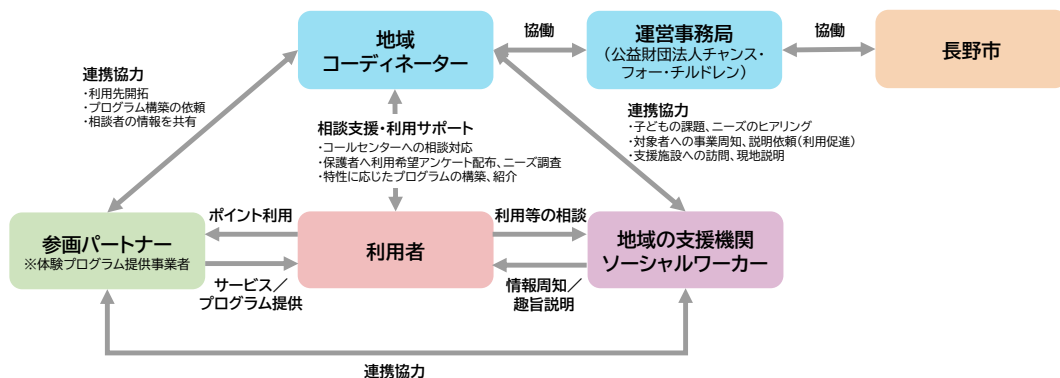
#### 基礎情報

取組実施期間: 通年  
 取組実施場所: 長野市  
 取組分野: 芸術文化全般  
 体験の仕方: 単発イベント、複数回・一定期間にわたるイベント、長期のワークショップ・習い事  
 ※体験するイベントは利用者が決定。  
 主な対象者: 小・中学生向け  
 事例の特徴: 所得制限なく市内在住の全小中学生を対象、官民の連携、体験利用を含めた支援、地域との協働、地域コーディネーターによる活動体験の橋渡し

#### 主催者及び実施にかかわる団体の情報

主催者: 長野市  
 運営事務局: 公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン、株式会社ながのアド・ビューロ、地域コーディネーター  
 参画パートナー: 子ども向けの習い事、体験プログラムを長野市で提供している事業者等

#### 取組スキーム



出所: 「令和6年度 長野市子どもの体験・学び応援事業 実施報告書 (概要版)」を基に MURC にて作成

#### 取組概要

長野市で、市内居住の小中学生を対象に、市の登録を受けたスポーツや文化芸術、自然体験、各種教室などの参加費、入会費、月謝等に利用することができるポイント(30,000円相当)を、所得制限を設けずに配布する取組。

体験を通じて、子どもたちが自分の好きな活動を見つけ、自己肯定感を育みながら成長できる環境を提供することを目的としている。本事業では体験活動を必要とする子どもたちと、地域の活動をつなぐ役割を担う地域コーディネーターを配置しており、利用者や参画パートナーは体験活動の利用先やプログラム内容等の相談が可能である。

また、本事業に関連したイベントも、地域コーディネーター等により開催されており、その一つとして、様々な体験が市内各地に広がっていることから交通手段などの問題で希望のプログラムに参加できない子どもや、インターネットでの申請が慣れていないために利用登録が難しい参画パートナーに対し、まとめて多様な体験ができる環境をつくるために始められたイベント「こどものモール」がある(体験の支払いにはポイントの利用が可能)。

## 【専用サイト】



出所：長野市「長野市子どもの体験・学び応援事業」

## 【こどものモール リーフレット】



出所：市民協働サポートセンター まんまる  
【合同会社キキ主催】こどものモール

## 取組開始の経緯

長野オリンピックで「子どもたちの参加」を掲げ、大会の観戦や選手との交流、一校一国運動などの本物の体験を通じて子どもが学ぶ取組を推進してきたことを背景に、形を変えて子どもの成長につながる上質な体験や学びの機会を提供する「長野らしい」支援として実施している。

2023年度に経済産業省「未来の教室」実証事業として、公益社団法人チャンス・フォー・チルドレンが長野市を実証フィールドとしてモデル事業を実施。2024年度より、長野市の独自事業として、長野市の全小・中学生を対象に本格的に事業が開始している。

## 取組効果等

### ○取組効果

「令和6年度事業実施報告書（長野市子どもの体験・学び応援事業について）」によると、令和6年度の利用登録の状況・ポイントの利用状況は下記の通りである。

- ・ 対象者 27,532 名のうち、22,423 名(81.4%)が利用登録済み
- ・ うち、18,707 名(67.9%)がポイント利用済み
- ・ 体験プログラムで利用が多かったジャンルは上位から「アート・創作(7,287 件)」、「ウィンタースポーツ(2,643 件)」、「科学・プログラミング(2,271 件)」
- ・ 習い事サービスで利用が多かったジャンルは上位から「球技(10,065 件)」、「学習(5,112 件)」、「外国文化・外国語会話(4,601 件)」

「長野県文化芸術情報発信サイト」によると、事業開始から3年目を迎えて下記のような効果も確認されているという。

- ・ パートナー同士の交流会を通して各自の特技や困りごとを共有したことで新たなプログラムが生まれている
- ・ 体験プログラムを網羅した検索サイトに登録している事業者の紹介ページなどを通じて子どもたちが農業体験や味噌・おやき作りなどの地域の伝統文化を知ったり、市街地と山間部の交流が生まれたりしている

### ○アンケート情報

アンケートでは、その他下記のようなデータが挙げられている。

- ・ 未利用者(n=175)が利用しなかった理由は「子どもが行きたいと思う体験がなかった」が46.0%、「保護者が忙しかった」が34.7%、「送迎できなかった」が18.8%
- ・ 改善点としては「ポイント利用方法の簡素化」が31.9%、「一回で完結する体験」が23.6%
- ・ 開催場所への要望は「駐車場があるところ」が49.9%、「学区内」が45.7%

これらを踏まえると、体験の多様化や利用方法の簡素化に加え、移動・交通手段等の物理的

アクセスの面での格差解消が課題となっていることが伺える。

こうした交通手段などの問題で希望のプログラムに参加できない子どもに対し、まとまって多様な体験ができる環境をつくるために、子どもたちがものづくり体験を楽しむマルシェイベント「こどものモール」が実施されている。県立図書館や隣接する若里公演、ホクト文化ホールなどで実施され、好評を得ている。

また、障害特性のある子どもの利用を促進するため、保護者からの聞き取りを行った結果を反映し、2025年8月には、参加者を障害のある子どもに限定した「こどものモール」が開催されている。

### 事業に対する評価やレポート

当該事業対象者へのアンケート(※)によると、事業を利用してよかった点は「子どもの教育・体験にかかる費用を削減できた」が71.8%(n=1,150)であり、保護者の経済負担軽減につながっていることがわかる。

※アンケートは令和6年度事業の対象者(23,532名)を対象に実施。回答数は1,325。

### 情報の出典

長野市「長野市子どもの体験・学び応援事業」

(<https://nagano-hakken.jp/>) (2026.2.16 最終閲覧)

長野市「令和6年度 長野市子どもの体験・学び応援事業 実施報告書(概要版)」

([https://www.city.nagano.nagano.jp/documents/14346/r6\\_houkoku\\_hp.pdf](https://www.city.nagano.nagano.jp/documents/14346/r6_houkoku_hp.pdf)) (2026.2.16 最終閲覧)

長野市「子どもの体験・学び応援事業「みらいハッ!ケン」プロジェクト 専用サイト」

(<https://www.city.nagano.nagano.jp/n115500/contents/p006162.html>) (2026.2.16 最終閲覧)

一般社団法人長野県文化振興事業団アーツカウンシル推進局「長野県文化芸術情報発信サイト Culture Nagano 子どもたちの“体験・学び”の新たなかたち 「みらいハッ!ケン」プロジェクトが描く未来」(2025.12.05)

(<https://www.culture.nagano.jp/special/13558/>) (2026.2.18 最終閲覧)

市民協働サポートセンター まんまる「【合同会社キキ主催】こどものモール」

(<https://www.nagano-shimin.net/2026/02/12/202602121126/>) (2026.2.18 最終閲覧)

## (2) 子どもの体験格差解消プロジェクト

### 基礎情報

取組実施期間:不定期※休暇時期に併せて実施

取組実施場所:日本全国

取組分野:芸術文化全般

体験の仕方:宿泊を含む単発の旅行体験

主な対象者:小学生～高校生向け

事例の特徴:体験格差解消(宿泊野外体験)、中学生～高校生向け、プログラムの試行と調査研究を一体として実施

### 主催者及び実施にかかわる団体の情報

事務局:一般社団法人 Ridilover

参画企業・団体:アソビュー株式会社、慶應義塾大学総合政策学部中室牧子教授、花まる学習塾(株式会社こうゆう)

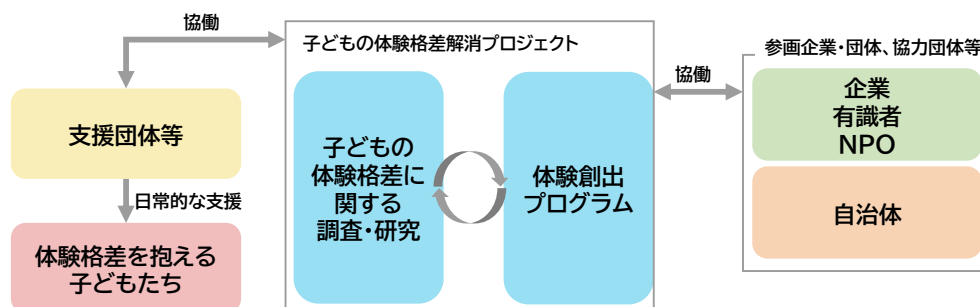
協力団体:一般社団法人子ども宅食応援団、一般社団法人全国子どもの貧困・教育支援団体協議会

寄付:個人による寄付や協賛

アソビューのプラットフォームを利用したクラウドファンディングを不定期に実施

※直近は2025年12月～2026年2月に実施

### 取組スキーム



出所:「子どもの体験格差解消プロジェクト」ウェブサイトを基にMURCにて作成

### 取組概要

子どもの体験格差解消プロジェクトでは、経済状況や家庭環境などによらず、全ての子どもたちが様々な体験を通して「自分らしく生きていくために必要な力」を育むことができる社会の実現を目指し、体験格差を抱える子どもたちに、新たな価値観や信頼できる大人との出会いを創出する体験機会を提供している。また、当事者調査等を実施し、体験格差の背景要因やよりよい体験機会に関して研究を重ねることで、困難を抱える子どもたちの体験機会の保障に関する政策提言・実装を目指している。

調査研究事業は慶應義塾大学の中室牧子教授が監修。主催する体験創出プログラムの参加者や協力団体への調

### 【越後妻有ツアーの様子】



出所:一般社団法人 Ridilover「子どもの体験格差解消プロジェクト」

査を通じて、発達段階や置かれた状況に応じた「子どもにとって必要な体験」や、良質な体験設計・提供方法を明らかにすることを目指している。

また、ホームページ上で寄付による支援も呼び掛けられており、個人・法人が毎月あるいは一度に寄付できる形となっている。不定期ではあるが、予約サイト「アソビュー」のシステムを経由した寄付活動も実施しており、アソビュー！ポイントを活用した寄付も可能となっている。

## 取組開始の経緯

2022年4月に発足した任意団体のプロジェクト。

近年、地域の担い手不足や教員の多忙化、家庭の在り方の多様化などで、かつてあった無償や低コストでの体験機会は減少し、「対価を支払って得る有償のサービス」へと変容しつつある。一方で、体験は主体性や未知の事柄に対しての好奇心、チャレンジ精神など、「生きる力」を育むことが、様々な研究や論文により明らかになってきている。実社会においても大学受験や就職活動においても主体性やコミュニケーション能力など、体験によって得られる力の社会的要請が高まっている。

上記のような社会構造の変化により、経済的理由や社会的孤立などの様々な理由から困難を抱えている子どもたちの体験機会へのアクセスが難しくなっているだけでなく、将来の学歴や年収、社会関係資本などの格差に繋がる可能性があることが指摘されている。

この「体験格差」という社会課題に強い問題意識を持つ、ソーシャルセクター、民間企業、アカデミアという異なる領域に専門性を持つ発起人4名が結集。「子どもたちへの体験機会は社会全体で保障すべきインフラ」と捉え直し、この格差を社会全体で解消すべく本プロジェクトが立ち上がった。

## 取組効果等

株式会社 Ridilover から提供された 2026 年3月時点の情報によると、本プロジェクトの事業の一つである「体験創出プログラム」では、これまで累計で約 380 人の子どもたちに体験機会を提供している。公開されているツアーレポートには、「旅する学校 in 大地の芸術祭」(2022年11月公開)をはじめ、芸術体験や自然体験などの多く事例が掲載されている。また、2026年の春休み期にも、下記のような取組を予定している。(対象は小学生～高校生)。

取組名	実施期間	概要	参加人数(予定)
芸術祭ツアー	2026/3/28～29	大地の芸術祭の芸術鑑賞や、地域の方との交流を実施	20名
花まる雪国スクール	2026/4/4～5	雪原でのアクティビティや仲間との共同生活を実施	45名

また、本プロジェクトの一環として体験格差の現状を明らかにする調査・研究に取り組んでいる。

## 事業に対する評価やレポート

プロジェクトで実施された「体験創出プログラム」では、経済的困窮や不登校などの社会的に孤立しやすい状況にある中高生を新潟県越後妻有の「大地の芸術祭」へ無償で招待する2泊3日のプログラム(NPO法人越後妻有里山協働機構共催)を開催した際の子どもたちの声が掲載されている。(以下、内容をMURCが要約)

- ・ 実際に来てみて人と関わり、アートに触れてみて、「他の美術館にも行きたくなった」「いろいろな人がいるのは怖いと思っていたけれど、それも受け入れられるし個性があって面白い」「新しいチャレンジは楽しい！」と大きく心境が変わった。(不登校経験を抱える高校1年生)
- ・ コロナで思うように旅行を楽しむことができなかったが、夏にできなかったことが久しぶりでできて、友達と一緒に過ごすことができて良かった。本当に、皆で過ごしたことが楽しくてそ

れが印象的なこととなっている。(就学援助世帯の高校2年生)

- ・ 半分以上の人と友達になれてうれしかった。ご飯が格別だった。お米が美味しいとおかずもより美味しくなるんだなど実感しました。(就学援助世帯の中学2年生)

## 情報の出典

一般社団法人 Ridilover 「子どもの体験格差解消プロジェクト」

(<https://experience-gap.studio.site/>) (2026. 2. 16 最終閲覧)

EdTechZine 「慶応大・中室牧子氏ら4者、子どもの体験格差を解消し生きる力を育む『子どもの体験格差解消プロジェクト』を発足」

(<https://edtechzine.jp/article/detail/8805>) (2026. 2. 16 最終閲覧)

Ridilover Journal 「子どもたちに『当たり前のように、当たり前ではない体験』を 体験格差解消プロジェクト ツアーレポート」

(<https://journal.ridilover.jp/issues/18708dd64b6d?t=23012511P9zYvhDJ>) (2026. 2. 16 最終閲覧)

Note 子どもの体験格差解消プロジェクト「体験格差解消プロジェクト、note を始めます」

([https://note.com/experience\\_gap/n/nf8620d1c496f](https://note.com/experience_gap/n/nf8620d1c496f)) (2026. 2. 16 最終閲覧)

株式会社アソビュー 「子どもたちに一生の思い出を。雪国での「非日常体験」を支援するクラウドファンディングをアソビュー！にて開始。～1月・4月に「花まる雪国スクール」へ計90名を招待～」(2025年12月25日)

(<https://www.asoview.co.jp/news/articles/fcVosQzw>)

株式会社アソビュー 「アソビュー、2025夏の「サマースクール」で困難を抱える子どもたちの体験格差是正のためのクラウドファンディングを開始～子どもの体験格差解消プロジェクト」を通じ、困難を抱える子どもたちに一生の思い出となる体験を贈る～」(2025年7月24日)

(<https://www.asoview.co.jp/news/articles/g0iZhnlL>) (2026. 2. 18 最終閲覧)



## 取組開始の経緯

株式会社 Sonoligo は 2018 年9月に「文化の民主化」を掲げ、音楽・芸術・スポーツなどの文化体験のプラットフォームを提供する名古屋大学発のベンチャー企業として設立された。

2023 年6月に名古屋市内の小学生を対象に「Sonoligo Kids」として企業等からのスポンサーから得た財源をもとに文化体験を無償で届ける取組を開始し、その後「Sonoligo Future」に名前を変えて 0 歳から高校生まで対象を拡大した。2024 年4月には名古屋大学とパートナーシップに関する協定を締結したことで大学生・大学院生まで対象を拡大している。

このような背景の中、公益性の高い取り組み内容に着目した名古屋市からの働きかけにより、2025 年4月より名古屋市と連携協定が締結され、既存の文化イベントや支援している企業等法人とともに企画・実施する新たな文化イベントのチケットを無償で提供するプラットフォームとしても「Sonoligo Future」が活用されることとなった。

また、名古屋市としては、本事業の実施により以下の行政課題への効果を得ることを目指している。

- ・ 世帯収入格差の拡大に伴う子どもたちの体験格差の是正
- ・ 子育て世代を始めとする生産年齢層の流出抑制及び流入促進
- ・ 文化芸術あふれる街の実現(文化芸術の振興)

## 取組効果等

音楽、舞台、スポーツ、美術、エンタメ、アカデミア、伝統芸能、映画、歴史、体験など、過去に 700 以上のイベントを掲載している。

また、当プロジェクトに寄付している企業等法人等と連携したイベントは、有松絞体験やコンサートなど、2025 年度に最低でも下記8件実施される予定であることが確認できた。

イベント名	実施日	概要	連携先企業
Engineers meet Girls!! 女性エンジニアと一緒にモノづくりの世界へ飛び込もう!	2025/ 8/2	デザインとものづくりをテーマとし、市内内外の様々なものづくり企業から女性エンジニアが参画。ワークショップや名古屋大学研究室の見学ツアー、女性トップエンジニアの講演などが行われる。	※下記参照
<p>&lt;連携先企業&gt;</p> <p>【企画協力・寄付】NTT ドコモビジネス、構造計画研究所ホールディングス、株式会社豊田自動織機、リンナイ株式会社</p> <p>【企画協力】</p> <p>全日本空輸株式会社、トヨタ自動車株式会社、Beyond Next Ventures 株式会社、ヤマザキマザック株式会社、株式会社レゾナック</p> <p>【寄付】</p> <p>サーラグループ、東京海上日動、NGK 株式会社</p>			
ひらけ、研究のトビラ！ 第1回 SDGs×文化芸術発表会 supported by ケイティケイ	2025/ 9/16	SDGs と文化芸術をテーマとして研究者などが登壇する講演会の第1回。市内の高校生以下・大学生・大学院生が対象で、名古屋大学内で実施。	ケイティケイ株式会社
ひらけ、研究のトビラ！ 第2回 SDGs×文化芸術発表会 supported by ケイティケイ	2026/ 2/14	「音と謎で旅する古代エジプト」をテーマに専門家の講演＋演奏会を名古屋大学内で実施。市内の小学生～大学生・大学院生が対象。	ケイティケイ株式会社

イベント名	実施日	概要	連携先企業
有松絞り体験会 世界にひとつを、キミの手で supported by タキヒヨー	2025/10/5. 2026/1/17, 18 3/20, 21	竹田家住宅にて実施されるランチョンマットの有松絞体験。時間帯によって対象年齢を変えつつ、未就学児から大学生までを対象とする。	タキヒヨー株式会社
ファンタジーサーカス トワイライトガーデン supported by 名古屋銀行	2025/10/18	実力派パフォーマーによるサーカスアクトと生演奏を掛け合わせたパフォーマンスステージ+オリジナルの仮面・マントを制作するワークショップ。瑞穂文化小劇場にて小中学生・保護者を対象に実施。	株式会社名古屋銀行
宇宙未来会議 supported by 朝日インテック	2025/11/23	「はやぶさ2号」の実物大模型を設置し、JAXA で当該プロジェクトに関わった研究者を招いたトークショーを実施 +宇宙を感じるライブパフォーマンスを名古屋大学豊田講堂で実施。	朝日インテック株式会社
大学学食と連携した「なごやめし」無料提供プロジェクト(味噌カツ編) supported by イベデン	2025/10/7 ~ 1年間	名古屋大学北部食堂「Polaris Dining」にて市内在住の未就学児～高校生とその保護者及び市内在学の大学生・大学院生に味噌カツを無料配布。	イベデン株式会社
ミナト文化祭 in 慶和幼稚園 supported by 学校法人慶和学園	2026/3/15	慶和幼稚園内で市内の未就学児～大学生・大学院生を対象にサーカスやクラシックコンサート、縁日などが楽しめる「文化祭」を実施	学校法人慶和学園

## 情報の出典

Sonoligo Inc. 「Sonoligo Future」

(<https://www.sonoligo.com/e/future>) (2026. 2. 16 最終閲覧)

Sonoligo Inc. 「Sonoligo Future パートナー企業様紹介」

(<https://www.sonoligo.com/e/kids/partners>) (2026. 2. 16 最終閲覧)

名古屋市「次世代に向けた文化体験提供プロジェクトの推進（市民の皆様へ）」

(<https://www.city.nagoya.jp/kankou/bunka/1017105/1033512.html>) (2026. 2. 16 最終閲覧)

Sonoligo Inc. 「名古屋市×Sonoligo 『次世代に向けた文化体験提供プロジェクト』始動！」

(<https://www.sonoligo.com/official/blogs/167>) (2026. 2. 16 最終閲覧)

Sonoligo Inc. 「名古屋大学と『Sonoligo Future』パートナーシップに関する協定を締結しました。」

(<https://www.sonoligo.com/official/blogs/157>) (2026. 2. 16 最終閲覧)

名古屋市「報道資料 令和7年7月15日発表 名古屋市×Sonoligo 『次世代に向けた文化体験提供プロジェクト』」

(<https://www.city.nagoya.jp/houdou/pressr7/pressr7-07/3002235.html>) (2026. 2. 16 最終閲覧)

#### (4)「三井住友海上文化財団 ときめくひととき」公演 交流プラン

##### 基礎情報

取組実施期間:毎年(2025年度は2025年5月~2026年3月)

取組実施場所:全国の文化会館、ホール、公民館、コミュニティセンター、学校等

取組分野:音楽

体験の仕方:単発イベント(コンサート開催に併せて交流プログラムを実施)

主な対象者:未就学児~高校生向け

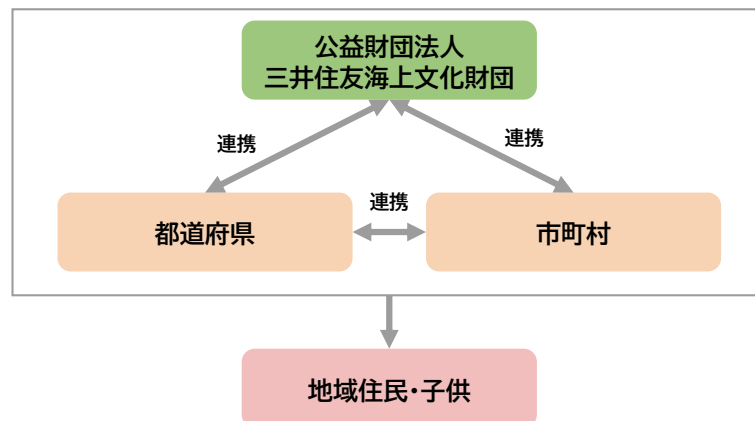
事例の特徴:体験格差解消(地理的要因、音楽分野)、都道府県・市町村・財団との連携、未就学児~高校生向け、公演運営に関するフォロー、多様な提供可能プログラム、長年の取組実績

##### 主催者及び実施にかかわる団体の情報

主催者:公益財団法人三井住友海上文化財団

共同主催:実施先の都道府県、市町村

##### 取組スキーム



出所:「三井住友海上文化財団 ときめくひととき 公演」ウェブサイトを基にMURCにて作成

##### 取組概要

公益財団法人三井住友海上文化財団では、1990年より地域における文化の振興を支援するため、都道府県、市町村との共同主催により、各地の公立文化ホール等を会場として、地域の住民へ廉価で質の高いコンサート事業を提供。取組の実施実績数は初年度から1,000件以上。公益目的事業として、費用の一部を財団が負担する。また、コンサート等の開催経験がない会場でも円滑な開催ができるよう、財団職員が必ず同行して公演運営のフォローも行う。

また「交流プラン」として地域住民が出演演奏家とより身近に交流できる機会として、コンサートの開催に併せて、演奏家との共演や、小中高生向け鑑賞教室、未就学児向けの子どもミニコンサート等の、日頃とは異なる音楽体験や学びのプログラムも開催地の希望も踏まえ実施している。

##### 【小中学生鑑賞教室の様子】



出所:公益財団法人三井住友海上文化財団  
「地域のためのコンサート(「三井住友海上文化財団 ときめくひととき 公演」)」

毎年度財団から、実施に関する募集要項が公開される。市町村は都道府県を經由して財団に応募し、開催が決定すると3者が連携して共同開催に向けて動き出す形となっている。

なお、本事業は、持続的可能な文化醸成を狙いとしており、お客さまがチケットを購入してコンサートに足を運び音楽を楽しむ風土を培う観点から、演奏会の入場料は基本的には 1,000~1,500円ほどの金額で設定し、無料や著しく廉価な金額まで下げることはしていない(※鑑賞者が小学生から高校生の場合は、無料や招待とすることも可としている)。

### 取組開始の経緯

1989年、大正海上文化財団(三井住友海上文化財団の前身)の事務局長に就任した殿村弘氏が損害保険会社として地域密着型の企業の特性を活かして「地域とどんなことができるか」を考えていたところ、バリトン歌手の岡村喬生氏と知り合い、演奏環境や交通の便が良いとは言えない場所でコンサートを開く事業案を提示したところ、快諾されたところから始まった。

第一回コンサートは1990年5月に新潟県の小千谷市民会館で開催された。

### 取組効果等

財団ホームページによると、令和7年度に開催された・開催が予定されている公演は計35件であり、これを合わせると累計公演数は1,082回となるという。

### 事業に対する評価やレポート

財団の支援によって開催されるコンサートの紹介ページでは、前回公演の際の観客の感想が掲載されている。以下は、そのうち子どもの感想の一部を抜粋したものである。

- ・ プロの演奏は大人数でしかみたことがなくて、1人1人の音をこんなに鮮明にきけなかったので、おもしろかった。息づかいが間近できこえるのに感動しました。(高校生)
- ・ 知っている曲もたくさんあったし、明るくておもしろい曲もたくさんあったので楽しかったです。(中学生)
- ・ 生の歌声はすごく響いていてきれいでした。曲の紹介もあり想像しやすく、本当に海外旅行へ行ったようでした。(中学生)

### 情報の出典

公益財団法人三井住友海上文化財団「地域住民のためのコンサート(「三井住友海上文化財団 ときめくひととき」公演)」

([https://www.ms-ins-bunkazaidan.or.jp/concert/about\\_project/](https://www.ms-ins-bunkazaidan.or.jp/concert/about_project/)) (2026.2.16 最終閲覧)

公益財団法人三井住友海上文化財団「地域住民のためのコンサート(「三井住友海上文化財団 ときめくひととき」公演) 開催地募集」

(<https://www.ms-ins-bunkazaidan.or.jp/concert/venue/>) (2026.2.16 最終閲覧)

公益社団法人三井住友海上文化財団「写真で見るこの一年～コンサート・交流プラン風景～」

(<https://www.ms-ins-bunkazaidan.or.jp/wp/wp-content/uploads/2025/07/R7-concert-R6photo.pdf>)

(2026.2.16 最終閲覧)

公益財団法人三井住友海上文化財団「地域住民のためのコンサート(「三井住友海上文化財団 ときめくひととき」公演) 公演情報」

(<https://www.ms-ins-bunkazaidan.or.jp/concert/information/>) (2026.2.16 最終閲覧)

ネットTAM「アートと企業第19回 地域と奏でるハーモニー「三井住友海上文化財団 ときめくひととき」公演に学ぶ、企業メセナの理想形」

(<https://www.nettam.jp/art-corporation/ms-ins-bunkazaidan/>) (2026.2.16 最終閲覧)

## (5) こころ羽(は)プロジェクト

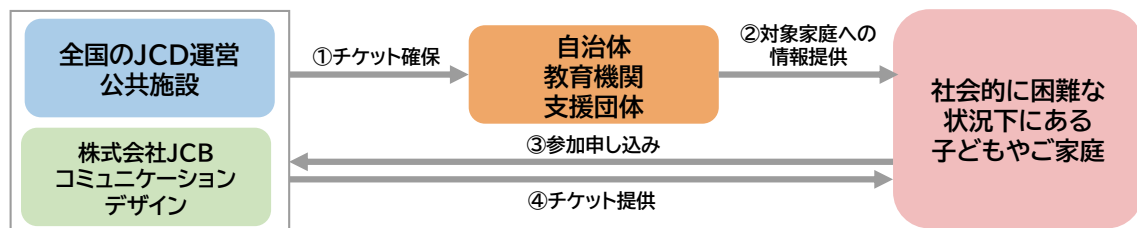
### 基礎情報

取組実施期間:毎年(2024年度は24年4月～25年3月に実施)  
取組実施場所:株式会社 JTB コミュニケーションデザイン(JCD)が運営に携わる全国の公共文化施設  
取組分野:演劇・ミュージカル、音楽  
体験の仕方:単発イベント(劇場への招待)  
主な対象者:※対象となる子供の年齢については記載なし  
事例の特徴:体験格差解消(経済要因、演劇・音楽分野)、自治体、教育機関、社協等と連携した支援が必要な方へのアクセス

### 主催者及び実施にかかわる団体の情報

主催者:株式会社 JTB コミュニケーションデザイン  
協力団体:一般財団法人あしなが育英会、認定 NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ、認定 NPO 法人カタリバ  
連携先:自治体、教育機関、支援団体等  
※実施にあたって、豊中市立文化芸術センターでの取組では社会福祉法人豊中市社会福祉協議会とも連携

### 取組スキーム



### 取組概要

株式会社 JTB コミュニケーションデザイン(以下、「JCD」という)が運営に携わる全国の公共文化施設にて、子どもとその家族に対し、演劇や音楽コンサートなどの文化芸術の鑑賞機会を提供する取組。プロジェクトを通じ、子どもたちに文化芸術を身近なものとして感じてもらう場を提供し、こころ豊かな社会を実現することを目指す。招待者のコーディネートは、自治体や教育機関、支援団体と連携して実施している。

招待は、社会的に困難な状況下にある子どもや家族が対象となっており、全国を網羅した団体と連携するのではなく、地域の事情に最も詳しく、日頃から子どもと家族を支援している団体と連携することで、必要とする方たちに文化芸術を届けられる仕組みとすることにこだわっている。

### 取組開始の経緯

JCD では全国 43 カ所(2024 年時点)の施設運営管理業務を担っている。その中で地域住民にあまねく情報を届けるために、地域に根差す方々との連携を重視しており、運営施設を拠点に地域活性・地域貢献の場を創造する方法の一つとして本プロジェクトが 2023 年度より開始された。

### 取組効果等

2023 年度は JCD が運営に携わる全国 10 カ所の公共施設で約 360 席、2024 年度は 12 施設 14 公演で約 360 席を提供した。

## 事業に対する評価やレポート

観劇後のアンケートから抜粋された参加者の声では、下記のようなものが見られた。

(※以下、感想を一部抜粋)

- ・ とても元気が出ました。
- ・ ミュージカルは初ですが最後まで楽しく観ることができました。
- ・ 初めてこういう劇をみた。とても感動したしすごく印象に残った。楽しかった。
- ・ 子どもたちと一緒に観劇できてうれしかった。

## 情報の出典

株式会社 JTB コミュニケーションデザイン「こころ羽（は）プロジェクト」

(<https://www.jtbcom.co.jp/service/areamanagement/facility/kokorooha/>) (2026. 2. 17 最終閲覧)

株式会社 JTB コミュニケーションデザイン「JCD NOW ! 公共施設を活用した「こころ羽」プロジェクト～子どもたちの体験格差解消～」

(<https://www.jtbcom.co.jp/article/chiiki/1568.html>) (2026. 2. 17 最終閲覧)

PR TIMES 「子供たちに文化や芸術を。「こころ羽（は）」プロジェクトスタート！」

(<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000100.000021206.html>) (2026. 2. 17 最終閲覧)

エリアマネジメント JTB Commyunication Design 「「こころ羽（は）」プロジェクト 事業活動を通じたサステナビリティの取り組み」

(<https://areamanagement.jtbcom.co.jp/contents/002>) (2026. 2. 17 最終閲覧)

## (6) こどもの創造性を育むアウトリーチ事業

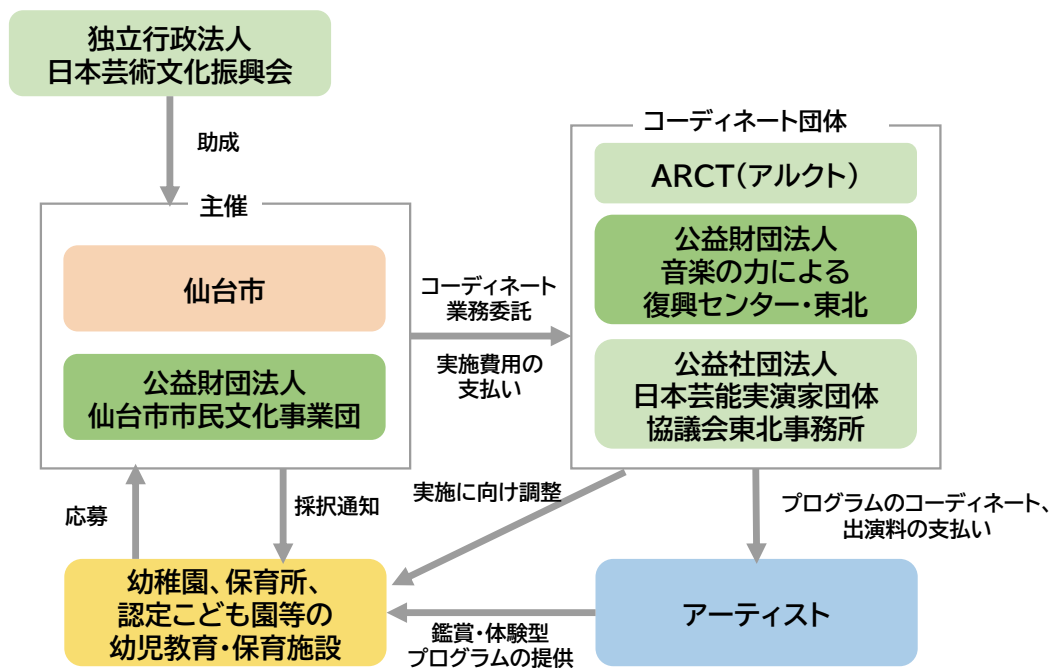
### 基礎情報

取組実施期間: 2025年度は、2025年9月～2026年2月にかけてアーティスト派遣予定  
 取組実施場所: 仙台市内の幼稚園、保育所、認定こども園等の未就学児施設等のホール、体育館、教室、園庭等  
 取組分野: 音楽、演劇・ミュージカル、伝統文化・芸能  
 体験の仕方: 単発の講演への参加  
 主な対象者: 仙台市内の幼稚園、保育所、認定こども園等の幼児教育・保育施設(3歳以上)  
 事例の特徴: 未就学児を対象とした文化芸術鑑賞体験機会の提供、自治体・財団法人とコーディネート団体との連携

### 主催者及び実施にかかわる団体の情報

主催: 仙台市、公益財団法人仙台市市民文化事業団  
 コーディネート団体: ARCT(アルクト)、公益財団法人音楽の力による復興センター・東北、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会東北事務所  
 助成: 2025年度は文化芸術振興費補助金(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)の助成を受けている。

### 取組スキーム



出所: 公益財団法人仙台市市民文化事業団公開「2025年度「こどもの創造性を育むアウトリーチ事業」のリーフレット」を基にMURCにて作成

### 取組概要

仙台市及び公益財団法人仙台市市民文化事業団では、文化芸術の楽しさに触れ、子どもたちの豊かな創造性を育むことを目的として、こどもの創造性を育むアウトリーチ事業を実施している。仙台市内の幼稚園、保育所、認定こども園等の未就学児施設に対し、コーディネート団体と連携してアーティストを派遣し、音楽、演劇、大衆芸能、伝統芸能等の分野の鑑賞型・体験型のプログラムを提供している。

プログラムの内容は、2025 年度は音楽に関するものが5種類、演劇に関するものが 4 種類、大衆芸能に関するものが4種類、伝統芸能に関するものが 3 種類である。プログラムによって異なるが、所要時間は 20～90 分程度、定員は 20～200 名程度である。参加対象者は 3 歳以上の未就学児としているが、一部のプログラムでは0～2歳児も一緒に参加できる。実施にかかる費用は、会場費を除くプログラムの実施費用、アーティストの出演料を事務局が負担し、会場の手配は申込者側が行う。実施方法は、クラス・年齢単位、施設全体での実施の他に、他施設との合同での開催も受け付けている。

事業実施までの流れとしては、派遣先施設(40 施設程度を予定)の募集を5, 6月に行い、7 月下旬に実施施設の抽選・採択を実施。その後、施設、コーディネーター等で実施に向けたスケジュール決定、打合せ等を行った上で、9月～2月にかけてアーティストによる事業を順次実施する形である。また、施設は事業終了後にアンケート調査に回答する。

また、本事業は、仙台市の青葉山エリアで整備が計画されている、音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設の開館や、当該施設でのアウトリーチ事業の実施を見据えて、様々な人々とアーティストをつなぐコーディネーターの育成やアウトリーチの仕組みづくり、ネットワークの構築を図ることを目的のひとつとしている。具体的な取組としては、実践を通じたコーディネーターのスキル向上や新たな人材育成、外部の幼児教育専門家による視察や振り返りへの参加により、効果的な取組の実施に関する検討等を行っている。

### 【プログラムの例(2025 年)】

 <p><b>01</b> トレス、ブーク・オブ・ミュージック はいろいろなアンサンブル プロのクラシック音楽家による演奏 弦楽器、管楽器、打楽器、歌とピアノなど、さまざまな組み合わせがあります。クラシックの名曲や日本の唱歌、子どもが好きなアニメソングまで、幅広いレパートリーで構成します。 (※ピアノをお借りします。会場準備に1時間かかります) 🕒 30～45分 🧑 10～200人</p>	 <p><b>13</b> ぼたもち堂 みて、ふれて、感じる「ジャグリング！」 ジャグラーによるジャグリング体験 ボールやディアボロ(コマ)、イスにテーブル? さまざまな道具が宙を舞うジャグリングショー! 楽しんだあとは、自然とからだの動きが自然とジャグリング&amp;ダンスを体験します。(鑑賞のみも可能) 🕒 30～50分 🧑 1～50人</p>	 <p><b>07</b> てんたん人形劇場 人形劇「たったか たったか たったかた」ほか 人形劇がおくる人形劇 シンプルながら人形の動きが想像力をくすぐる人形劇と、どろんこ野菜たちの軽快な動きと言葉のやり取りが楽しい人形劇。どちらも老若男女みんなが楽しめる人気の作品です。 🕒 50～90分 🧑 2～50人</p>	 <p><b>14</b> 和太鼓 Atoa. 和太鼓を楽しもう 和太鼓グループがおくる和太鼓や和楽器の演奏 さまざまな和太鼓・和楽器を使ったプログラム。和太鼓の歴史や特徴を学び、その魅力と日本文化を味わえます。体験型のプログラムも可能です。 🕒 30～90分 🧑 30～1300人</p>
--	---	---	---

出所：公益財団法人仙台市市民文化事業団「2025 年度こどもの創造性を育むアウトリーチ事業」リーフレット

### 取組開始の経緯

2022年度までは、文化庁「文化芸術による子供育成推進事業 - 芸術家の派遣事業 - (東日本大震災復興支援対応)」の枠組みにより、仙台市・公益財団法人仙台市市民文化事業団では、文化庁からの委託を受け、大震災からの地域の復興のために市内の幼稚園・保育所、小・中・高等学校、児童館等に通う子どもたちにアーティストによるプログラムを提供する事業を実施していた。

2023年度より、幼稚園・保育所・こども園・児童館・市民センター、PTA 等での実施は上記事業に伴う派遣対象から外れたことを受けて、2024 年度からは、仙台市・公益財団法人仙台市市民文化事業団を主催として、3 歳以上の未就学児を対象とした「こどもの創造性を育むアウトリーチ事業」を開始している。

### 取組効果等

2024 年度は、41 施設約 3,000 名の子どもたちが本取組に参加し、プログラムを鑑賞・体験している。

### 事業に対する評価やレポート

施設実施者からの感想として、以下の内容が挙げられている。未就学児に向けた内容のプログラムを提供することで、子どもにとっては文化芸術の楽しさに触れるきっかけとなるとともに、参加施設

の教員・保育者にとっても学びが得られる内容であったことが読み取ることができる。

(※以下、感想を一部抜粋)

- ・ 年齢、発達、興味など個人差がある子どもたちですが、全員が楽しめる内容でした。
- ・ 事前に打合せをさせて頂き、自園の子どもたちが楽しんでいるモノ、好きな絵本などを取り入れて下さってとっても楽しいプログラムとなりました。
- ・ 楽しく体を動かせる進め方を学びました。こどもの心のつかみ方、集中力を高める方法がとても学びが多かったです。
- ・ 表現遊びには様々なものがあり、歌ったり踊ったり言葉を発したりと、子どもたちが思い思いに表現できる遊び、環境を整えていくことが大事だと思いました。また保育者も一緒に楽しむことが成長につながると感じたので、そのあたりを今後の保育に生かしたいです。

## 情報の出典

仙台市「令和7年度「こどもの創造性を育むアウトリーチ事業」実施施設を募集します」

( <https://www.city.sendai.jp/bunkashinko/bunkashinko/kurashi/manabu/bunka/oshirase/ichiran/haken7-2.html> ) (2026. 2. 9 最終閲覧)

仙台市「「文化庁 令和5年度 仙台市文化芸術による子供育成推進事業―芸術家の派遣事業―〈東日本大震災復興支援対応〉」派遣希望校を募集します」

( <https://www.city.sendai.jp/bunkashinko/bunkashinko/kurashi/manabu/bunka/oshirase/ichiran/haken5.html> )

公益財団法人仙台市市民文化事業団「【受付終了しました】2025年度「こどもの創造性を育むアウトリーチ事業」の実施施設を募集します」

( <https://ssbj.jp/12953/> ) (2026. 2. 9 最終閲覧)

公益財団法人仙台市市民文化事業団公開「2025年度「こどもの創造性を育むアウトリーチ事業」のリーフレット」( [https://ssbj.jp/wp-content/uploads/2025/05/2025-Outreach\\_leaflet.pdf](https://ssbj.jp/wp-content/uploads/2025/05/2025-Outreach_leaflet.pdf) )

## (7) ASIAS(エイジias:Artist's Studio In A School)

### 基礎情報

取組実施期間:通年(ワークショップ実施に関する申込期限はあり。)

取組実施場所:都内の公立小中学校(特別支援学級含む)、特別支援学校、児童養護施設、矯正教育・医療・地域の現場等

※活動地域は東京都が中心であるが、児童養護施設、矯正施設、小児病院での活動は都外でも実施している。また、自治体等との共同事業を中心に保育園・幼稚園等で未就学児向けの事業も実施している。

取組分野:ダンス・舞踊、演劇・ミュージカル、音楽、美術

体験の仕方:1日～数日にわたるワークショップへの参加

主な対象者:主に未就学児～中学生向け

事例の特徴:「学校」等の日常の場で開催するワークショップ、コミュニケーションを大切にしたい学び

### 主催者及び実施にかかわる団体の情報

主催者:NPO 法人 芸術家と子どもたちほか

※芸術家と子どもたちによる主催事業のほかに、国・自治体等の主催による受託事業も実施。

連携先:申込元の学校、児童養護施設、矯正教育・医療・地域の現場等、アーティスト

※以下の関係者は2024年度の情報を記載。

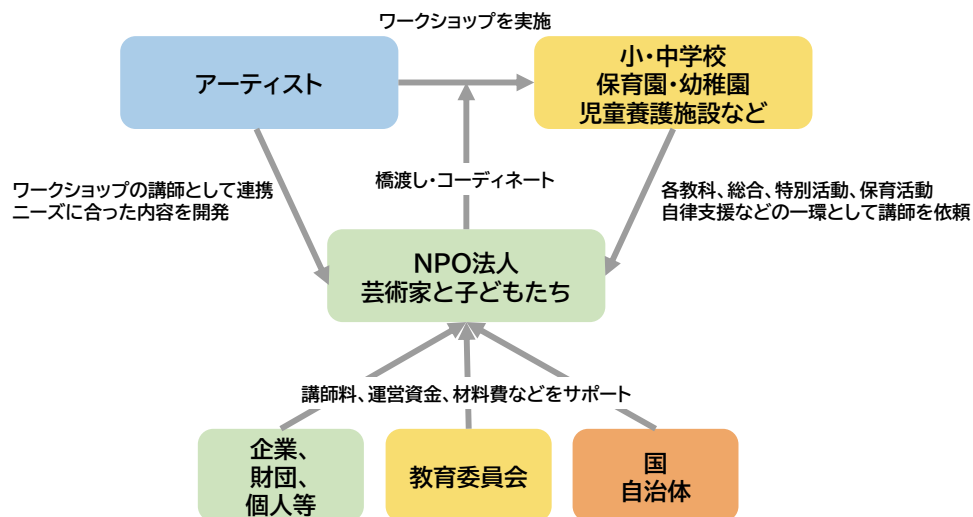
協賛:花王ハートポケット倶楽部/花王株式会社

助成:積水ハウス株式会社/積水ハウスマッチングプログラムの会、公益財団法人ベネッセこども基金、公益財団法人 東京都福祉保健財団、独立行政法人福祉医療機構等

協働:文化庁 参事官(芸術文化担当)付学校芸術教育室、文化庁 参事官(生活文化創造担当)、豊島区教育委員会、豊島区子ども家庭部保育課、公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団「ふれあいアート事業」、横浜市芸術文化教育プラットフォーム

寄付:個人による寄付

### 取組スキーム



出所: NPO 法人芸術家と子どもたち「学校教育の現場」ウェブサイトを基に MURC にて作成

## 取組概要

ダンスや演劇、音楽などの分野で活動するプロの現代アーティストが、公立小・中学校などの学校教育の現場（特別支援学級含む）や児童養護施設等に出向き、先生方と協力しながら、ワークショップ型授業 ASIAS を実施している。

「学校」などの日常の場に出向く形で実施するとともに、コンサートや演劇鑑賞等の受動的な活動ではなく、アーティストと子どもたち、あるいは子どもたち同士が、互いに刺激をうける双方向の関係性を築くことを目指している。作品をつくる（結果を出す）ことよりも、そのプロセスや、そこで行われるコミュニケーションを大切にしているプログラムを行っている。

本団体は、ダンス・音楽・美術・演劇など多彩なジャンルの現代アーティストとのネットワーク、丁寧なワークショップのコーディネート、長年の活動実績に基づく豊富なワークショップのノウハウ等の強みを有している。特に、教師・職員とアーティストの間に立つコーディネーターとして活動しているスタッフは、ワークショップが子どもたちや学校・施設、アーティストにとって豊かな経験となるよう橋渡し役を務めている。学校・施設職員へのヒアリングやその結果を踏まえた最適なアーティストの選定、アーティスト、先生・職員、コーディネーターでの3者での打合せ、当日の進行サポート、実施後の振り返り等に関わる。

事業の実施形態としては、①学校・施設側から直接依頼を受ける形式、②芸術家と子どもたちと自治体・教育委員会等の協働形式、の2通りがあり、①については企業・財団による助成、個人等の寄付が経費に充てられており、学校側への財政的な負担は基本的には発生しない。

## 【ASIAS での活動】



出所：NPO 法人芸術家と子どもたち提供写真

## 【実施の流れ】

- ①ASIASの申込み
- ②電話ヒアリング
- ③実施の決定
- ④打合せ(1回目)  
コーディネーターによるヒアリング
- ⑤派遣アーティスト決定
- ⑥打合せ(2回目)  
アーティストを交えた打合せ  
(授業の1～2カ月前／必要に応じて複数回)
- ⑦アーティスト・ワークショップの実施
- ⑧実施終了

出所：NPO 法人芸術家と子どもたち「ASIAS 実施の流れ」を基に MURC にて作成

## 取組開始の経緯

子どもがアートに出会う機会が家庭環境に大きく左右されている現状を受けて、「あらゆる子どもたちにアーティストと出会う機会を提供したい」という思いから、2000 年より子どもたちの日常生活の場である学校の授業へアーティストを派遣するワークショップ型授業の ASIAS が開始した。

## 取組効果等

2024 年度は、138 施設（うち小学校 47 校、中学校5校、特別支援学校3校、幼稚園9校、保育園 40 園）へのワークショップを実施し、参加児童・生徒数は 3,997 名、実施延べ日数は 552 日、参加アーティストは66名/組である。

※上記の参加児童・生徒数、施設数には、アーツカウンシル東京と協働で実施している、パフォーマンススキップ・トーキョーによる取組も含まれる。

2000 年度から 2024 年度までの累計生徒・児童の参加者数は 65,117 人である。また、多数の現代アーティストと協力してワークショップを実施しており、事業開始から 2025 年 4 月までに「芸術家と子どもたち」の取組に参加したアーティスト総数は 290 名である。

## 事業に対する評価やレポート

2018年度よりアニュアルレポートを継続して公開しており、主要事業の紹介や、年度での活動実績が掲載されている。(2026年2月12日時点では、2024年度が最新版)

■アニュアルレポートの掲載ウェブサイト(2026.2.12 最終閲覧)

<https://www.children-art.net/about/outline/annual-report/>

吉本光宏「アウトリーチから始まる日本の未来-音楽教育にとどまらないインパクトとポテンシャル」『音楽教育実践ジャーナル』vol.10、no.2(2013年3月)では、芸術家と子どもたちによるASIASの活動について、アーティストやクリエイターが学校現場に出向き、既存の教育の枠組みにとらわれない発想やアプローチでユニークな取組を展開するArts in Education(AIE)の取組を日本で牽引する、学校とアーティストを結びつける中間支援型のアートNPOの一つとして評価している。また、アートNPOが実施する事業の特徴として、教育現場の抱える様々な課題や学校側のニーズをくみとり、教育や子どもたちの能力の育成にアートがどのような役割を担えるのかということ、アーティストや学校の教育とともに真剣に考えようとしていることを指摘している。

熊倉純子監修・編著『アートプロジェクトのピアレビュー：対話と支え合いの評価手法』水曜社、(2020年)において、東京都台東区谷中地域を拠点に、アートイベントの企画・運営・サポートを実施している「一般社団法人やなかのおかって」代表の渡邊梨恵子氏が、芸術家と子どもたちの取組の現場見学、ピアレビューを行い、以下のとおり評価をしている。

(以下、内容の一部を引用)

「「芸術家と子どもたち」の現場見学に行かせていただいた際には、パートナーとなる学校やアーティストとコーディネーターの信頼関係の厚さに、これまでの積み重ねやコーディネーターの技術の高さを実感しました。同時に、活動を継続していくためのサポーター集めなど現在も試行錯誤を続け、新たな試みに取り組んでいると伺い、励まされました。」

## 情報の出典

NPO 法人芸術家と子どもたちウェブサイト

(<https://www.children-art.net/>) (2026.2.12 最終閲覧)

NPO 法人芸術家と子どもたち「ASIAS 実施の流れ」

(<https://www.children-art.net/asias/flow/>) (2026.2.12 最終閲覧)

NPO 法人芸術家と子どもたち「2024年度活動報告書」

(<https://www.children-art.net/wp2018/wp-content/uploads/2025/06/annualreport2024.pdf>)

日本財団運営 CANPAN FIELDS「団体情報／団体詳細 特定非営利活動法人芸術家と子どもたち」

(<https://fields.canpan.info/organization/detail/1246775298?view=pc>) (2026.2.12 最終閲覧)

吉本光宏「アウトリーチから始まる日本の未来-音楽教育にとどまらないインパクトとポテンシャル」『音楽教育実践ジャーナル』日本音楽教育学会発行、vol.10、no.2(2013年3月)

渡邊梨恵子「プロジェクト成熟のための、信頼できる他者の存在」(熊倉純子監修・編著『アートプロジェクトのピアレビュー：対話と支え合いの評価手法』水曜社、2020年、pp.68-69 掲載)

## (8) 京都府地域文化創造促進事業

### 基礎情報

取組実施期間: 通年

取組実施場所: 京都府内(主に京都市以外)

※地域プログラムは府内の丹後・中丹・南丹・山城の4地域それぞれで個別開催、文化の心次世代継承事業は府内の小・中学校(京都市立除く)、特別支援学校、高等学校(一部事業のみ対象)で実施

取組分野: 伝統文化・芸能・茶道・華道、音楽、美術、習字・書道等

体験の仕方: 地域プログラムはイベントによって異なり、モデル事業として実施、複数回にわたるワークショップ・プログラム、一定期間での展覧会等を開催。文化の心次世代継承事業は、単発または複数回プログラム体験を実施

主な対象者: 地域プログラムはイベントによって異なる。文化の心次世代継承事業は小・中学生向け(一部事業では高校生も対象)

事例の特徴: 都道府県単位の事業、複数の取組からなる事業、専門人材による活動

### 主催者及び実施にかかわる団体の情報

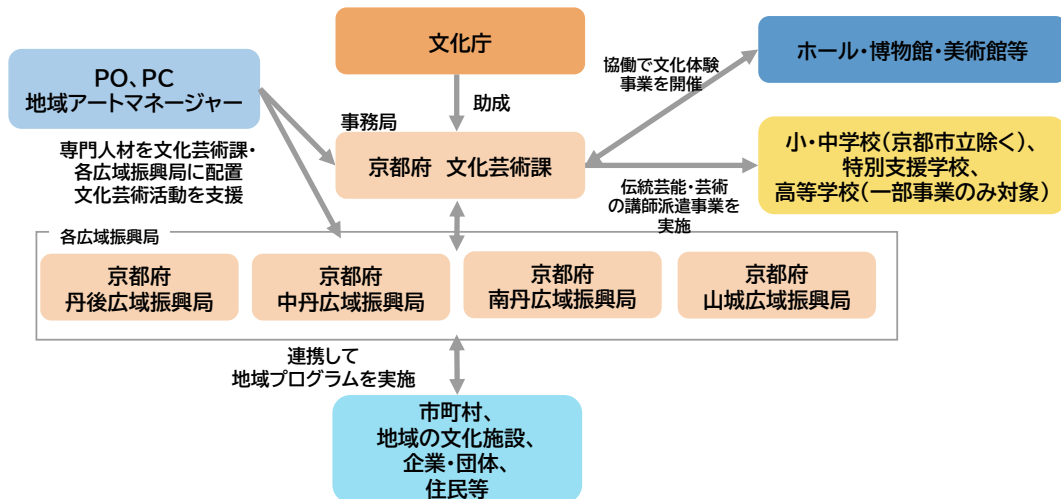
主催者: 京都府、京都:Re-Search 実行委員会(事務局は京都府文化生活部文化芸術課が担当)

主な企画: プログラムオフィサー(PO)、プログラムコーディネーター(PC)、地域アートマネージャー

協力: 京都府内で活動している事業者、地域団体、施設等

助成: 2025 年度は文化庁補助事業「文化芸術創造拠点形成事業」及び文化庁「伝統文化親子教室(地域展開型)」委託事業を活用

### 取組スキーム



出所: KYOTOHOOP ウェブサイト「京都府地域文化創造促進事業 2024 年度 実施報告」を基に MURC にて作成

### 取組概要

京都府では、「文化が活きる京都」を目指し、府域一体で地域の文化芸術活動を促進するための事業「京都府地域文化創造促進事業」を実施している。

本取組の特徴としては、事業の核となる専門人材を各地域に配置していることが挙げられる。京都府文化芸術課に、事業統括・企画立案や情報発信を行う2名の専門人材(プログラムオフィサー、プログラムコーディネーター)を配置するとともに、府内地域における文化芸術活動をサポートし、かつ地域住民の自主的な文化活動への指導・助言のできる専門性を備えた人材を地域アートマネー

ジャーとして各広域振興局(丹後・中丹・南丹・山城)に1名ずつ配置している。特に、地域アートマネージャーは、担当地域に常駐する形で、以下の業務を担当し、府民や市町村等の要望に応じた支援を行いつつ、地域における文化芸術活動の実情を調査、発信している。

- ① 地域文化振興に関わる「人・場所・コト」の実態把握、情報発信
- ② 地域における文化芸術振興に関する府民等に対する指導・助言
- ③ 地域における府民の文化芸術鑑賞・体験機会を創出するため、各広域振興局の事業と連動し、地域の実情に応じたモデル事業を企画、運営する業務

2025 年度は以下の主な取組から構成されており、特に子ども向けの取組にあたるものは、3種類文化の心次世代継承事業である。

取組名	概要
KYOTOHOOP	府域の人と場所、文化芸術と地域の輪を育むことを目指し、京都府地域文化創造促進事業の情報発信サイトを運営。
地域プログラム	府域における文化活動の振興を図り、文化・芸術活動の担い手を育成するため、4つの広域振興局(丹後・中丹・南丹・山城)単位の地域で文化芸術事業「地域プログラム」を実施。地域プログラムは各地域の地域アートマネージャーが企画。
文化の心次世代継承事業(学校・茶の湯/いけばな・出会いプロジェクト)	府内の小・中学校(京都市立除く)、特別支援学校、教育支援センターに、茶の湯・いけばなの講師を派遣する形で、子どもたちに伝統文化を体験する機会を提供する事業。
文化の心次世代継承事業(学校・アート・出会いプロジェクト)	府内の小・中学校(京都市立除く)、特別支援学校、高等学校(一部プログラムのみ)に、古典芸能、伝統工芸、伝統文化、美術等の専門家を派遣し、文化体験・鑑賞の機会を提供する事業。
文化の心次世代継承事業(地域文化施設プロジェクト)	子どもたちに地域の特色ある伝統文化や生活文化を体験・修得する機会を提供するため、府内の文化施設・ホール等で体験型のプログラムを開催。2025 年度は府内7カ所で開催。
文化力チャレンジ補助金(連携事業)	府の多様な地域性を活かして、文化芸術の力で地域を活性化させる活動のうち、チャレンジ精神や創意工夫が見られるものに助成を行う事業。2025 年は 74 件の応募があり、50 件を採択。

### 【次世代向け派遣事業 事業の様子 (2024 年度)】

日本舞踊の鑑賞と体験



茶の湯体験



いけばな体験



出所：京都府「京都府地域文化創造促進事業 2024 年度 実施報告」

## 取組開始の経緯

本事業は、南北に長い京都府において、多様な文化資源を活かした地域づくりを進めるため、文化芸術の専門人材の経験・知見を得ながら、2019年から展開している。

初年度は、京都府文化芸術課にプログラムオフィサーを1名、各広域振興局(丹後・中丹・南丹・山城)に地域アートマネージャーを1名ずつ配置し、文化芸術支援体制を強化。アーティスト・イン・レジデンス事業『京都:Re-Search』を主軸に、アートの視点から地域の魅力を再発見する取組を府内各地で展開した。

## 取組効果等

「京都府地域文化創造促進事業 2024 年度 実施報告」によると、2024 年度では KYOTOHOOP による情報発信、地域プログラム、学校向けの次世代向け派遣事業として「文化の心次世代継承事業」を実施している。

地域プログラムでは、4地域それぞれで複数のイベント、ワークショップ、講演、展覧会等からなる参加型のアートプロジェクトを、京都府が事務局を務める京都:Re-Search 実行委員会を中心に、自治体、企業・NPO 等、アーティスト等と協力して開催した。実施結果は KYOTOHOOP のウェブサイト及び事業報告書で情報発信されている。

文化の心次世代継承事業では、下記の3種類のプロジェクトを開催した。

プロジェクト名	概要	実施実績(2024 年度)
学校・アート・出会いプロジェクト	京都府内の児童生徒及び教員に対し、文化芸術体験事業に携わる専門家・実演家等を派遣。	小学校 39 校、中学校 11 校、府立特別支援学校9校、府立高等学校5校にて、90 件の事業を実施。9,265 名が参加見込み
学校・茶の湯／いけばな・出会いプロジェクト	京都府内の児童生徒に対し、学校等で茶の湯／いけばな体験を実施するため講師を派遣。	(茶の湯)小学校 18 校、中学校4校、特別支援学校5校、適応指導教室1教室にて、29 件の事業を実施。998 名が参加。 (いけばな)小学校3校、中学校5校、府立特別支援学校6校 20 件の事業を実施。724 名が参加。
地域文化施設プロジェクト	子どもたちに地域の特色ある伝統文化や生活文化を体験・修得する機会を提供するため、府内の文化施設・ホール等で体験型のプログラムを開催	府内の文化施設7カ所で実施。

## 事業に対する評価やレポート

2022 年度より実施報告書を継続して公開しており、事業全体の紹介や、取組実績が掲載されている。(2026.2.18 時点では、2024 年度が最新版)

■実施報告書の掲載ウェブサイト(2026.2.18 最終閲覧)

<https://www.pref.kyoto.jp/bungei/bunkasouzousuishin.html>

文化の心次世代継承事業に関しては、担当教員・子どもたちからの感想が以下のとおり挙げられている。

(※以下、感想を一部抜粋)

【学校・アート・出会いプロジェクト】

- ・ 初めて触れる文化に、意欲的に恥ずかしがらずに取り組んでいた。(小学校教員・狂言体験)
- ・ 小学校教員は、学習の中で児童が失敗しないように手立てを打つことが多いのですが、「失敗から学び、次の行動を考えさせる」という講師の先生の指導は参考になりました。(小学校教員・造形体験)
- ・ いつも生徒の新しい一面を発見することができます。また、生徒同士の交流も深まり、1つの作品をつくりあげることで、大きな達成感を得ることもできています。(中学校教員・和太鼓体験)

【学校・茶の湯・出会いプロジェクト】

- ・ 社会では、自分の地位などがあるけれど、茶の湯では地位に関係なく、誰でも平等に扱うという決まりが素晴らしいと思いました。また、自分のことを謙虚に思う心も印象に残りました。(小学6年生児童)
- ・ 「一期一会」の言葉が心に残りました。一生に一度しかないから、その時その瞬間を大切にしたいと思います。(小学6年生児童)
- ・ 伝統文化に触れるだけでなく、己をコントロールする所作や相手に心を尽くすという意味、そして実感など、児童にとって多くの学びがあったと思います。(小学校教員)

【学校・いけばな・出会いプロジェクト】

- ・ 花に触れて、綺麗に生けることの楽しさがとても分かりました。いけばなを見ると、心が安らいだり、自然と気持ちが明るくなるように感じました。家に帰って早速生けました。私は日本の伝統的な文化が好きなのでまた機会があったら体験したいです。(中学2年生生徒)
- ・ 学校祭で展示し、美術の授業で鑑賞をしました。花の世話ができたことや人に見てもらえたことの満足感があったように思います。(特別支援学校教員)

## 情報の出典

京都府「京都府地域文化創造促進事業」

(<https://www.pref.kyoto.jp/bungei/bunkasouzousuishin.html>) (2026. 2. 18 最終閲覧)

京都府「文化の心次世代継承事業」

(<https://jisedai.kyotohoop.jp/facilities/>) (2026. 2. 18 最終閲覧)

京都:Re-Search 実行委員会「KYOTOHOOP」

(<https://kyotohoop.jp/>) (2026. 2. 18 最終閲覧)

京都府「京都府地域文化創造促進事業 2024 年度 実施報告」

(<https://kyotohoop.jp/reading/all2024/>) (2026. 2. 18 最終閲覧)

## (9) シェアシネマ

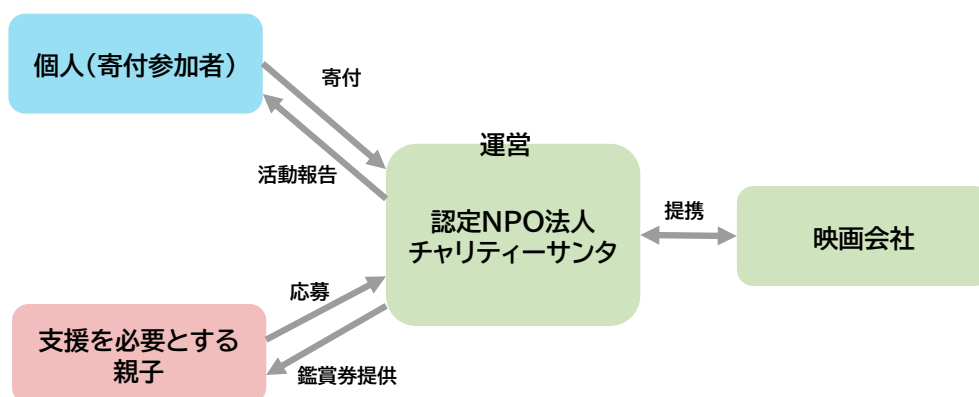
### 基礎情報

取組実施期間:2025 年は春休みからゴールデンウィーク期間と夏休み期間中の実施  
取組実施場所:全国の映画館(デジタルギフトを使用して鑑賞できる施設)  
取組分野:映画  
体験の仕方:単発での映画館での鑑賞体験  
主な対象者:未就学児～高校生向け(困窮世帯の親子が対象)  
事例の特徴:長期休み期間における体験・思い出の格差解消の取組、NPO 法人と映画会社等との連携

### 主催者及び実施にかかわる団体の情報

主催者:認定 NPO 法人チャリティーサンタ  
提携:映画会社  
助成:みてね基金、一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会(SARTRAS)の共通目的金の助成(2025 年 12 月時点)  
寄付:個人による寄付(単発・継続どちらも受付)  
2024 年 8 月、2025 年3月にクラウドファンディングを実施

### 取組スキーム



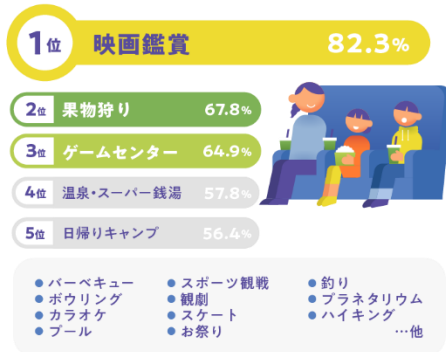
出所:認定 NPO 法人チャリティーサンタ「シェアシネマ」ウェブサイトを基に MURC にて作成

### 取組概要

長期休みに思い出を作れない子ども達のために、生活困窮家庭世帯の子ども(18 歳以下の高校生まで)を対象に、映画館での鑑賞体験の思い出を届ける活動を実施している。一般から寄付を募った資金を使用して、デジタルギフト形式映画観賞券の購入費用等に活用。子ども達の長期休み期間に合わせて対象者に抽選で鑑賞券を提供することで、映画館での鑑賞機会を届けている。

映画会社とも提携しており、一部の映画館では、本事業のデジタルギフトを使用した子ども達に飲み物・ポップコーンが無料で提供されたほか、今後も新たな体験支援プランの実施が検討されている。

## 【関連アンケートの結果】



## 【取組の様子】



出所：認定 NPO 法人チャリティーサンタ提供画像

## 取組開始の経緯

認定 NPO 法人チャリティーサンタで実施した生活困窮家庭を対象としたほかの支援事業において、経済的な理由により、長期休暇中の様々な体験や家族でのお出かけを、我慢させている・諦めさせている、といった声や、映画鑑賞体験へのニーズが把握できた。また、その影響により、休暇後の子ども同士の会話の中で、体験や思い出が少なかったことで、友達との話についていけず、さびしい思いをした、といった回答があった。

そのような生活困窮家庭からの声を受けて、2024 年の夏休みに事業をテスト開催した上で、2025 年春休みから、長期休暇に合わせて事業を正式に開始している。

## 取組効果等

### ○取組効果

2024 年夏休みのテスト実施では、1,855 家庭から申込みがあり、全国 380 家庭、1,000 名(内 訳子ども 600 名、大人 400 名)を映画鑑賞に招待した。2025 年の事業では、春休みからゴールデンウィーク期間では 1099 家庭、約 3,000 名、夏休み期間では 1,582 家庭、約 4,000 名を招待している。

### ○今後の課題

本取組の今後の展望として、今後も長期休暇に合わせて継続実施し、子どもの「思い出格差※」「体験格差」解消に貢献していくため、今後も①映画業界・関係団体との連携強化、②長期的な調査活動、③安定した資金調達、等などに力を入れていくことが挙げられている。

※認定 NPO 法人チャリティーサンタでは、思い出格差を、子ども時代に体験することで、幸福感や自尊心を育む子ども自身のお祝いや学校外での家族での体験の機会などが経済的な理由でできない状況を指すものと定義している。

## 事業に対する評価やレポート

2024 年度のテスト事業に伴い実施した調査結果をまとめた、認定 NPO 法人チャリティーサンタ「映画鑑賞体験への支援寄付者向け報告書」では、本体験に参加した親子に調査を行い、以下の結果が得られた。

(以下、結果を MURC にて要約)

- ・ テスト事業を実施した年の夏休みの家族での体験について、映画鑑賞体験(79.5%)の他は花火(35.1%)、お祭り(33.1%)、プール・川・海水浴(28.8%)と近場でできる体験を挙げている家庭が多かった。また、夏休みの体験は「映画鑑賞体験のみ」との回答も複数見られた。
- ・ 映画鑑賞でかかった費用として、保護者の 66.8%が「映画館での飲食代」、64.8%が「映

画館までの往復交通費」を挙げている。

- ・ チケット代がかからなかったためその分の費用を映画館内や鑑賞後の飲食代に充てられたとの意見がある一方で、飲食代の負担が大きく、館内での飲食は諦めた家庭もあった。
- ・ 2025 年の春季事業では、イオンエンターテイメント株式会社の協力のもと、イオンシネマでの鑑賞を希望する家庭には、飲み物・ポップコーンの特典付き鑑賞チケットを提供している。
- ・ 事業への参加家庭からは、毎年長期休みは外出ができなかったところ、この事業のおかげで子どもと一緒に映画に出かける体験ができた、親子一緒に映画を観ることができた、子どものお出かけや会話のきっかけになった、学校での友達との共通の話題ができた、などの意見が挙げられた。映画鑑賞体験自体のほかに、普段とは異なる体験に触れることや家族での思い出づくりの観点等でも本事業を評価する意見が挙げられた。

## 情報の出典

認定 NPO 法人チャリティーサンタ「シェアシネマ」ウェブサイト

(<https://sharecinema.charity-santa.com/>) (2026. 2. 12 最終閲覧)

認定 NPO 法人チャリティーサンタ「経済的な困難を抱える家庭の夏休みの実態について」

([https://www.charity-santa.com/news/2025summer/?\\_gl=1\\*11m1wx9\\*\\_gcl\\_au\\*NzcyNjY1OTk1LjE3Njc1ODk3NzI.\\*\\_ga\\*MjEwMDc5MTY2NS4xNzY3NTg5Nzcy\\*\\_ga\\_PEJL9JQ6ZC\\*cze3NzA4ODE0MzgkbzYkZzEkdDE3NzA4ODMyOTYkaJYwJGwwJGgw](https://www.charity-santa.com/news/2025summer/?_gl=1*11m1wx9*_gcl_au*NzcyNjY1OTk1LjE3Njc1ODk3NzI.*_ga*MjEwMDc5MTY2NS4xNzY3NTg5Nzcy*_ga_PEJL9JQ6ZC*cze3NzA4ODE0MzgkbzYkZzEkdDE3NzA4ODMyOTYkaJYwJGwwJGgw)) (2025 年 7 月) (2026. 2. 12 最終閲覧)

認定 NPO 法人チャリティーサンタ「映画鑑賞体験への支援寄付者向け報告書」

(<https://www.charity-santa.com/wordpress/wp-content/uploads/2024/11/c08cda0b65a304ac02f8aca130580f4d.pdf>) (2026. 2. 12 最終閲覧)

NHK ニュース「夏休みらしい体験を” 無償で映画を楽しんでもらう取り組み」(2025 年 8 月)

(<https://news.web.nhk/newsweb/na/na-k10014901501000>) (2026. 2. 12 最終閲覧)

映画ナタリー「“思い出不足” の親子に映画館での特別な体験を届ける、認定 NPO 法人チャリティーサンタの「シェアシネマ」とは」(2025 年 8 月)

(<https://natalie.mu/eiga/column/632812>) (2026. 2. 12 最終閲覧)

## (10) うえだ子どもシネマクラブ

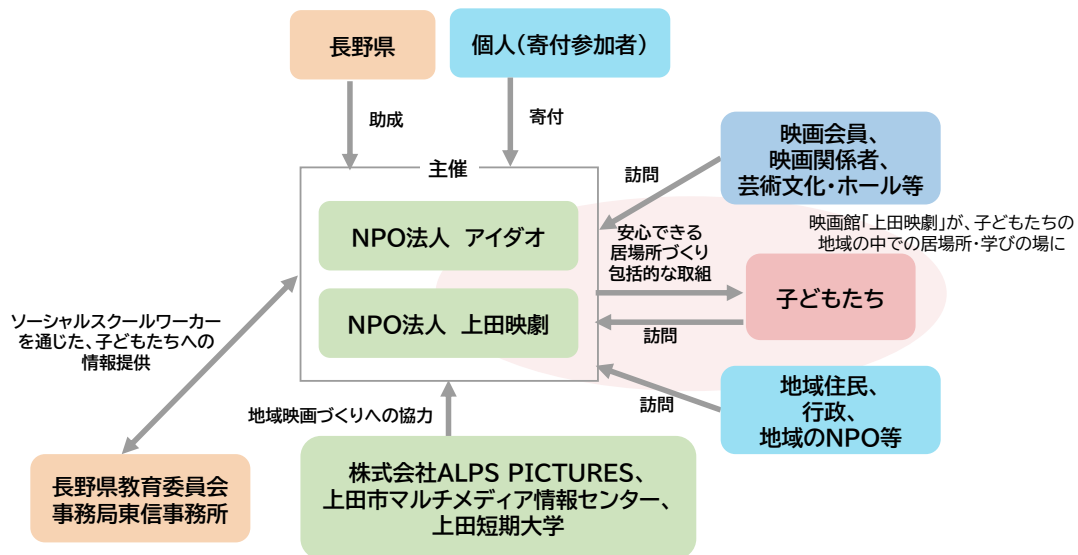
### 基礎情報

取組実施期間: 通年(映画上映: 毎月2回程度、映画館での受入れ: 平日水曜日、金曜日)  
 取組実施場所: 上田映劇  
 取組分野: 映画  
 体験の仕方: 月2回程度の映画鑑賞、平日水曜日、金曜日の映画館での受入れ  
 主な対象者: 小学生～高校生向け  
 事例の特徴: 子どもたちへの第三の居場所の提供、映画や地域の中での出会いを通じた学びの機会創出

### 主催者及び実施にかかわる団体の情報

主催: NPO 法人 アイダオ、NPO 法人 上田映劇  
 協力: 長野県教育委員会事務局東信事務所、株式会社 ALPS PICTURES、上田市マルチメディア情報センター、上田短期大学  
 助成: 2025 年度は長野県「令和 7 年度地域発元気づくり支援金活用事業」を利用  
 寄付: 2025 年 1～2月にクラウドファンディングを実施

### 取組スキーム



出所: 「うえだ子どもシネマクラブ」ウェブサイト、「うえだ子どもシネマ」への確認内容を基に MURC にて作成

### 取組概要

「うえだ子どもシネマクラブ」は、学校に行きづらい子どもたちに対して、学校や家庭以外の新たな居場所として映画館を活用する取組である。自由で創造的な体験である映画を通じ、地域の中で子どもたちが、探究心や感性を育み、新しい学びの機会を創出することを目指す。

主な事業としては、月2回程度の映画上映会や平日週2日の施設への子どもの受入れなどを実施している。

月2回程度の映画上映会は、上田映劇の休館日に開催されている。上映会では、上田映劇のスタッフが選んだ映画を本クラブに登録している子どもは無料で鑑賞できる(ただし、初回登録料として500円が必要)。なお、大人の鑑賞料金はクラブに登録している保護者は1,000円、それ以外は通常料金である。参加者は、子どもやその保護者のほか、教育や支援に関わる大人、映画関係者等

多岐にわたり、参加人数が多い回では1回30名程度になる。映画上映後には、監督との交流会や感想をシェアする会など、イベントが設けられることもある。

平日2日の映画館の開放では、平日水曜日、金曜日の10～15時にかけて、営業中の映画館での子どもたちの受入れが行われている。子どもたちは受付や掲示物の張替えなど劇場の仕事を手伝いながら、映画の話をしたり、お茶を飲んだり自由に過ごすことができる。

2017年の教育機会確保法の施行を受けて、不登校の子どもへの学校以外での多様な学びの場の整備が求められている。その中で、本シネマクラブへの活動参加を学校長の判断で学校の先生への出席扱いと同等と認める事例もある(2026年3月時点では小学生2名が認定)。学校の先生、スクールソーシャルワーカー、うえだ子どもシネマクラブの3者で連携しつつ、地域で子どもたちの自立を支えている。

### 【登録案内】



出所：「うえだ子どもシネマクラブ」ウェブサイト

### 取組開始の経緯

長野県での民間団体への休眠預金活用制度を利用した、『孤立を生み出さないための居場所作りの整備～コミュニティシネマの活用～』事業の一部として、2020年に取組が開始される。

### 取組効果等

#### ○取組効果

2020年の事業開始からの5年間で、映画230作以上を上映し、通算2,5700名を超える子ども、保護者、教職員、教育支援関係者等が映画を鑑賞する。また、2026年3月時点でシネマクラブの登録者は約260名以上となっている。

#### ○今後の課題

今後の取組としては、子どもたちによる映画制作体験など、子どもたちが自身の感性を信じたり、意見を表現したり、他者と協力して新しいものを生み出す楽しさを感じたり、新たな気づきを得るきっかけとなる体験を拡充することを目指している。2025年には、上田市で撮影された8ミリフィルムを集めた映画に関する音声ガイドの作成に、子どもたちも関わる企画などが実施されている。

### 事業に対する評価やレポート

2025年1月にNPO法人アイダオが実施したクラウドファンディングにおいて、うえだ子どもシネマクラブへ来た子ども・保護者・教員から以下の意見が寄せられている。

(※以下、感想を一部抜粋)

- ・ 家から外になかなか出ることができなかつたり、外出先が少ない子どもが、シネマクラブに参加できた。
- ・ 支援される一支援する関係ではなく、一人の人として映画の話をしたり、世間話をする事ができた。
- ・ (うえだ子どもシネマクラブに)行くことができて自信になった。

長野県上田市における社会教育の現状や活動を整理した、「長野県上田市フィールドワークの記

録」(張 鼎甲ほか、2024 年 10 月1日)においては、職員やボランティアの方の努力のもとで、うえだ子どもシネマクラブは、子どもが安心できる居場所であり、子どもたちの選択肢を増やす機会にもなっていることを指摘している。

本取組を主催する NPO 法人上田映劇は、上田市街地で老舗映画館を守り継ぎ、子どもの居場所にも活用してきた取組が評価され、第 30 回(令和7年度)信毎選賞を受賞した。本賞は学術、芸術、スポーツ、社会活動などで優れた業績を挙げ、将来なお一層の活躍が期待される長野県ゆかりの個人、団体を顕彰するために、公益財団法人信毎文化事業財団が創設しているものである。

2026 年2月に開催された、世界政府サミット 2026(World Government Summit 2026)の一環である、政府課題に対し最先端のアプローチで取り組むイノベーション事例を選出するプログラム「Edge50」にうえだ子どもシネマクラブの取組が選出され、審査の結果トップ 10 の事例として評価された。

## 情報の出典

「うえだ子どもシネマクラブ」ウェブサイト

(<https://uedakodomocinema.localinfo.jp/>) (2026. 2. 13 最終閲覧)

信濃毎日新聞朝刊「8 ミリ集めた映画に音声ガイド 「うえだ子どもシネマクラブ」声吹き込み 「目が不自 由な人に届けたい」(2026 年1月 27 日)

Syncable「学校に行きづらい子どもたちに、映画館へおいでよ！とよびかける『うえだ子どもシネマクラブ』。映画を観る・映画をつくる体験を通じて、新しい学びの場をこどもたちに届けたい！」

(<https://syncable.biz/campaign/7500>) (2026. 2. 13 最終閲覧)

張 鼎甲ほか「長野県上田市フィールドワークの記録」筑波大学生涯学習・社会教育学研究室『茗溪社会教育研究』15 巻, p. 20-32、(2024 年 10 月 1 日)

(<https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/records/2014804>) (2026. 2. 13 最終閲覧)

NPO 法人 Greenz「映画館が子どもたちの居場所に。学校からちょっと離れて、自分の世界を広げていく「うえだ子どもシネマクラブ」(2023 年 5 月)

(<https://greenz.jp/2023/05/31/uedakodomocinema/>) (2026. 2. 13 最終閲覧)

マガジンハウスこここ「不登校の子どもたちの新しい「居場所」を目指したコミュニティシネマとは。映画館を活用する「うえだ子どもシネマクラブ」(2023 年 5 月)

(<https://co-coco.jp/news/uedakodomocinema/>) (2026. 2. 13 最終閲覧)

長野県文化芸術情報発信サイト CULTURE. NAGANO「映画館を活用して、子ども・若者の課題に向き合う～『うえだ子どもシネマクラブ』～」(2021 年 2 月)

(<https://www.culture.nagano.jp/special/5172/>) (2026. 2. 13 最終閲覧)

「上田映劇」ウェブサイト「うえだ子どもシネマクラブが World Government Summit 2026 に招待されました！」

(<https://www.uedaeigeki.com/news/32738/>) (2026. 3. 4 最終閲覧)

Apolitical ウェブサイト「Edge 50」

(<https://apolitical.co/list/en/edge-50-2026>) (2026. 3. 4 最終閲覧)

「上田映劇」ウェブサイト「【お知らせ】第 30 回信毎選賞を受賞しました。」

(<https://www.uedaeigeki.com/news/31600/>) (2026. 3. 4 最終閲覧)

信濃毎日新聞ウェブサイト「上田映劇が信毎選賞を受賞 「映画と人、人と人がつながって生まれる物語」」

(<https://www.shinmai.co.jp/news/article/CNTS2025111901056>) (2026. 3. 4 最終閲覧)

### 3. 海外事例調査結果

#### (1) Barbican Centre による子供・若者向けのプログラム(イギリス)

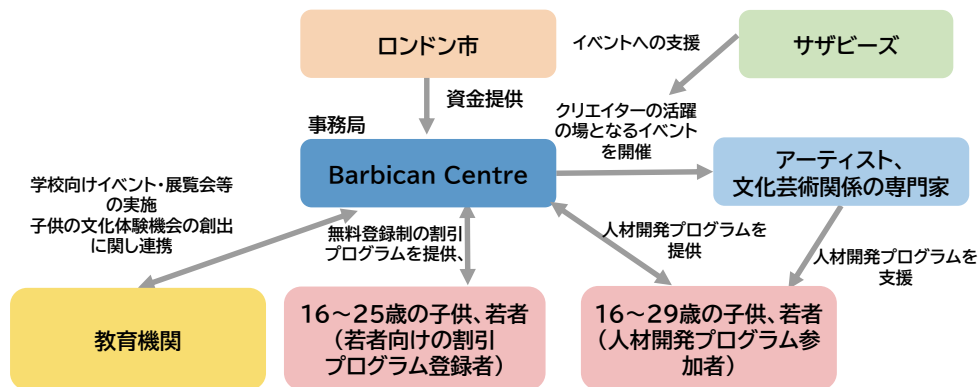
##### 基礎情報

取組実施期間: 通年  
 取組実施場所: ロンドン市内の文化施設 Barbican Centre  
 取組分野: 芸術文化全般  
 体験の仕方: 単発でのイベント・展覧会・講演会の開催、若者向けの無料での登録制割引プログラムの提供、一定期間にわたる若手クリエイター向けの人材プログラムの開発  
 主な対象者: 学校向けの展覧会の見学や映画上映会、ワークショップは、primary school、secondary school が対象、若者向けの割引プログラムは 16~25 歳が対象、人材開発プログラムは 16~29 歳が対象  
 事例の特徴: 体験格差解消(経済要因、学校外体験)、文化施設による施策、文化芸術と学校運営組織の連携、人材育成プログラム

##### 主催者及び実施にかかわる団体の情報

主催者: Barbican Centre  
 連携先: 周辺の教育機関(学校運営組織 The Harris Federation 等)、アーティスト・文化芸術関係の専門家  
 資金提供: ロンドン市、  
 サザビーズ(2023 年の Young Barbican Takeover Festival への支援)

##### 取組スキーム



出所: Barbican Centre ウェブサイトを基に MURC にて作成

##### 取組概要

ロンドンの文化施設 Barbican Centre は、文化芸術への若者のアクセスを広げることを目的として、多様な取組を長年実施している。より多くの子供・若者が文化芸術にアクセスし、文化的な学びの機会を得るために、2026 年時点では、主に以下の取組を行っている。

事業名	概要
Young Barbican	16~25 歳の若者を対象に、無料での登録制割引プログラムを提供している。本プログラムの登録者は Barbican Centre で実施している、映画、展覧会、コンサート等のイベントに低価格で参加できるほか、施設内のショップや飲食店の割引も受けられる。また、登録者向けにイベントの情報配信や登録者限定の招待イベント等も開催している。

事業名	概要
Young Creatives	16～29 歳向けに実践型の人材開発プログラムを実施している。業界で活躍するアーティストやパフォーマー、専門家等の指導を受けながら、作品制作やパフォーマンス、イベントの企画・運営などのスキルを身に付ける。プログラムの期間は6か月程度で、対面参加を推奨しているが、参加者の健康状態等の理由に応じてオンライン参加にも対応している。参加者には旅費、子供がいる場合の保育料、通信費用等を補助する奨学金の提供もある。2025～2026年の期間は、詩作・発表に関するプログラム、映画祭の企画・実施プログラムの2種類が実施されている。
Young Barbican Takeover Festival	Barbican Centre を1日限定で貸切り、若手クリエイターやキュレーターによる作品発表を行うイベントを実施している。本イベントでは、ワークショップやライブ・文学パフォーマンス、映画上映等が実施される。イベント当日だけでなく、企画運営にも若者が専門家と協力する形で参加している。2026年では本イベントは3月29日に開催予定である。
教育機関との連携	子供に文化学習体験を提供するため展覧会の見学や映画上映会、ワークショップへの参加、演劇公演への参加等を primary school(5～11・12歳の子供が通う初等教育機関)、secondary school(11～16歳の子供が通う中等教育機関)を対象に受け付けている。学校による見学の場合、生徒の年齢に応じて、無料または安価な割引価格で訪問が可能である。

### 取組開始の経緯

若者向けの人材開発プログラムである Young Creatives 事業のうち、詩作や作品発表の方法等を学ぶ「Barbican Young Poets」は2009年より実施している(その後、映画やビジュアルアートを対象としたプログラムも開始)。

若者向け芸術フェスティバル「Young Barbican Takeover Festival」は、2023年4月にサザビーズの支援のもと実施され、若手クリエイターによるパフォーマンスやワークショップ等が行われた(※本フェスティバルの参加は16歳以上であれば上限はなし)。

また、2025年には、Centre for Londonによるレポート『Arts for All』の内容を受けて、ロンドンで最も支援が行き届いていない行政区の数千の子供たちに向けた文化的な学びの機会を、Harris Federation と協力の上、提供することを発表しており、同機関が運営する学校の学生が展覧会の見学に参加している。

### 取組効果等

#### ○取組効果

2025年4月時点で Young Barbican の会員数は約7万7000名である。

#### ○今後の課題

Centre for London により、2025年4月に発表されたレポート『Arts for All』(Rob Anderson, Daniel Reast)では、文化団体が参加への障壁を取り除く緊急の必要性を強調し、芸術を日常生活により深く浸透させることや、背景に関わらず全ての子供が文化的学びにアクセスできるようにすることを提言している。この内容を受けて、Barbican Centre 側としても、幼少期から芸術に触れることの重要性を認識するとともに、Harris Federation と協力の上、若者の教育を拡充することを発表している。

具体的には、ハリス・フェデレーションが運営する学校の子供たちに創造的な学びの機会を提供

するとともに、Young Barbican のプログラムの充実を図り、2026 年未までに会員数 10 万人達成を目標にするなど、さらに多くの若者、特に低所得層の若者への芸術アクセスの拡充を目指す。

### 事業に対する評価やレポート

Barbican Centre が実施している子供向けの取組のうち、Young Creatives 事業に関して、過去の参加者から以下の感想が挙げられている。

(※以下、感想を仮訳の上、一部抜粋。)

- ・ 本プログラムはクリエイターや活動家としての私たちの面が活性される空間です。(Barbican Young Poets 参加者)
- ・ 自分のやりたいことをすることで確実に自信が持てるようになり、自然に成長できました。(Barbican Young Poets 参加者)
- ・ 本プログラムのおかげで充実感と自信がわきました。自分の人生の理想が見えた気がします。(Barbican Film Programmers 参加者)

### 情報の出典

Barbican Centre 「Barbican expands arts access for young people across London」

(<https://www.barbican.org.uk/our-story/press-room/barbican-expands-arts-access-for-young-people-across-london>) (2026. 2. 18 最終閲覧)

Barbican Centre 「Schools and colleges」

(<https://www.barbican.org.uk/take-part/schools-and-colleges>) (2026. 2. 18 最終閲覧)

Barbican Centre 「Young Creatives」

(<https://www.barbican.org.uk/take-part/young-creatives>) (2026. 2. 18 最終閲覧)

Barbican Centre 「Young Barbican Takeover Festival 2026」

(<https://www.barbican.org.uk/whats-on/2026/event/young-barbican-takeover-festival-2026>) (2026. 2. 18 最終閲覧)

Sotheby's 「Young Barbican and Sotheby's Welcome a New Generation of Creatives」(2023 年 11 月 23 日)

(<https://www.sothebys.com/en/articles/young-barbican-and-sothebys-welcome-a-new-generation-of-creatives>) (2026. 2. 18 最終閲覧)

Centre for London ウェブサイト Rob Anderson, Daniel Reast 「Arts for All: Tackling Barriers to Arts and Cultural Participation in London」(2025 年 4 月 3 日)

(<https://centreforlondon.org/publication/arts-for-all/>) (2026. 2. 18 最終閲覧)

Harris Academy Peckham 「Year 9 Explore Contemporary Art at the Barbican」

(<https://www.harrispeckham.org.uk/academy-life/news-highlights/item/49/year-9-explore-contemporary-art-at-the-barbican>) (2026. 2. 18 最終閲覧)

## (2) L'Art pour grandir(フランス)

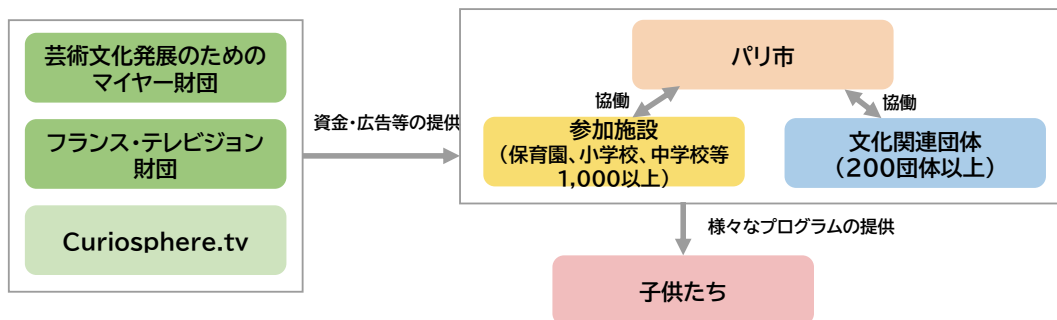
### 基礎情報

取組実施期間: 通年  
 取組実施場所: パリ市内の保育施設、学校、学童保育、音楽院、図書館、博物館、劇場、コンサートホール、映画館等  
 取組分野: 芸術文化全般  
 体験の仕方: 一定期間にわたるイベント(事業により異なる)  
 主な対象者: 主に未就学児～中学生向け  
 事例の特徴: 公共と民間、文化施設、芸術家等との連携、主に未就学児～中学生向け、多様なプログラム

### 主催者及び実施にかかわる団体の情報

主催者: パリ市  
 パートナー: 1,000 以上の施設(保育園、学校、学童保育施設、中学校、職業高校、医療・学校施設、排除された生徒のための施設等)、200 以上の文化関連団体(図書館、博物館、音楽院、市内芸術関連施設、芸術文化団体・連盟等)

### 取組スキーム



出所: パリ市「L'Art pour grandir」リーフレットを基に MURC にて作成

### 取組概要

パリ市内での芸術・文化教育分野を発展させるため、2009 年より開始したプログラム。本事業ではパリ市内の子供・若者に対し、無償で芸術・文化教育活動を提供し、芸術体験や作品への感性を育むこと、若者の成長を後押しし芸術的知識を提供することを目指している。取組の実施にあたっては、1,000 以上の施設や、200 以上の文化関連団体とも協力している。

本文化施策のもと、未就学児～中学生までの子供に対して、ワークショップや舞台鑑賞、アーティストとの交流、首都の文化施設への訪問などの、文化体験を提供している。本プログラムは学校の授業時間、課外活動、放課後活動等の様々な枠組みで実施されている。障害がある方やフランス語を学習途中の方も対象としているほか、本取組は市内の裕福でない地区で優先的に実施されている。

プログラム内では各学校や学童保育等と、アーティストや文化施設との間の連携・関係構築が重視されている。プロジェクトは単年度または複数年度にわたるコースとして設計されており、(プログラムによって内容は異なるが、共通して)下記のような内容が実施される。

- ・ 文化施設を定期的に利用することで、美術館、劇場、コンサートホール、映画館が自分たちに開かれた場所であることを子供や保護者に認識させる。
- ・ 長期的な参加型プロジェクトによって年度を通して子供が多様な関係者(教員、指導、メディア

- ーター、アーティスト、専門家)からの支援を受けられるようにする。
- ・ 実施した活動の成果発表を(可能な限り文化施設で)企画し、子供たちの取り組みを評価する。

2026年度時点では、本プログラムの中で主に以下の事業が展開されている。

事業名	概要
文化オリンピアド	パリ五輪のレガシーの一環として、文化とスポーツを融合した若者向け短期・長期プログラムを劇場、フェスティバル等で実施。
アーティスト・レジデンス(中学校、小学校、保育園、母子保健センター等での実施)	パリ市の小中学校などで、多様な分野のアーティストの受入を行う。子供たちは、ワークショップや課外活動、最終発表を通じて創造的なプロジェクトに参加。本取組により、教育の継続性を支えるため専門家同士の連携も強化。
学校で一つの作品 現代アート基金 — パリ・コレクションズのオリジナル作品展示	現代アート基金 — パリ・コレクションズの作品を市内の学校や幼児施設に1年間展示し、芸術を学校に届ける取組。学校に展示された作品と日々接することで、子供たちは批判的思考や好奇心、創造力、市民意識を育む。
中学校コレクション	中学生を対象とした3年間の長期芸術・文化教育プログラム。生徒による現代アート作品の紹介・推薦や家族への作成の貸出等を行い、現代アートの世界や「遺産」という概念を学習。
音楽啓発プログラム	市立音楽院の教師とパリ市の教師、学校の教師が連携して毎年12,000人の小学1年生を対象に実施。音楽・ダンスを「聴く」「出会う」「体験する」ことへの感性を育てることを目指す。
課外活動の時間	市立音楽院や文化施設では、未就学児と小学生向けに週2日、無料で参加できる課外活動を提供。
市立音楽院	市内にある17カ所の音楽院は、1,000人以上の若者に演劇、ダンス、音楽のプログラムを提供等。
図書館	市内には図書館が70館あり、身近な文化・レジャーの場として、幼稚園から高校まで2,000以上のクラス、計41,000人の生徒を受入れ等。
映画館	パリ市内の60,000人以上の子供(幼稚園児～中学生)を対象に、「第7の芸術」である映画の魅力を感じる3つのプログラム(「Mon Premier Cinéma(私の初めての映画)」、「École au cinéma(学校での映画鑑賞)」、「Collège au Cinéma(中学校での映画鑑賞)」)を実施。
美術館	学童保育の子供たち11,000名を受入れ、コレクション見学、創作ワークショップ、物語の時間などの活動を提供等。
舞台芸術	若者がさまざまな舞台芸術(オブジェクト演劇、ダンス、演劇、マリオンネットなど)を鑑賞し、体験できるプログラムを支援等。市立劇場は約3,000人に毎年演劇体験を提供。
美術の日	小学生が共通テーマのもと、集団で芸術作品を企画・制作し、作品を文化施設や区役所、屋外など普段とは異なる場所で発表。

事業名	概要
青い文化ワークショップ	放課後に子供たちが、外部事業者が提供する8つのテーマのワークショップに参加する事業。世帯所得に応じて料金が決定。
芸術・文化プロジェクトクラス (PAC)	国とパリ市が提供する芸術文化の専門家によるプログラム。小学校の授業時間8～15時間を使用し、表現力(口頭・文章)の向上を目指し、最後に成果発表を行う。
パス・ジュヌ(若者パス)、キオスク・ジュヌ	パス・ジュヌでは学校休暇期間に使用できるチケットブックを14～25歳に提供、キオスク・ジュヌは年間を通して13～30歳の若者に、招待券や優待価格でのチケットを提供。

また、パリ市では、市が実施する芸術・文化教育プログラムの学校ごとの実施率や、プログラムごと・時間帯ごとの参加児童数を、統計的に追跡できるシステムで管理している。本システムは、地位教育プロジェクト上での評価や、今後の戦略やプログラムの普及・発展の方向性を決定に活用されている。

### 【L'Art pour grandir ロゴマーク】

### 【取組の様子】



出所：パリ市提供資料

出所：パリ市「L'Art pour grandir 2026」リーフレット

### 取組開始の経緯

パリ全体で芸術・文化教育を発展させるため、文化局と他部局(教育局、家族・乳幼児局、保健局、社会福祉センター、青少年スポーツ局)が文化およびアニメーション(社会教育・野外活動)分野の関係者を動員し、文科を共有するための独自の枠組みを構築。その枠組みの中の取り組みの一つとして、2009年に本事業が開始された。

初年度(2009年度)は計244の学校、130の学童保育センター、36の中学校(全中学校の30%)、10の市立美術館、FMAC(パリ市現代アート基金)、1つの劇場、2つの音楽団体、3つの区立コンセルヴァトワール、18の映画館、5つの協会がプロジェクトに参加。合計数千人の子供たちにプロジェクトを届けた。

また、下記のような効果がみられたとされている。

- ・ 一部指導員の実践の変化、子供や若者の文化活動への参加・主体的な意識の定着。
- ・ 市の提供する文化サービスが若い観客のニーズにより適合し、開かれたものになったこと。また、子供や若者が親を美術館に連れていくようになったこと。
- ・ 参加者(指導員、子供、教員)の多数の参加と強い関わり合い。

### 取組効果等

#### ○取組効果

パリ市の提供情報に基づくと、2024/2025年度(2024年9月から2025年8月)時点での、本事業に関する主要指標は以下のとおりである。

- ・ 保育園から中学校を中心に市内1,000以上の施設で事業を展開している(保育園・小学校の95%、中学校の90%で事業を実施しているほか、300のレジャーセンター、保育園、排

除された生徒のための施設、職業高校、医療・学校施設にも展開している)。

- ・ 幼稚園から高校までの 41,000 人の子供を市立図書館に受入れている。
- ・ 2017 年以降、毎年 13,000 人の小学1年生に対して「音楽啓発プログラム(PSM)」を提供している。
- ・ 幼稚園から中学校までの 64,000 名の子供が、「Mon Premier Cinéma」「École au Cinéma」「Collège au Cinéma」の3つのプログラムを通じて映画(第7芸術)を体験している。
- ・ 10,000 人の子供が、パリ市の保有・管理する現代アートコレクション「パリ・コレクションズ」を展示する「学校で一つの作品」プログラムで現代アートに触れている。
- ・ アーティスト・レジデンスの取組を、中学校で 72 件の(うち9件はオリンピック関連)、保育園で 38 件、小学校で 10 件、母子保健センターで 4 件実施した。
- ・ パリ公文書館では、小学4年生から高校3年生までの 42 クラスに対し、パリの歴史に関する教育ワークショップを実施している。
- ・ 音楽院、パリ・アニメセンター、市のアニメーターや多くのパートナーにより、課外活動の枠組みで 6,500 件の無料文化ワークショップが提供されている。

#### ○今後の課題

今後のプロジェクトの展望としては、下記のようなものが挙げられた。

- ・ 学校、学童保育、中学校、パリ市の文化施設を基盤としてプロジェクトを継続させながら、提供する文化芸術の分野の多様化を図り、特に視覚リテラシー教育等を通じた考古学関連の取組やスポーツと文化の連携などの学際的なアプローチを促進する。
- ・ 子供たちの積極的な参加を促し、彼らの意見を収集するとともに、主体的な意思決定ができるように支援する。
- ・ パリの家庭や青少年の文化的慣習をより深く理解し、それに応じた適切なサービス提供を行う。
- ・ 子供の一日の生活に合ったプログラムを提供し、学校時間と課外活動の架け橋を築く。
- ・ 幼児期の芸術・文化プログラムの展開を継続するとともに、児童福祉サービスなどの他の関係団体へも対象を拡大する。

#### 事業に対する評価やレポート

本プログラムは、公共イノベーション観測所(l'Observatoire National de l'Innovation Publique,)が、地方自治体の革新的な取り組みを表彰するテリトリア賞を、2010年に、受賞している。

2015 年に掲載された以下の論文では、本プロジェクトにおける制度の紹介やそれを踏まえた評価が掲載されている。

小林 純子、「子どものための芸術文化活動：「成長のための芸術」プロジェクトを事例に」、南山大学 ヨーロッパ研究センター報 = Bulletin of the Nanzan Center for European Studies. 2015. 21. 15-26

これによると、本プロジェクトは多様な文化との関わり方を学ぶ場となり、『『卓近な現代文化』と『高尚な伝統文化』という序列化をなくし、文化実践を民主化する役割を果たしている』一方で、例えば(受入人数等の限界から)「美術館の国で」プログラムで連携している小学校と余暇センターがそれぞれ総数の 40 パーセント未満にとどまる(2010~2014 年)など、子供の芸術文化活動のために美術館等の公的施設を利用することには制度的に様々な限界があるとされている。

2020年以降、パリ都市計画研究所(Apur)では、パリ市文化局(DAC)と連携し、学校で実施されている芸術・文化教育プログラム(継続的な体験プログラムが対象)の追跡調査を行っている。本調査によると、2024/2025年度では、公立小学校の99%(640校中636校)、公立中学校の97%(114校中111校)93のその他施設が芸術・文化教育プログラムに取り組んでいる。

## 情報の出典

パリ市「L'Art pour grandir」

(<https://www.paris.fr/pages/l-art-pour-grandir-2093>)

(<https://www.paris.fr/pages/les-programmes-du-label-art-pour-grandir-33167>)

(2026.2.17 最終閲覧)

国際教育都市連合「L'Art pour grandir」

(<https://bidce.org/fr/experience/313>) (2026.2.17 最終閲覧)

パリ市「L'Art pour grandir 2026」リーフレット

(<https://cdn.paris.fr/paris/2026/01/26/plaquette-webapg-25-26-5qtY.pdf>) (2026.3.12 最終閲覧)

パリ市「L'Art pour grandir」リーフレット

([https://bidce.org/archives/1707921478\\_+%20info%20\(en%20franc%C3%A9s\).pdf](https://bidce.org/archives/1707921478_+%20info%20(en%20franc%C3%A9s).pdf)) (2026.2.17 最終閲覧)

覧)

Cour des comptes「Annexe no8 : la politique d'éducation artistique et culturelle portée par la ville de Paris」L'éducation artistique et culturelle au bénéfice des élèves de l'enseignement scolaire 2025.2

パリ都市計画研究所(Apur)「Les dispositifs de l'EAC en 2024/2025」

国際教育都市連合「L'Art pour grandir」

(<https://bidce.org/fr/experience/313>) (2026.2.17 最終閲覧)

小林 純子. 「子どものための芸術文化活動 : 「成長のための芸術」プロジェクトを事例に」. 南山大学ヨーロッパ研究センター報 = Bulletin of the Nanzan Center for European Studies. 2015. 21. 15-26

### (3) 文化弱者との同行事業(韓国)

#### 基礎情報

取組実施期間:2023 年

取組実施場所:ソウル市内の劇場、ホール、博物館、美術館などの文化施設等

取組分野:芸術文化全般

体験の仕方:単発イベント、複数回・一定期間にわたるイベント、長期のワークショップ・習い事(事業により異なる)

主な対象者:小学生～高校生(事業内容により変化)

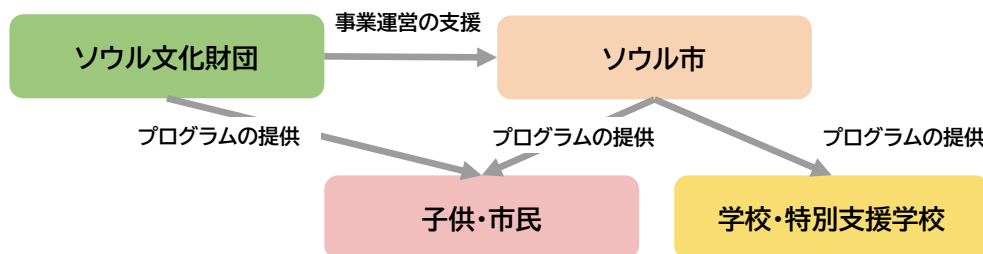
事例の特徴:体験格差解消(経済的・身体的・健康的要因)、複数事業からなる支援策

#### 主催者及び実施にかかわる団体の情報

主催者:ソウル市

連携協賛先:ソウル文化財団、市内学校、市内文化施設

#### 取組スキーム



出所:ソウル特別市ウェブサイトを基に MURC にて作成

#### 取組概要

2023 年4月の記事<sup>\*1</sup>によると、ソウル市では、経済的、身体的条件等に関わらず誰もが文化芸術を楽しむことができるよう、「2023 年文化弱者との同行」事業計画を開始した。本事業では、青少年・青年層、身体的な障害を抱える方、経済的困難を抱える方、ソウル市民を対象に、文化芸術へのアクセスを拡大するための取組を実施する。

支援対象は①将来の文化市民となる青少年・青年層、②身体的なハンディキャップにより文化芸術を享受することが困難な市民、③経済的困難により文化芸術を享受する機会が少ない脆弱階層、④日常近くで文化に出会う市民などとなっている。

子供向けの取組は下記のものが見られる。

##### ① 青少年・青年層

- ・ ソウル青年文化パス:世帯所得が平均の 150%以下の満 19 歳の市民を対象に公演観覧に利用可能な 20 万ウォンの「文化利用券」(バウチャー)を支給
- ・ 公演の春の日:小学6年生～中学3年生の学生に無料講演観覧を支援

##### ② 身体的なハンディキャップのある市民

- ・ 特別支援学校学生の博物館・美術館支援事業:特別学校の学生と教員に対して鑑賞ツアーを行う
- ・ 障害者青少年美術教育支援事業:才能ある障害者青少年(9～24歳)に対してプロの芸術家として活躍できる足掛けを作る

##### ③ 経済的困難を抱える階層

- ・ 低所得者層芸術英才教育事業:「中位基準所得」未満の子供を対象に、各専攻・分野別の教授による授業・指導を実施する

## 取組開始の経緯

ソウル市の文化本部長は、2022 年度より開始した「弱者との同行」事業の一つの領域として「教育・文化」が位置付けられたことや、イギリス・フランス・ドイツなどによる近年の「文化のバリアフリー化」に関する政策の動向を背景に、2023 年4月に文化本部の同年度予算の11%である635億ウォンを投じて18の事業を行う「文化弱者との同行」を実施することを記者説明会で公表した。

本事業は2026年度には本部予算の20%まで拡大することを目指している。

## 取組効果等

2023 年4月の文化本部長記者説明会によると、先述した子供向けの取組に関する対象人数、予算は下記の通りである。

事業名	対象者数	予算
ソウル青年文化パス	約 28,000 名	67 億ウォン
公演の春の日	不明	33 億ウォン
特別支援学校学生の博物館・美術館支援事業	約 6,200 名	3億ウォン
障害者青少年美術教育支援事業	約 70 名	2億ウォン
低所得者層芸術英才教育事業	260 名(音楽 155 名、 美術 105 名)	12 億ウォン

また、2023 年4月の文化本部長記者説明会によると、前年度までも開催されていた「公演の春の日」や「特別支援学校学生の博物館・美術館支援事業」、「低所得者層芸術英才教育事業」について下記のようなデータ(全て2022年度のもの)が公表されている。

### ○公演の春の日

- ・ 教師の満足度:93%
- ・ 学生の満足度:94%
- ・ 親の満足度 100%

### ○特別支援学校学生の博物館・美術館支援事業

- ・ 学校の満足度:95%
- ・ 障害者向けプログラムの開発意向がある博物館・美術館:91%

### ○低所得者層芸術英才教育事業

- ・ 芸術学校への進学:18名
- ・ コンクール・大会での受賞:47名・87回

## 事業に対する評価やレポート

本事業を直接評価したレポート等は見当たらないが、「弱者との同行」事業の一領域である「教育・文化」に対する評価は「弱者同行指数」として間接的に毎年示されている。

「스마트서울뷰 약자동행지수(Smart Seoul View 弱者同行指数)」

(<https://scpm.seoul.go.kr/companion?utm>)

これによると、「社会的に不利な人々の文化活動参加率」は2022年45.08%、2023年38.22%、2024年43.25%とあまり変化が見られていない。

## 情報の出典

\*1: ソウル特別市「青年文化パス、千ウォンの幸せ…『文化弱者との同行』を推進」

(<https://mediahub.seoul.go.kr/archives/2007593>) (2026. 2. 17 最終閲覧)

Korea JoongAng Daily 「Seoul to host cultural programs for disadvantaged」

(<https://koreajoongangdaily.joins.com/2023/04/12/national/socialAffairs/korea-seoul-culture/20230412181419202.html>) (2026. 2. 17 最終閲覧)

ソウル特別市「ライブソウル 23年文化弱者との同行政策 記者説明会」

<https://tv.seoul.go.kr/v/c54d91993fc244dbabb6c90c7a6f452a> (2026. 2. 17 最終閲覧)

ソウル特別市「弱者と共にあるためのソウル市の約束、『弱者同行指数』」

<https://news.seoul.go.kr/gov/archives/553226> (2026. 2. 17 最終閲覧)

Smart Seoul View「弱者同行指数」

<https://scpm.seoul.go.kr/companion?utm> (2026. 2. 17 最終閲覧)

(4) Kulturskolerådet(文化学校評議会)と Kulturskola(文化学校)による子供への芸術文化体験の提供(スウェーデン)

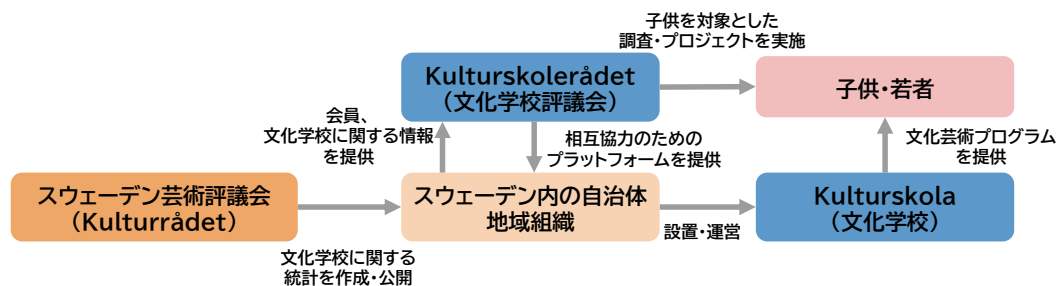
**基礎情報**

取組実施期間: 通年  
 取組実施場所: スウェーデン各地の文化学校  
 取組分野: 芸術文化全般  
 体験の仕方: 単発でのプログラム、複数回からなる短期のプログラム、長期の学期または年間単位のプログラム実施※文化学校・分野によって異なる  
 主な対象者: 子供・若者※対象年齢は文化学校ごとに異なる。一例としてストックホルム市文化学校では6～22歳が対象  
 事例の特徴: 体験格差解消(文化芸術分野)、全国の文化学校と連携した取組の展開、取組内容の発信

**主催者及び実施にかかわる団体の情報**

主催者: 文化学校評議会、スウェーデンの各地にある文化学校評議会  
 文化学校の設置主体: スウェーデン市内の自治体、地域組織  
 文化学校に関する統計の作成: スウェーデン芸術評議会

**取組スキーム**



出所: Kulturskolerådet ウェブサイトを基に MURC にて作成

**取組概要**

スウェーデンにある文化学校評議会は、政治や労働組合から独立した非営利団体として、文化学校を運営する自治体に相互協力のためのプラットフォームを提供している。全ての子供や若者が、質の高い、アクセス可能な文化の実践・活動を通じて、自己を成長させる平等な機会を持つことをビジョンに置く団体である。国の政策において、自治体の文化学校活動を代表する主体として、自治体の課題を提起、関係者と対話し、自治体の視点から問題解決に向けた取組を推進している。

スウェーデン内地方自治体の多くは、自治体や地域組織によって運営されている文化学校を有しており、子供、若者に音楽、美術、ダンス、演劇、メディア等の多様な文化芸術分野に関するプログラムを、子供たちにとってアクセスしやすい形で提供している。

また、文化学校評議会では全国の文化学校とも協力し、子供を対象とした調査・プロジェクトや取組成果の情報発信・提言、文化学校の教員向けの研修等の事業も展開している。直近のプロジェクトとしては、スウェーデン政府による交付金を利用し、文化学校のオンラインプラットフォームの開発・立上げを行っている。これにより文化学校のプログラムにおいてデジタルコースを拡充し、教育者と生徒のデジタルスキル向上に寄与することを目指している。

## 取組開始の経緯

1979年に設立されたスウェーデン各地の音楽学校長のネットワーク組織を前身とするスウェーデン音楽・文化学校評議会が、2015年に名称変更する形で、文化学校評議会は設置された。

## 取組効果等

スウェーデン芸術評議会が発行する文化学校の取組に関する統計『数字で見る文化学校 2023』によると、2023年時点で文化学校は、スウェーデン国内 290 の自治体のうち、286自治体に存在し、約 20 万人の生徒が参加している。在籍生徒の男女比は女子が 64%、男子が36%である。

文化学校が提供する科目として一般的なものは、音楽、ダンス、演劇/ドラマ、絵画/造形、映画/アニメーションが挙げられる。なお、提供科目における分野の幅が広がっており、絵画・造形、映画・アニメーション、ミュージカル、手工芸等のプログラムを提供する文化学校が増加している結果が示されている。

また、自治体の 77%では、特定の子供や若者をターゲットとした特別な支援活動を提供していた。障害のある方、農村部に居住する方、経済状況が厳しい方など、特に支援が必要な方に向けた取組が展開されている。

## 事業に対する評価やレポート

スウェーデン芸術評議会は、2017年より毎年、文化学校に関する文化学校の組織体制、提供されているコース・活動・科目、延べ参加者数及び文化学校の財政等の情報をとりまとめた統計資料を作成している。2023年の報告書の概要は上記の取組効果・今後の課題のとおりである。

■年間報告書の掲載ウェブサイト(2026.2.20 最終閲覧)

<https://www.kulturradet.se/kulturskolecentrum/statistik/rapporter-kulturskolan-i-siffror/>

文化学校評議会では、文化及び教育分野における調査等を実施し、報告書として情報発信を行っている。

■文化学校評議会による発行資料の掲載ウェブサイト(2026.2.20 最終閲覧)

<https://www.kulturskoleradet.se/publikationer/>

## 情報の出典

Kulturskolerådet 「Kulturskolerådet」

(<https://www.kulturskoleradet.se/om-oss/>) (2026.2.18 最終閲覧)

Kulturskolerådet 「Publikationer」

(<https://www.kulturskoleradet.se/publikationer/>) (2026.2.18 最終閲覧)

Stockholms stad 「Kulturskolan」

(<https://kulturskolan.stockholm/>) (2026.2.18 最終閲覧)

Kulturrådet 「Ny rapport: Kulturskolan i siffror 2023」

(<https://www.kulturradet.se/nyheter/2024/ny-rapport-kulturskolan-i-siffror-2023/>) (2026.2.20 最終閲覧)

Regeringskansliet 「Klartecken till pilotprojekt för digital kulturskola」 (2025年2月13日)

(<https://www.regeringen.se/pressmeddelanden/2025/02/klartecken-till-pilotprojekt-for-digital-kulturskola/>)



### 第3章 まとめ

#### 1. 事例調査から得られた結果

本調査では、子供への芸術文化体験の機会創出に関わる先進的な事例調査について、国内事例 10 件、海外事例4件の調査を行った。詳細調査の対象を選定する上で、事例の内容に偏りが生じている可能性があることには留意する必要があるが、調査の結果、取組の傾向、得られた知見、現状の課題として、以下のことが示された。

##### (1) 取組の傾向

###### ① あらゆる子供たちに向けた芸術文化体験へのアクセス確保に関する取組

本調査では、特に、経済的問題や地域の地理的・環境的な影響等何らかの課題を抱えているため、芸術文化体験機会へのアクセスが難しいと言われる子供に向けた取組に重点を置いて調査を実施した。そのため、詳細調査の対象となった全ての事例は、上記の取組に関する側面を有していた。

今回、詳細調査を行った取組は、実施形態別に以下の類型に整理できる。

図表 1 あらゆる子供たちに向けた芸術文化体験へのアクセス確保に関する取組の類型

取組の類型	取組概要	取組事例
クーポン・ポイントを利用した体験	・主催の登録を受けた体験イベント、チケット、習い事等の支払いで利用できる一定金額のポイントを対象者に配布するもの ・子供・保護者自身がポイントの利用手続きを行う	・長野市子どもの体験・学び応援事業「みらいハッ！ケン」プロジェクト ・次世代に向けた文化体験提供プロジェクト
単発のイベント・体験 (文化施設等の非日常の場所での体験)	・公演や観劇、映画鑑賞、旅行などの芸術文化体験を、日常から離れた文化施設等で、単発の体験機会を提供するもの ・支援団体や自治体から子供・保護者に向けた案内・募集を行う ・参加対象を、何らかの課題を抱える子供に限定している場合あり	・子どもの体験格差解消プロジェクト ・三井住友海上文化財団 ときめくひととき ・こころ羽(は)プロジェクト ・シェアシネマ
単発のイベント・体験 (学校、地域の施設等、日常の居場所での体験)	・学校や地域の施設など、日常に近い場所で単発の体験機会を提供するもの ・学校、地域施設等の団体が取組の申込を行う	・こどもの創造性を育むアウトリーチ事業 ・ASIAS
継続的なイベント・体験	・地域の施設で、一定期間・回数以上の連続した体験機会を提供しているもの ・子供・保護者が実施場所に参加を申込む	・うえだ子どもシネマクラブ ・Kulturskola(文化学校)による子供への芸術文化体験の提供
上記の取組を複数組み合わせ て実施しているもの	・目標やビジョンを達成するするため、上記の取組を複数組み合わせ実施しているもの	・京都府地域文化創造促進事業 ・Barbican Centreによるプログラム ・文化弱者との同行事業 ・L'Art pour grandir

※一事業内で複数の取組を実施している事例は、主要な取組の性質を分類対象とした。

出所：MURCにて作成

また、取組類型ごとの特徴についても、以下のとおり整理を行った。類型の違いによって、得られる効果が異なる他、実施可能な規模、必要な予算・体制等も異なる。そのため、施策の実施目的や目標とするゴール、対象者等の条件等を整理した上で、実施する取組やその組合せを検討する必要がある。

図表 2 あらゆる子供たちに向けた芸術文化体験へのアクセス確保に関する取組の特徴

クーポン・ポイントを利用した体験		単発のイベント・体験		継続的なイベント・体験	
		文化施設等の非日常の場所	学校、地域の施設等日常の居場所		
○	・子供・保護者自身が体験内容を決定できる	○	・体験機会の差の壁を有する立場にある子供にとって、貴重な経験・思い出となりやすい	○	・関心分野の経験を深めることができる ・居場所の一つになる可能性
×	・興味のあるイベントがないと参加に繋がりにくい ・体験に参加するための交通手段・移動が課題	△	・参加対象者と直接的な繋がりを持つ主体との連携が必要	×	・体験実施施設への移動が課題
・コーディネーター役による様々な利用サポートを行っている取組もあり		・両取組ともに、参加後の子供自身による体験の意味づけや、次のステップへの繋げ方は課題		・単発のイベントへ参加した後に、引き続き参加できるイベントがある	

上記の取組等を複数組み合わせるもの	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策の実施目的や主要なターゲットを踏まえつつ、施策を効果的に推進するため取組の組合せ方について検討が必要</li> <li>・取組同士を連携して実施することで、単発のイベント・体験への参加後の、次のステップの一つを提示できる</li> </ul>	

出所：MURCにて作成

なお、複数の取組に共通する特徴として、取組の体験にかかる費用を無料または安価な価格で実施している点が確認できた。取組の主な対象者が子供であることや、学校や施設と連携して実施していることに加え、特に経済的な理由による体験機会の差の是正に重点を置いている取組が多いことがその理由として考えられる。

ただし、首都圏以外の市町村で毎年取組を実施し、体験機会の差にも配慮している「三井住友海上文化財団 ときめくひととき」の取組や、取組の一部として障害がある子供限定でのイベントを開催した「長野市子どもの体験・学び応援事業「みらいハッ！ケン」プロジェクト」、特別支援学級・学校や病院等も申込の対象としている「ASIAS」、「京都府地域文化創造促進事業」、身体的なハンディキャップのある方を対象とした取組が含まれる「文化弱者との同行事業」など、一部の取組では、地理的条件や障害の有無等の理由から生じる体験機会の差にも対応している。

② 多様な主体の連携による取組

また、取組の実施に関わる主体と、取組上での主な役割は以下のものが挙げられる。

図表 3 取組の実施に関わる主体

主体の種類	取組上の主な役割
地方自治体	・地方自治体を中心となり推進する事業の企画、実施 ・民間事業者、NPO等への助成
国	・地方自治体、民間事業者、NPO等への助成
子供たちに向けた体験機会の提供に関わるNPO・企業・財団等	・自治体を中心となり推進する事業への協力・連携(事務局、ノウハウの提供等) ・団体の技術、ノウハウ等を活かした体験機会の創出・提供に関する事業の企画・実施
文化施設	・他主体を中心となり推進する事業への協力・連携(場所等の提供) ・施設の会場・展示品等の資源を生かした体験提供事業の企画・実施・協力
学校、放課後児童クラブ、こども食堂等	・体験事業の申込み主体 ・事業実施への協力(事前の調整、開催場所の確保等) ・何らかの課題を抱えている、特に支援が必要な子供の把握、日常的な支援の実施
アーティスト・芸術関係者	・子供に向けた芸術文化体験の提供(講師、実演、ワークショップ等)
社会福祉協議会・ソーシャルワーカー等支援職	・何らかの課題を抱えている、特に支援が必要な子供の把握、日常的な支援の実施 ・子供・保護者に向けた事業に関する情報提供

※主体が担う主要な役割を中心に整理したため、表に挙げた以外の役割を担っている場合もある。

出所：MURCにて作成

複数の主体が連携することで得られる効果としては、事業が対象としている層への確実な取組の提供や、取組内容の質の向上があった。具体的には、以下の点が認められる。

- ・ 学校・保育所等の施設の教員・職員など子供たちと接する時間が長い主体と連携し、取組内容を調整することで、参加する子供たちの関心を踏まえた体験プログラムを実施できること。
- ・ 社会福祉協議会、ソーシャルワーカー等の支援職など、何らかの課題を抱えている、特に支援が必要な子供たちや家族と直接的な繋がりを持つ主体と連携することで、その子供たちに取組の案内を届けやすくなること。
- ・ 地方自治体が主催する取組において、子供たちに向けた体験機会の提供に関わる団体と協働で実施することで、取組内容や実施方法がより効果的になること。
- ・ また、子供たちに向けた体験機会の提供に関わる団体側も、地方自治体と連携することで、予算面での支援が得られる、取組の広報活動に地方自治体の広報媒体を活用できる、公共施設を活用して取組が実施できる等、より大規模な取組や、実施回数を増やした取組を行いやすくなること。
- ・ 文化施設と連携し、ホール・劇場等を開催場所として利用することで、子供たちの芸術文化体験への没入感や体験から得られる感動が大きくなること。

また、本役割を担う主体は取組によって異なるが、複数の取組主体や子供たち・保護者を繋ぎ、橋渡しや調整を行うコーディネーター役が配置されている事例も確認された。①事務局側が担う事例(「三井住友海上文化財団 ときめくひととき」、「ASIAS」)、②事務局とは別に配置している事例(「長野市子どもの体験・学び応援事業「みらいハッ!ケン」プロジェクト」、「こどもの創造性を育むアウトリーチ事業」)の、それぞれの配置方法が把握できた。

## (2) 得られた知見

本調査で得られた知見は以下のとおりである。

図表 4 本調査で得られた知見

知見	概要
単発で実施するプログラム・体験の事例やメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査対象事例の全てにおいて、何らかの形で単発でのプログラム・体験を提供</li> <li>・単発プログラムは、短時間での参加が可能、学校や施設の活動時間内での実施が可能、初心者やその分野に初めて触れる方でも参加しやすい等のメリットが多い</li> </ul>
芸術文化体験へのアクセス確保に関する取組での子供たちへの繋がり方の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験へのアクセス確保に関する取組は、多様な主体による連携のもとで効果的に実施</li> <li>・すでに様々な状況にある子供・家庭と繋がりがある団体と連携を行うことが重要</li> <li>・子供の支援や事業のコーディネートに長けた専門人材・団体を配置することは、立場が異なる主体同士を繋ぎ、対象者に向けた取組内容の改善を行う上で効果的</li> </ul>
事前・事後調査を受けた取組内容のブラッシュアップの重要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前調査の結果を取り入れた体験内容の調整・変更は、体験の充実に繋がる</li> <li>・事後調査を実施し各種データや参加者の意見を把握し、取組内容の改善に生かすことは、今後の事業内容の充実や、参加にあたっての障害要因の解消に有効</li> </ul>

出所：MURCにて作成

### ① 単発で実施するプログラム・体験の事例やメリット

子供への芸術文化体験の機会創出に関する事例に重点を置いて調査を実施したため、今回の調査対象事例では、全て何らかの形で単発でのプログラム・体験を提供していた。

単発プログラムは、短時間での参加が可能、学校や施設の活動時間内での実施が可能、初心者やその分野に初めて触れる方でも参加しやすい等のメリットが多い。これから広く物事を体験し、好きなものを見つけていく立場の子供にとっては参加しやすい形態のため、多数の事例で実施されていると考えられる。

### ② 芸術文化体験へのアクセス確保に関する取組での子供たちへの繋がり方の工夫

あらゆる子供たちに向けた芸術文化体験へのアクセス確保に関する取組の多くは、多様な主体による連携のもと実施されていることが確認できた。学校や放課後の居場所、地域施設など子供たちが日常で過ごしている施設の教員・職員や、経済的に不安を抱える家庭や子供たちの支援に関わる団体、プロジェクトに関するノウハウを持つアーティストや企業、自治体、地域で活動する企業・NPO 団体等が協力することで、取組が効果的に実施されていることが読み取れる。特に地域の社会福祉協議会や放課後児童クラブ、児童館、こども食堂など、様々な状況にある子供・家庭と繋がりがある団体と連携を行うことは、特に支援を必要としている状況にある子供・保護者の実態把握やその方々の意見・希望の聞き取りにもつながるため、あらゆる子供たちに取組を届ける上で重要である。

また、「長野市子どもの体験・学び応援事業「みらいハッ！ケン」プロジェクト」や「こどもの創造性を育むアウトリーチ事業」等では、子供の支援や事業のコーディネートに長けた専門人材・団体の配置が行われていた。専門人材は取組を行う上で、実施主体と支援者やアーティスト等を繋ぎ、立場が異なる主体同士の橋渡しや調整を行う役割を担っている。取組実施のための関係主体間の調整の他に、子供や保護者、サポーター等からの相談を受けて、取組の改善点を把握し、取組内容のブラッシュアップを行った事例もあり、取組の中で重要な役割を担っていることが確認できた。

### ③ 事前・事後調査を受けた取組内容のブラッシュアップの重要性

「ASIAS」、「シェアシネマ」などでは、取組に参加した子供やその保護者、取組開催施設等に

事前のヒアリングや調査、また実施後の事後調査、第三者評価等を実施していることが確認できた。

子供は年齢による発達段階の差や個々人の個性が大きいため、子供たちが日常的に接する大人、教師・職員等からの意見を踏まえて、可能な範囲でプログラム内容を調整・変更することは、子供たちの体験を充実させる上で重要である。

また、事後調査を実施し、取組に関する各種データや参加者の感想・意見等を把握することは、今後、類似の取組を継続する際に、取組内容の改善や変更、追加等を検討する上での示唆を得ることに繋がる。これは今後の事業内容の充実や、参加にあたっての障害要因の解消にも効果が期待できる。

### (3) 現状の課題

本調査から判明した今後の課題は以下のとおりである。

図表 5 今後の課題

知見	概要
様々な状況にある子供に確実に取組を繋げるための工夫の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験機会提供の取組は広く実施されているものの、経済的理由、居住地、障害特性等を理由とした体験機会の差はまだ存在</li> <li>・体験機会の拡充を行うとともに、特に支援が必要な子供やその保護者、支援団体等の意見を踏まえ、情報発信上の工夫や、課題に応じた参加しやすさを高めるための工夫を講じる必要あり</li> </ul>
参加者にとって体験価値を上げる工夫や、参加後の次のステップのあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供自身が体験を消化し、振り返りを行う機会の設定の重要性</li> <li>・芸術文化体験や特定の分野に関心が絞られた子供が、継続してその活動を続けていくための次のステップへの繋ぎ方や、対象から外れる際のフォローが課題</li> <li>・体験への入り口以降では、一般の習い事との差異化や文化の持続性も考慮すべき</li> </ul>
取組を実施する上での資金面の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加費用は無料または安価な価格で設定されている一方、実施にあたっての費用は一定額を要する。</li> <li>・取組を効果的な形で継続していくため、資金面の工夫について、今後も検討する必要あり</li> </ul>

出所：MURCにて作成

#### ① 様々な状況にある子供に確実に取組を繋げるための工夫の拡充

本事例調査では、単発プログラムを中心に、広い地域で、一般的な方法により、無料または安価な価格で子供に向けた体験機会がすでに提供されていることが確認できた。一方で、経済的な理由(体験費用・交通費等)、居住地からの交通手段、障害特性等によりプログラムへの参加が難しい子供たちにとっては、現状ではまだ、体験機会の差が生じていることも、「長野市子どもの体験・学び応援事業「みらいハッ！ケン」プロジェクト」や「シェアシネマ」等の事例から判明した。

芸術文化体験が必要な子供たちを取り残すことなく、確実に取組を届けるためには、プログラムの実施頻度・実施場所をこれまで以上に増やすことが必要である。その他にも、特に支援が必要な子供自身やその保護者、普段から関わりがある地域団体・支援団体等の意見も踏まえつつ、その方々が体験に円滑に参加できるよう、情報発信上の工夫を講じるとともに、直面している課題に応じた参加しやすさを高めるための工夫を適切かつ柔軟に取り入れる必要がある。

#### ② 参加者にとって体験価値を上げる工夫や、参加後の次のステップのあり方

普段は、体験機会へのアクセスの差を抱えている子供たちが単発プログラムに参加した場合、その経験は子供にとって非日常のイベントになる可能性が高い。そのイベントを「楽しかった」という思い出以上の、経験として価値づけにするためには、子供自身が体験を消化し、体験の言語化

や意味づけ、振り返りを行う機会の設定が重要になる。取組の結果よりも取組のプロセスで得られる双方向の関係性やコミュニケーションを重視している「ASIAS」や、プログラム内の多くの取組で子供による成果発表や、美術作品への批評の機会等を設けている、「L'Art pour grandir」は、体験の消化や振り返りの参考となるあり方の一つとなっていると考える。

また、体験に参加した結果、芸術文化体験や特定の分野に関心が絞られた子供が継続してその活動を続けていくための次のステップへの繋ぎ方や、それに関する障壁(機会の確保、体験費用、交通手段)の解消方法、対象年齢を超えた子供が、継続的に芸術文化体験に関心を持ち、参加できるような受け皿のあり方も課題である。

対象年齢に関しては、海外事例では18歳以上の若者も含めて参加可能な取組が一定数あったのに対し、国内事例では、一部の取組を除くと対象年齢が義務教育期間中の中学生までに設定している事例が多い傾向が伺えた。

次のステップへの繋ぎ方のあり方では、「うえだ子どもシネマクラブ」や「文化学校」で実施している長期的・継続したプログラムの提供や「Barbican Centre」でのより発展的なプログラムの実施は、この課題を検討する上で参考になりうるものとする。

ただし、次のステップを検討する上では、一般の習い事との差異化や、地域での持続可能な芸術文化の醸成に貢献しているかの視点も重要になる。例えば、「三井住友海上文化財団 ときめくひととき」では、実施地域での通常の有料公演への参加ハードルが上がることを防ぐために、あえて入場料を設定している。この点は、施策や取組の実施目的や対象者の状況を踏まえつつ、慎重に検討を行う必要がある。

### ③ 取組を実施する上での資金面の課題

今回確認した事例では、体験への参加費用は無料または安価な価格で設定されているものが大半であった。

一方で、体験の実施にあたっては、実施場所の使用料、出演者・公演参加者・アーティスト・講師等への出演料、事務局担当者への給与、資材・備品費、その他プログラムごとの必要費用(システム運営費、コーディネーター役への給与等)などで、どの取組でも一定金額の経費が必要になる。プログラム実施にあたっての資金調達手段としては、①地方自治体・企業・NPO 団体等の主催者による負担、②国や地方自治体、財団等による助成・補助金等の利用、③個人による寄付、④クラウドファンディング、が示されている。

主に①により資金調達をしている場合、経費の負担団体が支出可能な資金額が、取組規模・実施回数の上限になってしまう。そのため、参加対象となる子供たちが多い場合には、対象者全員に十分に取組を届けられない可能性がある。②～④については、団体自身で準備可能な資金以上に取組を実施できる可能性はある一方で、毎年の資金確保が確約されたものではない。

子供への、無料・安価な価格での芸術文化体験機会の提供に関する取組は、実施主体側に大きく利益が発生するものではないため、取組を効果的な形で継続していくためには、資金面の課題についても、今後も検討を深めていく必要がある。

## 2. 今後に期待される追加調査について

本調査では、詳細調査の対象事例は14事例に絞った上で、ウェブサイト、論文、文献等を使用したデスク調査を実施した。調査方法や調査期間上の制約や、対象選定の結果、詳細調査対象から外れてしまった事例もあるため、結果として内容が十分には把握できていない事例がある。そのため、以下の項目について追加調査の実施が望まれる。

### (1) 追加調査の項目

今後、更なる調査の実施が望まれる項目として、主に以下の4点が挙げられる。

図表 6 今後に期待される追加調査

調査内容	概要
追加のデスク調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以下の事例について、追加のデスク調査による取組内容の把握               <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 長期間にわたるワークショップ、文化芸術体験の提供を実施している事例</li> <li>■ 国内での、都道府県が取組の主催を担う事例</li> <li>■ 国内での、高校生または若者(※20代前半までを想定)を対象とした事例</li> <li>■ 施策を推進するため、複数の取組を複合して実施している事例</li> <li>■ 取組開始時期が新しいもの等、現在の公開情報に取組の詳細や評価が現れていない事例</li> </ul> </li> </ul>
事例の詳細把握のための、ヒアリング調査や現場視察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の調査対象事例の一部に対しヒアリング調査や現場視察を実施。取組を効果的に実施するためノウハウを把握・整理</li> </ul>
子供の貧困問題等の課題に関連する支援団体へのヒアリング調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都内で活動している子供の貧困問題等への支援団体へのヒアリング調査を実施し、何らかの課題を抱えており支援を必要とする子供達や保護者の状況、必要な支援内容を適切に把握</li> </ul>
『TOKYOカルチャーデビュー』の取組への有識者からの提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別ヒアリングや委員会の設置を行い、子供の芸術文化体験やアクセス確保上の工夫、特に支援を必要とする子供の状況等に関する知見を有する有識者からの提言を得る機会を設定</li> <li>・子供を取り巻く環境を踏まえた観点や、今後の事業の方向性についても確認</li> </ul>

出所：MURCにて作成

#### ① 追加のデスク調査

本調査では、十分な情報が把握できなかった以下の事例については、追加のデスク調査による取組内容の把握が望まれる。

- ・ 長期間にわたるワークショップ、芸術文化体験の提供を実施している事例
- ・ 国内での、都道府県が取組の主催を担う事例
- ・ 国内での、高校生または若者(※20代前半までを想定)を対象とした事例
- ・ 施策を推進するため、複数の取組を複合して実施している事例
- ・ 取組開始時期が新しいもの等、現在の公開情報に取組の詳細や評価が現れていない事例

#### ② 事例の詳細把握のための、ヒアリング調査や現場視察

本調査から、対象事例について取組概要や取組内容、効果等の概要把握ができた。その結果、子供たちに芸術文化体験を効果的に届けるためには、子供たちが楽しみ、今後の成長の糧となるようなプログラム内容、子供たちや彼らが普段関わる保護者・教師等とのコミュニケーション上の工夫、対象者に適切に届けるための取組体制や関係者とのネットワーク構築、適切な情報発信等が重要であることが確認できた。

一方で、事業を効果的に推進するためのノウハウの詳細に関してはデスク調査では、十分な情報が得られていない。そのため、今回の調査対象事例の一部に対し、今後、ヒアリング調査や現場視察等の深堀調査を行い、詳細の把握を進める必要があると考える。

③ 子供の貧困問題等の課題に関連する支援団体へのヒアリング調査

本調査の結果、何らかの課題を抱えており支援を必要とする子供や保護者の中には、取組開始想定時には十分に想定していなかった理由により参加を諦めていた事例も確認された。

そのような子供、その保護者が直面している状況や必要とする支援を適切に把握し、今後の施策の方向性や具体的な取組内容へ活かすためには、都内で活動している子供の貧困問題等、子供が抱える課題に関連する支援団体へのヒアリング調査も有効なアプローチになると考える。

## 資料編

### 1. 調査対象事例一覧

主催者	取組名称	実施地域	分野	体験の仕方			取組種別	
				単発	複数回	長期	体験機会へのアクセス確保	多様な主体の連携
長野市	長野市子どもの体験・学び応援事業「みらいハッ！ケン」プロジェクト	長野県 長野市	芸術文化全般	●	●	●	●	●
一般社団法人 Ridilover	子どもの体験格差解消プロジェクト	日本全国	芸術文化全般	●			●	●
名古屋市、株式会社 Sonoligo (ソノリゴ)	次世代に向けた文化体験提供プロジェクト	愛知県 名古屋市	芸術文化全般	●			●	●
公益財団法人三井住友海上文化財団	三井住友海上文化財団 ときめくひととき	日本全国	音楽	●			●	●
株式会社JTBコミュニケーションデザイン	こころ羽(は)プロジェクト	日本全国	演劇・ミュージカル、音楽	●			●	●
仙台市、公益財団法人仙台市市民文化事業団	こどもの創造性を育むアウトリーチ事業	宮城県 仙台市	音楽、演劇・ミュージカル、伝統文化・芸能	●			●	●
NPO 法人 芸術家と子どもたち	ASIAS (エイジアス Artist's Studio In A School)	東京都	ダンス・舞踊、演劇・ミュージカル、音楽、美術	●	●		●	●
京都 :Re-Search 実行委員会	京都府地域文化創造促進事業	京都府	伝統文化・芸能、書道・習字、茶道・華道、音楽、美術等	●	●	●	●	●
認定 NPO 法人チャリティーサンタ	シェアシネマ	日本全国	映画	●			●	●
NPO 法人アイダオ、NPO 法人 上田映劇	うえだ子どもシネマクラブ	長野県 上田市	映画	●		●	●	●

主催者	取組名称	実施地域	分野	体験の仕方			取組種別	
				単発	複数回	長期	体験機会へのアクセス確保	多様な主体の連携
Barbican Centre	Barbican Centre による子供・若者向けのプログラム	イギリス、ロンドン市	芸術文化全般	●	●	●	●	●
パリ市	L'Art pour grandir	フランス、パリ市	芸術文化全般	●	●	●	●	●
ソウル市	文化弱者との同行事業	韓国、ソウル市	芸術文化全般	●	●	●	●	
スウェーデン文化学校評議会、文化学校	Kulturskolerådet(文化学校評議会)と Kulturskola(文化学校)による子供への芸術文化体験の提供	スウェーデン国内各地	芸術文化全般	●	●	●	●	

## 2. 調査対象事例 ロングリスト

調査対象事例を決定するための基礎調査を行い、国内事例 38 事例、海外事例 17 事例からなる、子供を主な対象とした芸術文化体験の機会創出事例のロングリストを作成した。

### (1) 国内事例(38 事例)

※本資料は、調査実施時点(2026 年1月時点)に、情報の出典に記載の内容を元に作成した。なお、出典のウェブサイトの URL 情報、有効性の最終確認時期は 2026 年 2 月である。

No.	主催者	取組名称	分野	実施時期	実施場所	取組概要	体験の仕方			取組種別		情報の出典1	情報の出典2	事例の特徴
							単発	複数回	長期	体験機会へのアクセス確保	多様な主体の連携			
1	鎌倉市 公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン(以下、「CFC」という) 株式会社三井住友フィナンシャルグループ ※3者協働	鎌倉市放課後エンパワーメント・プロジェクト	芸術文化全般	2025年度は、2025年5月～2026年3月	鎌倉市及び近隣での学習塾、スポーツ教室、文化・芸術活動教室	鎌倉市内の経済困窮家庭の小学校4年生～中学校3年生を対象に、学習、スポーツ、文化・芸術活動、自然体験・社会体験等といった地域の多様な学びの場で利用できる電子ポイント形式のクーポンを提供する取組。クーポンは、本事業に参画する学習塾、スポーツ教室、文化・芸術活動体験等、幅広い分野の参画パートナー先での支払いに利用できる。また、運営事務局の CFC では、ポイントの利用検討時のサポートも行っている。	●	●	●	●	●	公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン「鎌倉市放課後エンパワーメント・プロジェクト」 <a href="https://lp.cfc.or.jp/kamakura/">https://lp.cfc.or.jp/kamakura/</a>	鎌倉市「経済困窮世帯の小中学生に多様な学びの場で利用できるクーポンを提供」 <a href="https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kyoplan/kyouiku_coupon.html">https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kyoplan/kyouiku_coupon.html</a>	・官民 NPO の連携 ・小・中学生向け ・体験利用を含めた支援 ・地域との協働
2	長野市	長野市子どもの体験・学び応援事業「みらいハッ!ケン」プロジェクト	芸術文化全般	通年	長野市内のスポーツや文化芸術、自然体験、各種教室	長野市で、市内居住の小中学生を対象に、市の登録を受けたスポーツや文化芸術、自然体験、各種教室などの参加費、入会費、月謝等に利用することができるポイント(30,000 円相当)を、所得制限を設けずに配布する取組。 体験を通じて、子どもたちが自分の好きな活動を見つけ、自己肯定感を育みながら成長できる環境を提供することを目的としている。本事業では体験活動を必要とする子どもたちと、地域の活動をつなぐ役割を担う地域コーディネーターを配置しており、利用者や参画パートナーは体験活動の利用先やプログラム内容等の相談が可能である。	●	●	●	●	●	長野市子どもの体験・学び応援事業 運営事務局「長野市子どもの体験・学び応援事業「みらいハッ!ケン」プロジェクト」 <a href="https://nagano-hakken.jp/">https://nagano-hakken.jp/</a>	長野市「子どもの体験・学び応援事業「みらいハッ!ケン」プロジェクト」 <a href="https://www.city.nagano.nagano.jp/n115500/contents/p006162.html">https://www.city.nagano.nagano.jp/n115500/contents/p006162.html</a>	・官民 NPO の連携 ・小・中学生向け ・体験利用を含めた支援 ・地域との協働 ・地域コーディネーターによる活動体験の橋渡し
3	ハロカルホリデーすみだ実行委員会 ※CFC/一般社団法人 SSK/墨田区等が参加	ハロカルホリデーすみだ	芸術文化全般	2025 年は 7 月～10 月	東京都墨田区内各所	墨田区、一般社団法人 SSK、CFC 等からなるハロカルホリデーすみだ実行委員会では、墨田区の子どもたちに体験の機会を提供するため、「ハロカルホリデーすみだ」を実施。本事業では、体験を通じて、子どもたちが地域とつながり、自分らしさを発見することを目指す。 墨田区内の小中学生 3,000 人を対象に、職業体験やスポーツ・文化芸術、自然体験などの参加費として利用できる電子ポイントを 1 人あたり 5,000 円分助成。ポイントは、事業期間中に、墨田区地域の協働パートナー団体の協力のもと実施される体験プログラムで使用できる。	●			●	●	公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン「ハロカルホリデーすみだ」 <a href="https://www.city.sumida.lg.jp/kosodate_kyouiku/kosodate_site/km/harokarusumida2025.html">https://www.city.sumida.lg.jp/kosodate_kyouiku/kosodate_site/km/harokarusumida2025.html</a>	墨田区「ハロカルホリデーすみだ」 <a href="https://www.city.sumida.lg.jp/kosodate_kyouiku/kosodate_site/km/harokarusumida2025.html">https://www.city.sumida.lg.jp/kosodate_kyouiku/kosodate_site/km/harokarusumida2025.html</a>	・小学生向け ・ポイントを使用した文化体験 ・地域との協働
4	一般社団法人 Ridlover	子どもの体験格差解消プロジェクト	芸術文化全般	不定期※休暇時期に併せて実施	日本全国	子どもの体験格差解消プロジェクトでは、経済状況や家庭環境などによらず、全ての子どもたちが様々な体験を通して「自分らしく生きていくために必要な力」を育むことができる社会の実現を目指し、体験格差を抱える子どもたちに、新たな価値観や信頼できる大人との出会いを創出する体験機会を提供している。また、当事者調査等を実施し、体験格差の背景要因やよりよい体験機会に関して研究を重ねることで、困難を抱える子どもたちの体験機会の保障に関する政策提言・実装を目指している。	●			●	●	一般社団法人 Ridlover「子どもの体験格差解消プロジェクト」 <a href="https://experience-gap.studio.site/#boardmember">https://experience-gap.studio.site/#boardmember</a>	EdTechZine「慶応大・中室牧子氏ら4者、子どもの体験格差を解消し生きる力を育む『子どもの体験格差解消プロジェクト』を発足」 <a href="https://edtechzine.jp/article/detail/8805">https://edtechzine.jp/article/detail/8805</a>	・小学生～高校生向け ・宿泊を伴う旅行体験 ・プログラムの試行と調査研究を一体として実施

No.	主催者	取組名称	分野	実施時期	実施場所	取組概要	体験の仕方			取組種別		情報の出典1	情報の出典2	事例の特徴
							単発	複数回	長期	体験機会へのアクセス確保	多様な主体の連携			
5	名古屋市株式会社 Sonoligo(ソノリゴ)	次世代に向けた文化体験提供プロジェクト	芸術文化全般	2025年度4月から	名古屋市内の文化イベント会場・施設 ※一部市外でも実施	名古屋市と、名古屋大学発ベンチャー企業 Sonoligo は連携協定を締結し、市内外の様々な企業等からの寄付を活用し、市内の子どもたち(市内在住又は在学の大学生・大学院生を含む)に向けて多種多様な文化体験を無償で提供していくプロジェクトを実施している。サービス登録者に名古屋市から付与されるポイントの範囲内で、文化体験イベントのチケットを無料で入手できる事業及び、寄付企業等と連携して新たな文化体験イベントを企画・実施し、市内の子どもたちを無料で招待する事業を行っている。	●			●	●	名古屋市「次世代に向けた文化体験提供プロジェクトの推進(市民の皆様へ)」 <a href="https://www.city.nagoya.jp/kankou/bunka/1017105/1033512.html">https://www.city.nagoya.jp/kankou/bunka/1017105/1033512.html</a>	Sonoligo Inc. 「Sonoligo Future」 <a href="https://www.sonoligo.com/e/future">https://www.sonoligo.com/e/future</a>	・未就学児～高校生向け ・ポイントを使用した文化体験 ・地域企業等からの寄付の活用
6	千葉市教育委員会	千葉市アフタースクール	芸術文化全般	通年	千葉市内にある5つの小学校	千葉市の小学校の放課後において、保護者の就労状況にかかわらず、希望する全ての児童に「安全・安心な居場所」と子どもたち一人ひとりがアフタースクールで自分の「好きなこと」「得意なこと」を見つけ、自信や主体性を健全に育ていけるような環境・機会を提供する取組。地域住民や保護者などの参画も得ながら原則無料で提供される「体験プログラム」や、習い事に相当する継続的な学びの機会を提供する「継続プログラム」を提供。	●		●	●		テルウェル東日本株式会社「千葉市アフタースクール」 <a href="https://chiba-5kodorumu.jp/after_school/">https://chiba-5kodorumu.jp/after_school/</a>	千葉市「アフタースクール」 <a href="https://www.city.chiba.jp/kyoiku/shogaigakushu/shogaigakushu/after_school/">https://www.city.chiba.jp/kyoiku/shogaigakushu/shogaigakushu/after_school/</a>	・「子どもルーム(学童保育)」と「放課後子ども教室(習い事)」を一体的に運営 ・小学生向け
7	兵庫県教育委員会	体験教育	体験全般音楽	通年	兵庫県内各所	兵庫県内の幼稚園、小中高校などで実施。命を大切に作る心や思いやりの心、規範意識を養うなど、「心の教育」の充実を図るため、県民の参画と協働により、児童生徒の発達段階に応じた体系的な体験活動を推進。特定の学年を対象とした体験事業も実施しており、例えば中学1年生を対象としたオーケストラ鑑賞や、中学2年生を対象とした「トライやる・ウィーク」では地域や自然の中での一週間の多様な社会体験活動等を行っている。	●					兵庫県教育委員会「兵庫型「体験教育」魅力発信」 <a href="https://www2.hyogo-c.ed.jp/hpe/gimu/experientialeducation/miryoku/">https://www2.hyogo-c.ed.jp/hpe/gimu/experientialeducation/miryoku/</a>	兵庫県教育委員会「トライやる・ウィーク」リーフレット <a href="https://www2.hyogo-c.ed.jp/hpe/uploads/sites/8/2025/03/chuleaf.pdf">https://www2.hyogo-c.ed.jp/hpe/uploads/sites/8/2025/03/chuleaf.pdf</a>	・学校内での実践 ・未就学児～高校生向け ・地域との関わりを通じた取組 ・発達段階に応じた体験活動
8	札幌市札幌コンサートホール Kitara	Kitara ファースト・コンサート	音楽	毎年(2025年度は9～11月)	札幌コンサートホール Kitara	札幌市、札幌コンサートホール Kitara では、市内及び近郊の8市町村の小学6年生を対象に、音楽の授業の一環で本格的なオーケストラとパイプオルガンの演奏を鑑賞・体験する取組を実施している。札幌市の補助事業として、平成16年から開始され、これまで延べ25万人以上の子どもたちがコンサートを鑑賞している。本取組では、子どもたちがホールに足を運び、実際に目で見て、耳で聴いて音楽を体感することによって、音楽を鑑賞する楽しさを知り、一流の演奏にあこがれを抱くことや、マナーを含めたコンサートの楽しみ方を学ぶことを目的としている。	●			●	●	札幌コンサートホール Kitara「Kitara ファースト・コンサート」 <a href="https://www.kitara-sapporo.or.jp/about/special/education/first-concert.html">https://www.kitara-sapporo.or.jp/about/special/education/first-concert.html</a>	札幌交響楽団「青少年向け演奏会」 <a href="https://www.sso.or.jp/stakeholder/">https://www.sso.or.jp/stakeholder/</a>	・小学生向け ・文化施設での文化体験 ・近隣自治体への取組拡大
9	認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク	ライフサイクルコンサート 子どもとっしょにクラシック、幼稚園・保育園・こども園でのアウトリーチ、小学4年生はじめてのクラシック	音楽	不定期開催	晴海トリトンスクエア第一生命ホール	トリトン・アーツ・ネットワークでは、音楽でつながり、音楽とともに生きる社会の実現をビジョンとして、東京都中央区にある晴海トリトンスクエアの第一生命ホールを拠点とし、2つの柱「第一生命ホールでの公演事業」と「ホール周辺地域を中心としたコミュニティ事業」を軸に活動している。人生の様々なステージで音楽を身近に楽しんでいたきたいという気持ちから実施する0歳児～小学生を対象としたコンサートの企画や、中央区及びその近隣の教育機関や病院、福祉施設など普段生の芸術文化に触れる機会が少ない方へアーティストを派遣するアウトリーチ活動等を実施している。	●			●	●	認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク「コンサートシリーズ」 <a href="https://www.triton-arts.net/ja/concert/series/life-cycle/">https://www.triton-arts.net/ja/concert/series/life-cycle/</a>	認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク「コミュニティ活動」 <a href="https://www.triton-arts.net/ja/community/about/">https://www.triton-arts.net/ja/community/about/</a>	・未就学児～小学生向け ・低年齢向けの演奏会 ・文化体験のアウトリーチ活動

No.	主催者	取組名称	分野	実施時期	実施場所	取組概要	体験の仕方			取組種別		情報の出典1	情報の出典2	事例の特徴	
							単発	複数回	長期	体験機会へのアクセス確保	多様な主体の連携				
10	公益財団法人三井住友海上文化財団	「三井住友海上文化財団ときめくひととき」交流プラン	音楽	毎年(2025年度は25年5月～26年3月)	全国の文化会館、ホール、公民館、コミュニティセンター、学校等	三井住友海上文化財団では、1990年より地域における文化の振興を支援するため、都道府県、市町村との共同主催により、各地の公立文化ホール等を会場として、地域の住民へ廉価で質の高いコンサート事業を提供。取組の実施実績数は初年度から1,000件以上。公益目的事業として、費用の一部を財団が負担する。また、コンサート等の開催経験がない会場でも円滑な開催ができるよう、財団職員が必ず同行して公演運営のフォローも行う。また「交流プラン」として地域住民が出演演奏家とより身近に交流できる機会として、コンサートの開催に併せて、演奏家との共演や、小中学校向け鑑賞教室、未就学児向けの子どもミニコンサート等の、日頃とは異なる音楽体験や学びのプログラムも開催地の希望も踏まえ実施している。	●			●	●	公益財団法人三井住友海上文化財団「地域住民のためのコンサート「三井住友海上文化財団ときめくひととき」公演」 https://www.ms-ins-bunkazaidan.or.jp/concert/about_project/	公益財団法人三井住友海上文化財団「写真で見るこの一年～コンサート・交流プラン風景～」 https://www.ms-ins-bunkazaidan.or.jp/wp/wp-content/uploads/2025/07/R7-concert-R6photo.pdf	・地理的要因の体験格差解消 ・都道府県・市町村・財団との連携 ・未就学児～高校生向け ・運営面の支援 ・多様なプログラム ・長年の取組実績	
11	りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館	新潟市ジュニア音楽教室	音楽	通年	りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館	「ジュニア邦楽合奏団」「ジュニア合唱団」「ジュニアオーケストラ教室」の3つの教室を実施。小学校から高校生(入団は中学生まで募集)を対象に、比較的安価に上質な教室を提供している。			●	●		りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館「新潟市ジュニア音楽教室」 https://www.ryutopia.or.jp/activity/project-junior/	—	・小学生～高校生向け ・上質な音楽教室を安価に提供	
12	横浜美術館	子どものアトリエ	美術	通年	横浜美術館子どものアトリエ	美術館内の約631㎡のスペースを子どものアトリエとして、未就学児から小学生までを対象とした造形体験の場として利用。「自分の目で見て、自分の手で触れ、自分でやってみることを造形美術の基本と考え、子どもたちが自立心を育み、心身ともに健やかに成長してゆくことができるよう、様々な造形体験を提供。平日は横浜市内の教育機関と連携した団体プログラムを実施し、休日は親子や個人を対象としたプログラムを行う。プログラムの運営にあたっては、教師やボランティアとの協働、企業等外部機関との連携を通し、社会と広く有機的に関連した「子どもと美術」の拠点となることを目指す。	●			●	●	横浜美術館「みんなのフリーゾーン(10-3月)」 https://yokohama.art.museum/event/202510_03_freezone/	日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS TODAY「体が動くと、心が動く。横浜美術館の〈子どものアトリエ〉」 https://www.diversity-in-the-arts.jp/stories/9636	・未就学児～小学生向け ・美術館と教育機関、ボランティア、企業等外部機関との連携 ・長年の取組実績	
13	NTT 東日本株式会社 株式会社 NTT ArtTechnology 公益財団法人 NHK 交響楽団	音楽教育プログラム	音楽	2024年7、8月	2024年は福島市内中学校2校	NTT 東日本株式会社、株式会社 NTT ArtTechnology、公益財団法人 NHK 交響楽団の3団体が連携し福島市の協力の下、市内の中学校2校に対して、地域の子どもたちに音楽の楽しさを感じてもらおうと共に、自身の演奏スキルの上達を促す、音楽教育プログラムを展開している。音楽を通じた地域循環型社会の創出を目指すため、出張レッスン、リハーサル見学、オンラインレビューを実施。ICT×音楽による新しい体験を届ける。					●	●	公益財団法人 NHK 交響楽団ほか報道発表資料「N響とNTT 東日本グループが連携して音楽教育プログラムを展開」 https://www.ntt-arttechnology.com/news/release20240725.pdf	ルミアーチ「NHK交響楽団と取り組む「音楽教育」をととした挑戦。文化芸術が地域社会に与える影響は？」 https://lumiarch.ntt-east.co.jp/articles/202504_musicprogram/	・中学生向け ・企業とオーケストラによる連携

No.	主催者	取組名称	分野	実施時期	実施場所	取組概要	体験の仕方			取組種別		情報の出典1	情報の出典2	事例の特徴
							単発	複数回	長期	体験機会へのアクセス確保	多様な主体の連携			
14	ニッセイ文化振興財団	ニッセイ名作シリーズ	演劇・ミュージカル 音楽 ダンス・舞踊 ※前身・ニッセイ名作劇場はミュージカルのみ	通年	日生劇場、全国各地の劇場	全国各地で小学生を中心に、本格的な劇場でのミュージカル公演等へ無料招待している。学校単位で招待することで、多くの子どもたちに観劇体験を通じた「豊かな情操」や「多様な価値観」を育んでもらえるよう取り組んでいる。日生劇場公演では小学校3～4年生を対象とした劇団四季製作のミュージカルを、全国公演ではミュージカル・音楽劇・人形劇・物語付きクラシックコンサート等、ニッセイ文化振興財団製作の多彩なジャンルの作品を上演。	●			●		日本生命保険相互会社「地域社会や人々とのつながり 社会貢献取組」 <a href="https://www.nissay.co.jp/sustainability/contents/chiki/shakaikoken/">https://www.nissay.co.jp/sustainability/contents/chiki/shakaikoken/</a>	日生劇場「ニッセイ名作シリーズ」 <a href="https://www.nissaytheatre.or.jp/outline/business/masterpiece/">https://www.nissaytheatre.or.jp/outline/business/masterpiece/</a>	・企業による公益性の高い活動 ・小学生向け ・長年の取組実績 ・事業開始から累計 800 万名が参加
15	ニッセイ文化振興財団	日生劇場オペラ教室 (中高生向け芸術鑑賞教室)	演劇・ミュージカル	毎年開催	日生劇場	青少年の「豊かな情操」や「多様な価値観」を育むことを目的に、中高生にオペラを低廉な料金で提供。学校単位で応募・抽選のうえチケットを提供。事前学習教材と公演プログラムを無料で提供。	●			●		—	日生劇場「日生劇場オペラ教室」 <a href="https://www.nissaytheatre.or.jp/outline/business/operaforyoungaudiences/">https://www.nissaytheatre.or.jp/outline/business/operaforyoungaudiences/</a>	・中学生～高校生向け ・学校単位での申込み ・オペラを低廉な料金で提供
16	ニッセイ文化振興財団	日生劇場ファミリーフェスティバル	演劇・ミュージカル 音楽 ダンス・舞踊	7～8月 (毎年開催)	日生劇場	毎年夏休みに3歳以上、中学生以下を対象(各公演で推奨年齢を提示)に、クラシックコンサート、人形劇、バレエ、ミュージカルなどの親子向け公演を上演。幼稚園や小学生の子どもにもわかりやすく、大人も楽しめるような本格的な作品を選定。上演団体も一流の劇団・バレエ団・ダンスカンパニーを招聘。劇場周辺のお出かけスポットと合わせて来場してもらうよう、夏休みのイベントとして開催。	●			●		—	日生劇場「日生劇場ファミリーフェスティバル」 <a href="https://famifes.nissaytheatre.or.jp/">https://famifes.nissaytheatre.or.jp/</a>	・親子での参加 ・本格的な作品を上演 ・多様な学校関連団体が後援 ・夏休み期間の実施
17	株式会社JTBコミュニケーションデザイン	こころ羽(は)プロジェクト	演劇・ミュージカル 音楽	毎年(2024年度は24年4月～25年3月)	JCDが運営に携わる全国の公共文化施設	株式会社JTBコミュニケーションデザイン(JCD)が運営に携わる全国の公共文化施設にて、子どもとその家族に対し、演劇や音楽コンサートなどの文化芸術の鑑賞機会を提供する取組。プロジェクトを通じ、子どもたちに文化芸術を身近なものとして感じてもらう場を提供し、こころ豊かな社会を実現することを目指す。2023年度は、全国10カ所の公共施設で、ミュージカルや音楽界、著名人の講演会等で約360席を提供した。招待者のコーディネートは、自治体や教育機関、支援団体と連携して実施している。	●			●	●	JTBコミュニケーションデザイン「こころ羽(は)プロジェクト」 <a href="https://www.jtb.com.co.jp/service/areamanagement/facility/kokoro/">https://www.jtb.com.co.jp/service/areamanagement/facility/kokoro/</a>	JTBコミュニケーションデザイン「公共施設を活用した「こころ羽」プロジェクト～子どもたちの体験格差解消～」 <a href="https://www.jtb.com.co.jp/article/chiki/1568.html">https://www.jtb.com.co.jp/article/chiki/1568.html</a>	・親子での参加 ・自治体、教育機関、社協等と連携した支援が必要な方へのアクセス確保
18	磐田市	磐田子どもミュージカル	演劇・ミュージカル	通年(入団～修了公演まで1期2年間の育成)	磐田市民文化会館	1992年の「しずおか文化の祭典'92inいわた」を契機として、次世代を担う子どもたちに対し、舞台芸術を通じた人間育成を行うとともに、磐田市から全国へ向けた文化発信を行うことを目的に設立。入団～修了公演までの2年間で1期とし、歌唱・演技・舞踊の練習を月3回程度実施している。			●	●	●	—	磐田市「磐田子どもミュージカル」 <a href="https://www.city.iwata.shizuoka.jp/kurashi_tetsuzuki/bunka/1010135/1001657.html">https://www.city.iwata.shizuoka.jp/kurashi_tetsuzuki/bunka/1010135/1001657.html</a>	・ミュージカルの習い事を安価に提供 ・芸術を通じた人間育成 ・全国に先駆けて官民連携を導入

No.	主催者	取組名称	分野	実施時期	実施場所	取組概要	体験の仕方			取組種別		情報の出典1	情報の出典2	事例の特徴
							単発	複数回	長期	体験機会へのアクセス確保	多様な主体の連携			
19	仙台市、公益財団法人仙台市市民文化事業団	こどもの創造性を育むアウトリーチ事業	演劇・ミュージカル 音楽 伝統文化・芸能	2025年度は、25年9月～26年2月	仙台市内の幼稚園、保育所、認定こども園等の未就学児施設	仙台市、公益財団法人仙台市市民文化事業団では、文化芸術の楽しさに触れ、こどもたちの豊かな創造性を育むために、仙台市内の幼稚園、保育所、認定こども園等の未就学児施設にアーティストを派遣し、音楽、演劇、大衆芸能、伝統芸能等の鑑賞型・体験型のプログラムを実施している。対象は3歳以上の未就学児とし、派遣先施設(40施設程度)の募集を行う。また、本事業は、仙台市での音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点の開館や当該施設でのアウトリーチ事業の実施を見据えて、様々な人々とアーティストをつなぐコーディネーターの育成やアウトリーチの仕組みづくり、ネットワークの構築を図ることを目的のひとつとしている。	●			●	●	仙台市「芸術家派遣事業・こどもの創造性を育むアウトリーチ事業」 <a href="https://www.city.sendai.jp/bunkashinko/kurashi/manabu/bunka/sonota/hakenzigy.html">https://www.city.sendai.jp/bunkashinko/kurashi/manabu/bunka/sonota/hakenzigy.html</a>	公益財団法人仙台市市民文化事業団公開「2025年度「こどもの創造性を育むアウトリーチ事業」リーフレット」 <a href="https://ssbj.jp/wp-content/uploads/2025/05/2025-Outreach_leaflet.pdf">https://ssbj.jp/wp-content/uploads/2025/05/2025-Outreach_leaflet.pdf</a>	・未就学児を対象とした文化芸術鑑賞体験機会の提供 ・施設単位での申込み ・自治体・財団法人とコーディネート団体との連携
20	札幌市 さっぽろアートステージ 実行委員会	さっぽろアートステージ事業	ダンス・舞踊 演劇・ミュージカル 美術 音楽	毎年11月	札幌駅前通地下歩行空間、札幌市市民交流プラザ、札幌市内各劇場等	札幌市、さっぽろアートステージ実行委員会では、文化の日の属する11月を文化月間と位置付け、様々なアート系イベントを集中的に実施する事業を開催している。本事業は2005年度から開催され、札幌発の文化芸術活動に触れる機会を創出して市民の文化芸術への関心を高めるとともに、発表の機会が少ない団体や個人に発表の場を提供し、文化活動の担い手を育成することを目的としている。本事業では、高校対抗ダンスバトル、北海道中学演劇発表大会、キッズアートフェス、スクールアートライブ、さっぽろスクール音楽祭、子供向け人形劇の実施など、未就学児～高校生を対象とした多様な文化芸術分野の体験・発表の機会となっている。		●			●	さっぽろアートステージ実行委員会事務局「さっぽろアートステージ2025」 <a href="https://s-artstage.com/2025/">https://s-artstage.com/2025/</a>	さっぽろアートステージ実行委員会事務局「さっぽろアートステージ2025」リーフレット <a href="https://www.s-artstage.com/2025/sapporo_art_stage_2025.pdf">https://www.s-artstage.com/2025/sapporo_art_stage_2025.pdf</a>	・多様な主体が連携した芸術イベント ・未就学児～高校生向け ・子供の文化芸術活動発表の場
21	公益財団法人日本舞台芸術振興会	めぐろバレエ祭り	ダンス・舞踊	8月末(毎年開催)	めぐろパーシモンホール全館 八雲体育館	子ども向け公演を中心に、公開レッスンやバレエに関連したゲームやワークショップが立ち並ぶ「バレエ縁日」、ダンサーのトークショーやレッスンの体験、赤ちゃん連れ親子のダンスクラス、バレエ音楽のコンサートなど、バレエを多様な視点から取り入れ、身近に感じてもらう取組を実施。	●				●	公益財団法人日本舞台芸術振興会「めぐろバレエ祭り」 <a href="https://meguro-balletfes.com/">https://meguro-balletfes.com/</a>	—	・バレエに興味のある子供向け ・「お祭り」をテーマに多様な体験を用意 ・バレエ×地域アウトリーチ
22	公益財団法人日本舞台芸術振興会	上野の森バレエホリデイ	ダンス・舞踊	4月末～5月初め(毎年開催)	東京文化会館	バレエ公演のほか、ダンサーによるクロストークやバレエにちなんだチャーム等を作成するワークショップ、バレエ衣裳の展示、初心者向けバレエレッスンの体験など、バレエと関連する様々な催しが開催されるファミリー向けイベント。バレエ公演は子どもを対象としたものを上演する年もある。	●			●		公益財団法人日本舞台芸術振興会「上野の森バレエホリデイ」 <a href="https://balletholiday.com/">https://balletholiday.com/</a>	—	・バレエを起点とした多様なイベント ・子供向け公演
23	新国立劇場バレエ団	こどものためのバレエ劇場	ダンス・舞踊	7月(不定期に開催)	新国立劇場	次世代を担う子どもたちが優れたバレエ芸術に触れられる機会を提供する目的で実施。親しみやすいプログラムを取り上げ、オリジナル作品を制作するなど、子ども向けに徹底して上演する。 4歳から小学生の「こども」が対象。	●				●	新国立劇場「こどものためのバレエ劇場」 <a href="https://www.nnt.t.jac.go.jp/ballet/littlemermaid/">https://www.nnt.t.jac.go.jp/ballet/littlemermaid/</a>	新国立劇場「平成27年度新国立劇場こどものためのバレエ劇場」 <a href="https://www.nnt.t.jac.go.jp/ballet/15kids-cinderella/">https://www.nnt.t.jac.go.jp/ballet/15kids-cinderella/</a>	・未就学児～小学生向け ・親しみやすいプログラム

No.	主催者	取組名称	分野	実施時期	実施場所	取組概要	体験の仕方			取組種別		情報の出典1	情報の出典2	事例の特徴
							単発	複数回	長期	体験機会へのアクセス確保	多様な主体の連携			
24	新国立劇場バレエ団	こどものためのバレエ劇場エデュケーショナル・プログラム	ダンス・舞踊	5月(不定期に開催)	新国立劇場	「4歳から小学生の「こども」を対象に、鑑賞教育に主眼を置き、全幕上演に先立ったバレエのマイムの解説や音楽・楽器の説明、ストーリー展開のナレーション等を挟みながらプログラムの解説をするもの。	●				●	新国立劇場「こどものためのバレエ劇場 2026 エデュケーショナル・プログラム」 <a href="https://www.ntt.jac.go.jp/ballet/educational-programme-swanlake/">https://www.ntt.jac.go.jp/ballet/educational-programme-swanlake/</a>	—	・バレエ鑑賞が初めての子ども向け ・解説付きのバレエ公演 ・全幕公演に先立った解説
25	NPO法人 芸術家と子どもたち	ASIAS(エイジアス Artist's Studio In A School)	ダンス・舞踊 演劇・ミュージカル 音楽 美術	通年	都内の公立小中学校(特別支援学級含む)、特別支援学校、児童養護施設、矯正教育・医療・地域の現場等	ダンスや演劇、音楽などの分野で活動するプロの現代アーティストが、小・中学校などの学校教育の現場、児童福祉施設等に出向き、先生方と協力しながら、子どもたちが主体的に取り組む形のワークショップを実施している。本ワークショップでは「教える／教えられる」という一方向の関係性ではなく、アーティストと子どもたち、あるいは子どもたち同士が、双方向の関係性を築くとともに、作品をつくる(結果を出す)ことよりも、そのプロセスや、そこで行われるコミュニケーションを大切にしている。	●	●		●	●	NPO法人 芸術家と子どもたち「私たちの活動」 <a href="https://www.children-art.net/">https://www.children-art.net/</a>	NPO法人芸術家と子どもたち「2024年度活動報告書」 <a href="https://www.children-art.net/wp-content/uploads/2025/06/annualreport2024.pdf">https://www.children-art.net/wp-content/uploads/2025/06/annualreport2024.pdf</a>	・主に小学生～中学生向け ・学校等日常の場で開催するワークショップ ・コミュニケーションを大切に学び
26	仙台市、城下町せんだい日本伝統文化体験フェア実行委員会	城下町せんだい日本伝統文化体験フェア	伝統文化・芸能	2025年9月、11月	仙台市市民センター	小・中学生(実施会場によっては高校生も含む)を対象に、茶道、日本舞踊、箏・尺八、和菓子、華道、書道、居合、和装、畳・表具、切り絵、三味線、能楽などの伝統文化を体験できるフェア。市民センターなどで2日間にわたり開催される。	●				●	仙台市「「城下町せんだい日本伝統文化体験フェア in 七郷」を開催します」 <a href="https://www.city.sendai.jp/bunkashinko/kurashi/manabu/bunka/oshirase/ichiran/2025dentoubunkakyoushitsu2.html">https://www.city.sendai.jp/bunkashinko/kurashi/manabu/bunka/oshirase/ichiran/2025dentoubunkakyoushitsu2.html</a>	仙台市「未来へつなぐ 子供たちのための城下町せんだい日本伝統文化体験フェア in 七郷」リーフレット <a href="https://www.city.sendai.jp/bunkashinko/kurashi/manabu/bunka/oshirase/ichiran/documents/shichigouchirashi.pdf">https://www.city.sendai.jp/bunkashinko/kurashi/manabu/bunka/oshirase/ichiran/documents/shichigouchirashi.pdf</a>	・日本の伝統文化を一度に体験できるイベント ・無料で実施 ・小学生～中学生向け
27	さいたま市	こども向け歌舞伎講座付きシネマ歌舞伎上映会	伝統文化・芸能	年2回程度	MOVIXさいたま	将来の文化芸術の担い手である子どもたちに文化芸術への関心を高めてもらうことを目的として、歌舞伎俳優を講師に迎えるこども向けの歌舞伎講座と、シネマ歌舞伎の上映会をセットで開催している。	●				●	さいたま市記者発表資料「さいたま市&松竹株式会社連携事業「こども向け歌舞伎講座付きシネマ歌舞伎上映会」の参加者を募集します」 <a href="https://www.city.saitama.lg.jp/006/014/008/003/011/003/p089607_d/fil/20220628kodomokabuki.pdf">https://www.city.saitama.lg.jp/006/014/008/003/011/003/p089607_d/fil/20220628kodomokabuki.pdf</a>	—	・公共と民間の連携 ・小学生向け ・解説付き鑑賞

No.	主催者	取組名称	分野	実施時期	実施場所	取組概要	体験の仕方			取組種別		情報の出典1	情報の出典2	事例の特徴
							単発	複数回	長期	体験機会へのアクセス確保	多様な主体の連携			
28	長岡市児童クラブ	児童クラブと子ども教室に関する長岡市山古志地区の取組み	伝統文化・芸能	通年	新潟県長岡市山古志地区／児童会館	山古志地区子ども教室は、地域内の身近な場所で児童が習い事や教室に通う場や、山古志地区の伝統文化などを児童に継承する場をつくることを目的として、2015年6月から開設された。子ども教室は、児童クラブの活動時間内に並行して山古志体育館で実施されており、児童クラブに参加した山古志小学校全児童のうち希望者が参加できる。英会話・ピアノ等の習い事のほか、地域に伝わる草木を利用した水鉄砲のつくり方や、盆踊りの踊り方など地域の伝統文化を継承する教室が開催される。			●	●	山口 佳奈子, 坂田 寧代著「児童クラブと子ども教室に関する長岡市山古志地区の取組み」農業農村工学会誌, 2017年85巻8号 p. 771-774, (J-STAGE 掲載) https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjsidre/85/8/85_771/_article/-char/ja/	新潟県「長岡市放課後子ども教室」 https://www.pref.niigata.lg.jp/uploaded/attachment/98445.pdf	・子供の放課後居場所づくり ・習い事機会の提供 ・小学生向け ・地域での伝統文化の継承	
29	京都府、京都:Re-Search 実行委員会 ※事務局は京都府文化生活部文化芸術課	京都府地域文化創造促進事業	伝統文化・芸能 茶道・華道 音楽 美術 書道・習字等	通年	京都府内※主に京都市以外	「文化が活きる京都づくり」を目指し、府域一体で地域の文化芸術活動を促進するための事業。情報発信サイト「KYOTOHOOP」による情報発信、2022年度から府域に配置された「地域アートマネージャー」をはじめとした文化芸術の専門人材が中心になって企画する「地域プログラム」、次世代を担う子どもたちを対象とした「文化の心次世代継承事業」等を実施している。「文化芸術によるヒト・モノ(場)・コトを地域に繋ぎ・育む取組」を行い、地域に好循環を生み出すことを目指している。	●	●	●	●	京都府「京都府地域文化創造促進事業」 https://www.pref.kyoto.jp/bungei/bunkasouzousuishin.html	京都府「京都府地域文化創造促進事業 2024年度 実施報告」 https://kyotohop.jp/images/2025/03/KAC-report-WEB-open-mini.pdf	・都道府県単位での取組 ・事業内で複数の取組を展開 ・文化の心次世代継承事業は小学生～高校生向け ・専門人材による活動	
30	独立行政法人日本芸術文化振興会	歌舞伎鑑賞教室 「親子で楽しむ歌舞伎教室」	伝統文化・芸能	6～7月(毎年開催)	国立劇場(大劇場)、南座	親子先行予約・親子割引のある公演。前半に「歌舞伎のみかた」と題した解説がついており、後半の公演では現代語訳が字幕等で表示される、子ども向けのイラスト付き解説リーフレットが配布されるなど、初めて歌舞伎を鑑賞する人向けの工夫が多くなされている。	●			●	独立行政法人日本芸術文化振興会「親子で楽しむ歌舞伎教室」 https://www.ntj.jac.go.jp/schedule/kokuritsu_1/2025/77/	歌舞伎 on the web「国立劇場(大劇場)2023年07月 国立劇場第一〇四回歌舞伎鑑賞教室」 https://kabukidb.net/show/3954	・親子での体験 ・歌舞伎鑑賞が初めての人向け	
31	文化庁	伝統文化親子教室事業	伝統文化・芸能 書道・習字 茶道・華道 将棋・囲碁 食文化・郷土料理	通年	全国各所で開催	民俗芸能・工芸技術・邦楽・日本舞踊・茶道・華道などの伝統文化に関する活動を、計画的・継続的に体験・修得できる機会を提供。子どもたちに幅広い分野・地域の伝統文化等に親しむきっかけ作りの機会を提供する「教室参画事業」や対象となる年代の児童・生徒の人口が少ない地域、周辺地域で教室がない分野などにおいて、幅広い分野・地域の伝統文化等に親しむきっかけづくりの機会と、計画的・継続的な体験・修得の機会の両方を提供する「教室代替事業」なども含まれている。	●		●	●	文化庁「伝統文化親子教室事業」 https://oyakokyoshitsu.jp/	文化庁「伝統文化親子教室事業」 https://oyakokyoshitsu.com/user/info/Yn9pwodF6rc5XkDOWA4N7xlmROsCGVJflqEPtv2hgaUz31Z8jQyibHMeTKuBLS	・多種多様な伝統文化を体験 ・地理的要因による体験格差解消	

No.	主催者	取組名称	分野	実施時期	実施場所	取組概要	体験の仕方			取組種別		情報の出典1	情報の出典2	事例の特徴
							単発	複数回	長期	体験機会へのアクセス確保	多様な主体の連携			
32	認定 NPO 法人チャリティーサンタ	シェアシネマ	映画	2025 年は春休み～GW 期間、夏休み期間に実施	全国の映画館(デジタルギフトを使用して鑑賞できる施設)	長期休みに思い出を作れない子ども達のために、生活困窮家庭世帯の子ども(18 歳以下の高校生まで)を対象に、映画館での鑑賞体験の思い出を届ける活動を実施している。一般から寄付を募った資金を使用して、デジタルギフト形式映画観賞券の購入費用等に活用。子ども達の長期休み期間に合わせて対象者に抽選で鑑賞券を提供することで、映画館での鑑賞機会を届けている。映画会社とも提携しており、一部の映画館では、本事業のデジタルギフトを使用した子ども達に飲み物・ポップコーンが無料で提供されたほか、今後も新たな体験支援プランの実施が検討されている。	●			●	●	認定 NPO 法人チャリティーサンタ「シェアシネマ」 <a href="https://sharecinema.charity-santa.com/">https://sharecinema.charity-santa.com/</a>	映画ナタリー「“思い出不足”の親子に映画館での特別な体験を届ける、認定 NPO 法人チャリティーサンタの「シェアシネマ」とは」 <a href="https://natalie.mu/eiga/column/632812">https://natalie.mu/eiga/column/632812</a>	・未就学児～高校生向け(困窮世帯の親子が対象) ・親子での体験 ・NPO 法人と映画会社等との連携
33	NPO 法人アイダオ、NPO 法人 上田映劇	うえだ子どもシネマクラブ	映画	通年(映画上映:毎月2回程度、映画館での受入れ:平日水曜日、金曜日)	上田映劇	「うえだ子どもシネマクラブ」は、学校に行きづらい子どもたちに対して、学校や家庭以外の新たな居場所として映画館を活用する取組である。映画を通じ、地域の中で子どもたちが新しい学びの機会を創出することを目指す。主な事業としては、月2回の上映会や平日週2日の施設への子どもの受入れを実施している。毎月2回程度の映画上映会では子どもは無料(初回登録料として 500 円は必要)で映画鑑賞ができる。	●		●	●	●	「うえだ子どもシネマクラブ」ウェブサイト <a href="https://uedakodomocinema.localinfo.jp/">https://uedakodomocinema.localinfo.jp/</a>	NPO 法人 Greenz「映画館が子どもたちの居場所に。学校からちょっと離れて、自分の世界を広げていく「うえだ子どもシネマクラブ」」 <a href="https://greenz.jp/2023/05/31/uedakodomocinema/">https://greenz.jp/2023/05/31/uedakodomocinema/</a>	・第三の居場所の提供 ・小学生～高校生向け ・映画や地域の中の出会いを通じた学びを提供
34	公益財団法人さいたま市文化振興事業団	子ども華道・茶道体験教室	茶道・華道	7月	恭慶館	公益財団法人さいたま市文化振興事業団では、地域の華道・茶道団体を講師に迎え、小学生(回によっては未就学児も含む)を対象に体験教室を開催している。	●	●		●	●	公益財団法人さいたま市文化振興事業団「子ども華道・茶道体験教室」リーフレット <a href="https://saitama-culture.jp/sculwp/wp-content/uploads/kyokeikan20250723kosado.pdf">https://saitama-culture.jp/sculwp/wp-content/uploads/kyokeikan20250723kosado.pdf</a>	—	・体験教室 ・主に小学生向け ・地域団体が講師として協力
35	株式会社ソニーグループ	遠隔授業	科学・プログラミング	通年	日本全国	ソニーでは、STEAM 分野に関連する体験機会や多様な意見に触れる機会が少ない、地方や離島の小学校において、講師がいる東京と小学校間をオンラインで繋ぎ、プログラミング体験やデザイナー体験、音楽ワークショップ等の機会や取組後に子どもたちが講師に質問する機会を提供する取組を実施。小学校側の費用負担は無料で、授業で使用する機材等も提供される。2022 年度に 23 校、2023 年度に 25 校、2024 年度は 18 校で実施。	●			●	●	ソニーミュージックグループウェブサイト「遠隔授業」 <a href="https://www.sony.co.jp/sustainability/workshop/03/">https://www.sony.co.jp/sustainability/workshop/03/</a>	株式会社ソニーグループ「遠隔授業」リーフレット <a href="https://www.sony.com/ja/SonyInfo/csr/ForTheNextGeneration/kando/pdf/kando_enkaku_2024.pdf">https://www.sony.com/ja/SonyInfo/csr/ForTheNextGeneration/kando/pdf/kando_enkaku_2024.pdf</a>	・地理的要因による体験格差解消 ・小学生向け ・小学校と連携した支援が必要な方へのアクセス ・オンラインツールの活用

No.	主催者	取組名称	分野	実施時期	実施場所	取組概要	体験の仕方			取組種別		情報の出典1	情報の出典2	事例の特徴
							単発	複数回	長期	体験機会へのアクセス確保	多様な主体の連携			
36	株式会社 JSOL	こども IT 体験 (小学生向け『プログラミング体験』)	科学・プログラミング	年 5 回 程度	事業所近隣の小学校	2020 年度の小学校プログラミング教育必修化に併せ、事業所近隣の小学校向けにプログラミング教室を 2016 年度から無償で開催。オリジナルの教材作成、授業リハーサル、当日のプログラミング教室開催まで、参加メンバーによる主体的な活動を行っている。2016 年間からの累計で延べ 3,000 名以上のこどもたちが参加。プログラミング教室以外に、ロボット体験教室の開催や、プログラミング教材の無償提供など、地域に根差したこども向けの教育支援活動を継続的に実施。	●			●		株式会社 JSOL「こどもIT体験(小学生向け『プログラミング体験』)」 <a href="https://www.jsol.co.jp/company/sustainability/manage/wp/kids.html">https://www.jsol.co.jp/company/sustainability/manage/wp/kids.html</a>	—	・小学生向け ・企業と小学校との連携
37	株式会社 DeNA	プログラミング授業・体験機会の提供	科学・プログラミング	通年	公立小学校	株式会社 DeNA では、2014 年から武雄市内の公立小学校の1年生に向けた、プログラミング授業の提供開始を契機として、横浜市、渋谷区でも公立小学校でプログラミングの授業を実施している。また 2021 年には熊本県多良木町と「IT 人材育成事業に関する協定」を締結し、小学校でのプログラミング教育支援を開始した。これまでに 23,000 人以上に体験機会を提供するとともに、ウェブサイトにて小学校プログラミング授業のカリキュラム案も公開している。	●	●	●	●	●	株式会社 DeNA「次世代の IT 育成支援」 <a href="https://csr.dena.com/jp/programming-education/">https://csr.dena.com/jp/programming-education/</a>	プログラミングゼミ「資料ダウンロード」 <a href="https://programmingzemi.com/download.html">https://programmingzemi.com/download.html</a>	・小学生向け ・企業と自治体との連携 ・教育カリキュラム案の公開
38	渋谷区教育委員会 東急株式会社 株式会社サイバエージェント 株式会社 DeNA GMOインターネットグループ株式会社 株式会社MIXI	Kids VALLEY 未来の学びプロジェクト	科学・プログラミング	2025年は8月にプログラミングサマーキャンプを開催	渋谷区内	取組主体6社は、次世代に必要な資質・能力を持った人材を渋谷から輩出する土台づくりを進めることを目的として、2019年6月17日に「プログラミング教育事業に関する協定」を締結し、「Kids VALLEY 未来の学びプロジェクト」を推進している。本プロジェクトでは、渋谷区内の全公立小中学校を対象に、講師派遣や授業例提供などの授業支援を実施する。ほか、8月に子供とその保護者(渋谷区在住に限らず)が参加できる無料のイベント「プログラミングサマーキャンプ」を開催している。	●	●	●	●	●	「Kids VALLEY 未来の学びプロジェクト」ウェブサイト <a href="https://kidsvalley.jp/#about_us">https://kidsvalley.jp/#about_us</a>	Kids VALLEY「プログラミングサマーキャンプ2025」 <a href="https://coeteco.jp/kidsvalley_2025#a-kids-what">https://coeteco.jp/kidsvalley_2025#a-kids-what</a>	・小学校～中学生向け ・複数企業・教育委員会による連携

(2) 海外事例(17 事例)

※本資料は、調査実施時点(2026 年1月時点)に、情報の出典に記載の内容を元に作成した。なお、出典のウェブサイトの URL 情報、有効性の最終確認時期は 2026 年 2 月である。

No.	主催者	取組名称	分野	実施時期	実施場所	取組概要	体験の仕方			取組種別		情報の出典1	情報の出典2	事例の特徴
							単発	複数回	長期	体験機会へのアクセス確保	多様な主体の連携			
1	Barbican Centre	Barbican Centre による子供・若者向けのプログラム	芸術文化全般	通年	ロンドン市内 Barbican Centre	ロンドンの文化施設 Barbican Centre は、より多くの子供・若者が文化芸術にアクセスし、文化的な学びの機会を得るために、複数の取組を実施している。本取組では、子供たちに創造的なプロジェクトやワークショップ、Barbican Centre でのイベント・展示・講演への無償での参加、教師向けの研修での連携等を実施しているほか、16～25 歳向けの Young Barbican programme を拡充する方針である。 また、ロンドンの文化施設 Barbican Centre と Harris Federation(ロンドンとその近郊にある 55 の小中学校運営に関わる組織)は2年間のパートナーシップを締結し、ロンドンで支援が行き届いていない地区の 25 歳以下の子供たちに無料で文化体験機会を提供することを発表した。	●	●	●	●	●	Barbican「Barbican expands arts access for young people across London」 <a href="https://www.barbican.org.uk/our-story/press-room/barbican-expands-arts-access-for-young-people-across-london">https://www.barbican.org.uk/our-story/press-room/barbican-expands-arts-access-for-young-people-across-london</a>	—	・成長段階に合わせた多様なプログラム ・ワークショップやイベント企画を通じた若者の能力開発への支援 ・文化施設と学校運営組織の連携
2	パリ市	L'Art pour grandir	芸術文化全般	通年	パリ市内の保育施設、学校、学童保育、音楽院、図書館、博物館、劇場、コンサートホール、映画館等	パリ市内での芸術・文化教育分野を発展させるため、2009 年より開始したプログラム。本事業ではパリ市内の子供・若者に対し、無償で芸術・文化教育活動を提供し、芸術体験や作品への感性を育むこと、若者の成長を後押しし芸術的知識を提供することを目指している。取組の実施にあたっては、1,000 以上の施設や、200 以上の文化関連団体とも協力している。 本文化施策のもと、未就学児～中学生までの子供に対して、ワークショップや舞台鑑賞、アーティストとの交流、首都の文化施設への訪問などの、文化体験を提供している。本プログラムは学校の授業時間、課外活動、放課後活動等の様々な枠組みで実施されている。障害がある方やフランス語を学習途中の方も対象としているほか、本取組は市内の裕福でない地区で優先的に実施されている。	●	●	●	●	●	Paris「L'Art pour grandir」 <a href="https://www.paris.fr/pages/l-art-pour-grandir-2093">https://www.paris.fr/pages/l-art-pour-grandir-2093</a>	Paris「L'Art pour grandir」プログラム <a href="https://cdn.paris.fr/paris/2024/09/10/livret-a-pg-web-stGR.pdf">https://cdn.paris.fr/paris/2024/09/10/livret-a-pg-web-stGR.pdf</a>	・公共と民間、文化施設、芸術家等との連携 ・未就学児～中学生向け ・成長段階に合わせた多様なプログラム
3	ソウル市	文化弱者との同行事業	芸術文化全般	2023 年	ソウル	ソウル市では、経済的、身体的条件等に関わらず誰もが文化芸術を楽しむことができるよう、「2023 年文化弱者との共生」事業計画を開始した。本事業では、青少年・青年層、身体的な障害を抱える方、経済的困難を「方、ソウル市民を対象に、文化芸術へのアクセスを拡大するための取組を実施する。 子供向けの取組としては、2021 年から学校と連携して実施した小学校6年生向けの無料の芸術鑑賞事業の対象を小学校6年生～中学3年生まで拡大するほか、特別支援学校の生徒向けの博物館鑑賞支援事業、経済上の課題を抱えるも芸術的な才能を有する子供に向けた英才教育支援事業等がある。	●	●	●	●	●	Korea JoongAng Daily 「Seoul to host cultural programs for disadvantaged」 <a href="https://koreajoongangdaily.joins.com/2023/04/12/national/socialAffairs/korea-seoul-culture/20230412181419202.html">https://koreajoongangdaily.joins.com/2023/04/12/national/socialAffairs/korea-seoul-culture/20230412181419202.html</a>	ソウル特別市「青年文化パス、千ウオンの幸せ…『文化弱者との同行』を推進」 <a href="https://mediahub.seoul.go.kr/archives/2007593">https://mediahub.seoul.go.kr/archives/2007593</a>	・経済的・身体的・健康的要因の体格差解消 ・一事業内で複数の取組を展開

No.	主催者	取組名称	分野	実施時期	実施場所	取組概要	体験の仕方			取組種別		情報の出典1	情報の出典2	事例の特徴
							単発	複数回	長期	体験機会へのアクセス確保	多様な主体の連携			
4	CJP	CJP カルチャーカード	芸術文化全般	通年(9月から翌年パスの申込み開始)	オランダ国内の文化施設	オランダの文化関連非営利団体 CJP では、オランダ教育文化科学省からの委託を受けて、CJP カードをオランダ国内の中等教育学校、中等職業教育コース向けに発行している。本カードは学校単位でカード発行申込みを行い、学校側は本カードに割り当てられている予算の範囲内で、学校外の文化施設等で開催される芸術文化イベントに参加できる。ほか、カード保有者向けの文化施設、劇場、イベント等の割引も提供しており、学校・若者が参加する文化体験を選びやすい仕組みとなっている。また、公共交通機関とも連携した、割引価格のスクールツアーも学校向けに提供している。	●	●		●	●	「CJP」ウェブサイト <a href="https://www.cjp.nl/">https://www.cjp.nl/</a>	—	・主に中学生向け ・学校、文化施設と連携した文化芸術体験機会の提供
5	スウェーデン文化学校評議会、文化学校	Kulturskolerådet(文化学校評議会)と Kulturskola(文化学校)による子供への芸術文化体験の提供	芸術文化全般	通年	スウェーデン各地の文化学校	スウェーデンにある文化学校評議会は、政治や労働組合から独立した非営利団体として、文化学校を運営する自治体に相互協力のためのプラットフォームを提供している。全ての子供や若者が、質の高い、アクセス可能な文化の実践・活動を通じて、自己を成長させる平等な機会を持つことをビジョンに置く団体である。国の政策において、自治体の文化学校活動を代表する主体として、自治体の課題を提起、関係者と対話し、自治体の視点から問題解決に向けた取組を推進している。 スウェーデン内地方自治体の多くは、自治体や地域組織によって運営されている文化学校を有しており、子供、若者に音楽、美術、ダンス、演劇、メディア等の多様な文化芸術分野に関するプログラムを、子供たちにとってアクセスしやすい形で提供している。	●	●	●	●	Kulturskolerådet「Music and Arts Schools in Sweden」 <a href="https://www.kulturskoleradet.se/om-oss/english/">https://www.kulturskoleradet.se/om-oss/english/</a>	Kulturrådet Reporter <a href="https://www.kulturradet.se/kulturskolecentrum/statistik/rapporter-kulturskolan-i-siffror/">https://www.kulturradet.se/kulturskolecentrum/statistik/rapporter-kulturskolan-i-siffror/</a>	・文化学校評議会での取組を活かした、全国の文化学校での事業の展開 ・主に小学生～高校生向け ・成長段階に合わせた多様なプログラム	
6	Reaching for the Arts	Reaching for the Arts による芸術支援プログラム	音楽美術	通年	ニューヨーク市内の学校、芸術施設	非営利団体 Reaching for the Arts では、ニューヨーク市及び近郊の提携校の学生に対し、音楽分野を中心とした放課後の芸術教育プログラムを提供している。芸術に触れる機会が少ない子供たちが、芸術分野で活躍できるように、2,500人以上の2～8年生の子供たちに対し、合唱、ボーカルレッスン、ビジュアルアート、ギャラリーウォーク、弦楽器、ギター等の放課後プログラムを提供している。また一部のプログラムはオンラインからでも参加ができる。	●	●	●	●	「Reaching for the Arts」ウェブサイト <a href="https://www.reachingforthearts.org/">https://www.reachingforthearts.org/</a>	—	・非営利団体による活動 ・小学生～中学生向け ・音楽、美術教育の機会の提供	
7	MoMA	Lessons for Early Learners	美術	通年	MoMA、ウェブサイト	ニューヨーク近代美術館では、未就学児から小学校低学年向け、また小中学生の子供を対象に、鑑賞体験を支援するワークシート形式の教材をウェブサイトで公開している。テーマによって作成された本教材は、子供の美術学習カリキュラムを補完するほか、家族がアートに触れる機会を提供している。	●				MoMA「Lessons for Early Learners」 <a href="https://www.moma.org/teaching/lessons-for-early-learners">https://www.moma.org/teaching/lessons-for-early-learners</a>	MoMA「Lessons for Early Learners」リーフレット <a href="https://www.moma.org/momaorg/shared/pdfs/docs/learn/earlylearners/MoMA-Collections.pdf">https://www.moma.org/momaorg/shared/pdfs/docs/learn/earlylearners/MoMA-Collections.pdf</a>	・未就学児～中学生向け ・美術に関する教材の提供 ・オンラインでの支援	

No.	主催者	取組名称	分野	実施時期	実施場所	取組概要	体験の仕方			取組種別		情報の出典1	情報の出典2	事例の特徴	
							単発	複数回	長期	体験機会へのアクセス確保	多様な主体の連携				
8	Free Arts NYC	Free Arts NYC による芸術プログラム	美術	通年	ニューヨーク市内の学校、地域団体、企業等	ニューヨーク市を中心に活動する非営利団体 Free Arts NYC は、会的・経済的に困難な状況にある子供や若者を対象に、芸術を通じた教育・支援活動を行っている。6～12歳の子供が、大人と一緒に芸術鑑賞会や創作活動に参加する The Free Arts Day プログラム、7年生、11年生の子供を対象に作品ポートフォリオの制作や進学先検討等への課題解決をかねてメンターが支援する Portfolio Development、9～11年生にニューヨーク市にあるクリエイティブ企業へのキャリア訪問やワークショップ参加の機会を提供する Creative Lab、高校生・大学生へのインターン支援など、子供の成長に合わせた芸術分野のプログラムを提供している。	●	●	●	●		「Free Arts NYC」ウェブサイト <a href="https://www.freeartsnyc.org/">https://www.freeartsnyc.org/</a>	—	・非営利団体による活動 ・未就学児～若者向け ・成長段階に合わせた多様なプログラム ・芸術分野に関するキャリア支援	
9	Culture for Children	Art Immersion	美術	2～12月	フランス	Culture for Children では、デジタルアートセンターと協力して開発された体験型美術教育プログラムを提供している。教育優先地域にある小学校やフランス語を母語としない児童の受入れ小学校、農村地域にある小学校や、小児のための病院、医療施設に対し、交通費のみで参加できる、作品鑑賞、体験、創作活動、発表からなる多段階教育プログラムを提供している。	●			●		Culture for Children「Art Immersion (Paris)」 <a href="https://www.culture-enfance.org/en/our-programs/art-immersion-paris">https://www.culture-enfance.org/en/our-programs/art-immersion-paris</a>	—	・経済・地理的要因による体験格差解消 ・小学生向け	
10	Art In Schools	Art In Schools	美術	通年	イギリス国内の学校	Art In Schoolsでは、絵画、彫刻、写真、デジタルアート、ビデオアートなど、著名なアート作品を使用したビデオ番組「Sensations」と、それに付随する学習教材を学校に無料で提供している。ビデオ番組では曜日ごとに5作品を紹介し、1年間で約200点の作品が鑑賞できる。子供たちは番組の鑑賞を通じて、作品やその文脈を理解するとともに、気に入った作品への投票、有名作品をモチーフにした創作活動・コンテストを通じて、芸術に親しむことができる。				●	●	「Art In Schools」ウェブサイト <a href="https://www.artinschools.org.uk/">https://www.artinschools.org.uk/</a>	「Art In Schools」チラシ <a href="https://cdn.prod.website-files.com/6719fd737a4441aa5d9b1493/691496cfda1809a45a1c3020_Art%20In%20Schools%20Brochure%201125.pdf">https://cdn.prod.website-files.com/6719fd737a4441aa5d9b1493/691496cfda1809a45a1c3020_Art%20In%20Schools%20Brochure%201125.pdf</a>		・体験格差解消（美術分野、地理的要因） ・デジタル形式での鑑賞プログラム ・全国規模での支援の実施
11	国立アジア文化殿堂財団	子供創作実験室教育プログラム (어린이창작실험실 교육 프로그램)	美術 外国文化	通年	国立アジア文化殿堂	外国の絵本を題材としたワークショップや、外国文化を体験するピクニックなど、外国文化を起点とした多様なワークショップ・体験・創作活動を安価に提供。対象年齢は5、6歳から小学校6年生（プログラムによって異なる）で、一定期間内の土日などに複数回実施するものが多い。	●	●		●		国立アジア文化殿堂財団「子供創作実験室」 <a href="https://www.acc.go.kr/child/contents.do?PID=030101">https://www.acc.go.kr/child/contents.do?PID=030101</a>	—	・外国文化の体験活動 ・創作活動体験	
12	Esplanade theatre on the bay	Octoburst!	美術	10月（毎年開催）	PIP's PLAYbox (Esplanade内)、周辺小学校、自宅	シンガポールにあるホール等複合施設「Esplanade」内に設置されている「PIP's PLAYbox」が毎年10月に実施しているイベント。施設内で無料のワークショップを実施するとともに、自宅でできるアクティビティを基にした景品付きスタンプラリーの提供や創作活動キットの学校配布などが行われている。	●			●		Esplanade「Octoburst! 2025」 <a href="https://www.esplanade.com/whats-on/festivals-and-series/festivals/2025/octoburst?startDate=1-Oct-2025&amp;endDate=31-Oct-2025">https://www.esplanade.com/whats-on/festivals-and-series/festivals/2025/octoburst?startDate=1-Oct-2025&amp;endDate=31-Oct-2025</a>	—	・創作活動体験 ・ワークショップ形式での実施 ・無償での参加	

No.	主催者	取組名称	分野	実施時期	実施場所	取組概要	体験の仕方			取組種別		情報の出典1	情報の出典2	事例の特徴
							単発	複数回	長期	体験機会へのアクセス確保	多様な主体の連携			
13	Society of London Theatre (ロンドン市内の劇場の連盟、NPO)	Kids Week	演劇・ミュージカル	7～8月	ロンドン市内の劇場	大人1名の鑑賞につき17歳以下の子供1名が無料で劇場公演を楽しめるキャンペーン。2人目・3人目の子供はチケットが(子供料金の)半額となる。 一般向けのミュージカル・演劇、子供向けのミュージカル等が対象公演となる。		●		●		London Theatre「Kids Week」 <a href="https://officialondontheatre.com/kids-week/">https://officialondontheatre.com/kids-week/</a>	UZUZU「イギリスで子供と本場のミュージカル鑑賞がしたい！～子供料金が無料！キッズ・ウィークとは？【ロンドンの子育て】」 <a href="https://uzuzu-mag.jp/article/3507">https://uzuzu-mag.jp/article/3507</a>	・市内各地の劇場での共通キャンペーン ・家族で劇場を楽しむ取組
14	LEAP	LEAP(Learning through an Expanded Arts Program)による学校と連携した芸術教育プログラム	ダンス・舞踊 音楽 美術	通年	ニューヨーク市内の学校等	ニューヨーク市を中心に活動する非営利団体 LEAP では、芸術分野で恵まれない生徒たちに対し、芸術へのアクセスと公平性を促進するため、学校と提携した芸術体験プログラムを提供している。プログラムには、学校での授業をサポートするものと、放課後体験を支援するもの、アーティストによるライブパフォーマンスの実施灯がある。特に学校での授業サポートプログラムでは、LEAP のティーチングアシスタントと学校側が協力し、特定の芸術分野に特化したプログラムを開発したり、生徒の目標とニーズに合った独自のプログラムプランを作成したりする形式で実施している。	●	●	●	●	「LEAP」ウェブサイト <a href="https://www.leapnyc.org/">https://www.leapnyc.org/</a>	—	・非営利団体と学校の連携 ・未就学児～高校生向け ・授業カリキュラムへの支援 ・放課後プログラムの提供 ・長期的な支援の実施	
15	アンダルシア州政府文化・スポーツ局	La programación de Abecedaria	ダンス・舞踊 演劇・ミュージカル 音楽	通年	アンダルシア州の学校、劇場	スペインのアンダルシア州政府文化・スポーツ局では、子供や若者が舞台芸術や音楽に親しめるよう支援することを目的として、アンダルシア州の学校を対象とした、舞踊、演劇、人形劇等の公演プログラムを2001年より実施している。教育サイクルへの対応や、舞台スペースに合わせたショー内容の調整実施、各自治体の技術者との調整などを行い、できるだけ多くの学童に公演が届くよう工夫がなされている。2025年度は州内の30の自治体にて256回の公演を実施する予定である。	●			●	●	Masescena「El programa Abecedaria organiza 256 funciones de teatro, circo, música y danza para escolares de 500 centros escolares de Andalucía」 <a href="https://www.masescena.es/actualidad/el-programa-abecedaria-organiza-256-funciones-de-teatro-circo-musica-y-danza-para-escolares-de-500-centros-escolares-de-andalucia/">https://www.masescena.es/actualidad/el-programa-abecedaria-organiza-256-funciones-de-teatro-circo-musica-y-danza-para-escolares-de-500-centros-escolares-de-andalucia/</a>	Agencia Andaluza Instituciones Culturales「Abecedaria」 <a href="https://www.juntadeandalucia.es/organismos/aaic/areas/nuevos-publicos/abecedaria.html">https://www.juntadeandalucia.es/organismos/aaic/areas/nuevos-publicos/abecedaria.html</a>	・未就学児～高校生向け ・広域での公演事業の展開 ・学校と連携した子供向けの支援

No.	主催者	取組名称	分野	実施時期	実施場所	取組概要	体験の仕方			取組種別		情報の出典1	情報の出典2	事例の特徴
							単発	複数回	長期	体験機会へのアクセス確保	多様な主体の連携			
16	English National Ballet	My First Ballet	ダンス・舞踊	4～5月(毎年開催)	イギリス国内各所でツアー開催	3歳以上の初めてバレエを観る子供を対象に、ナレーション付き・短編のオリジナルバレエを比較的安価に提供。バレエ鑑賞の導入としつつ、家族で公演を楽しめる機会を提供することで、次世代への鑑賞文化の継承を期待している。解説付きバレエの先駆けと思われる。	●			●		English National Ballet「My First Ballet: Cinderella」 <a href="https://www.ballet.org.uk/production/my-first-ballet-cinderella/">https://www.ballet.org.uk/production/my-first-ballet-cinderella/</a>	English National Ballet「My First Ballet: Swan Lake」 <a href="https://www.englishnationalballet.org.uk/event/my-first-ballet-swan-lake/">https://www.englishnationalballet.org.uk/event/my-first-ballet-swan-lake/</a>	・バレエ鑑賞が初めての子供向け ・解説付きでのバレエ公演 ・安価での提供
17	La cinémathèque française	La cinémathèque françaiseの青少年向けプログラム	映画アニメ	通年	La cinémathèque française	La cinémathèque françaiseでは、3歳～26歳までを対象(一部プログラムは対象が学生、または低年齢まで)にした、青少年向けのワークショップや、学校の休暇期間中のインターンシッププログラムを開催しているほか、学生向けの無料講義や映画鑑賞料金の割引制度、施設のオープンで一等の機会を設けている。	●	●		●		La cinémathèque française「Les Studios : stages et ateliers Jeune public」 <a href="https://www.cinematheque.fr/cycle/les-stages-et-ateliers-jeune-public-785.html">https://www.cinematheque.fr/cycle/les-stages-et-ateliers-jeune-public-785.html</a>	—	・未就学児～高校生向け ・多様な子供向けワークショップ、プログラムの開催



**令和7年度  
子供の芸術文化体験に関する国内外事例調査**

**報告書**

**令和8年3月**

発行:公益財団法人 東京都歴史文化財団  
アーツカウンシル東京

作成:三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社